

日立組込み用コントローラ

HF-W400E

取扱説明書

マニュアルはよく読み、保管してください。

- 操作を行う前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
- このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

ユーザーズ
マニュアル

はじめに

このマニュアルは、日立組込み用コントローラHF-W400E（以下、この装置と称す）を操作する人（オペレーター）が日常運用にあたり必要となる各種装置の操作、調整についての記述および、OSに関するセットアップ手順について記述したものであり、下記のプレインストールOSを対象としています。

- ・Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB (64bit)
- ・Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSC (64bit)

以降のページでWindows® 10と表記しているものは、上記のOSを示します。

分冊構成

日立組込み用コントローラHF-W400E のマニュアルは、次のような構成となっています。

- 安全にご使用いただくために
- 取扱説明書（本書）
- RAS機能マニュアル

マニュアル構成

このマニュアルは、次のような構成となっています。

はじめに

重要なお知らせ

安全にお取り扱いいただくために

注意事項

目次

第1章 お使いになる前に

第2章 操作

第3章 セットアップ

第4章 OS動作上の特記事項

第5章 仕様

第6章 点検・保守

第7章 リカバリDVDによる出荷状態への復元

第8章 保守操作

第9章 トラブルシューティング

付録 有寿命部品の取り扱い方について

修理依頼書兼御預かり書

改訂履歴

2021年	12月	(第1版)	WIN-2-5001 (廃版)
2022年	3月	(第2版)	WIN-2-5001-01 (廃版)
2022年	9月	(第3版)	WIN-2-5001-02 (廃版)
2025年	9月	(第4版)	WIN-2-5001-03

お問い合わせ先

この製品に関する情報は、下記ホームページで提供しています。
また、この製品に関するお問い合わせも下記ホームページからお願いします。
URL: <https://www.hitachi-ip.co.jp/products/hfw/>

商標について

- Microsoft®、Windows®、Hyper-V®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- インテル®、Intel®、Intel® Core™は、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- DisplayPort、DisplayPort Certified Logoは、Video Electronics Standards Associationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Magic Packet™は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
- 上記以外にこのマニュアルに記載されている他社製品名（ソフトウェア、ハードウェア）は、各社の登録商標、商標、または商品です。
- この製品の一部ソフトウェアに組み込まれている圧縮・解凍エンジンはZlibを使用しています。著作権表示は以下のとおりです。

Zlib ver 1.2.3 Copyright © 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

All Rights Reserved, Copyright © 2025, Hitachi Industrial Products, Ltd.

重要なお知らせ

この製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

- このマニュアルの一部または全部を無断で転写したり複写したりすることは、固くお断りいたします。
- このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。

通 知

この装置は、障害の種類によっては大切なファイルを消失することがあります。また、この装置の障害だけでなく、使用中の停電、誤操作などによってもファイルを消失することがあります。このような状態になった場合には、ファイルの回復はできません。そのような事態に備えて日常業務の中にファイルのセーブ作業を組み入れ、計画的にファイルのバックアップをお取りください。

● 高調波適合について

この装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しています。

● 電波障害自主規制について

この装置は、一般財団法人 VCCI協会の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

記憶容量の計算値についての注意

< 2ⁿ計算値の場合 (メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など) >

1KB (キロバイト) = 1,024バイトの計算値です。

1MB (メガバイト) = 1,048,576バイトの計算値です。

1GB (ギガバイト) = 1,073,741,824バイトの計算値です。

1TB (テラバイト) = 1,099,511,627,776バイトの計算値です。

< 10ⁿ計算値の場合 (ディスク容量など) >

1KB (キロバイト) = 1,000バイトの計算値です。

1MB (メガバイト) = 1,000²バイトの計算値です。

1GB (ギガバイト) = 1,000³バイトの計算値です。

1TB (テラバイト) = 1,000⁴バイトの計算値です。

< マニュアルで使用する用語 >

このマニュアルで使用する用語について、以下のとおり定義します。

- ・インストール：ソフトウェアをコンピュータのストレージに組み込むことです。
- ・セットアップ：ソフトウェアがコンピュータで使用できるように環境を設定することです。
- ・仮想マシン：Virtual PCやHyper-V®より提供される仮想ハードウェア環境です。



安全にお取り扱いいただくために

● 警告表示について

装置を操作する前に、以下に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って実施してください。
- 装置やマニュアルに表示されている安全に関する注意事項は特に注意を払い、必ず守ってください。これを怠ると、人身への傷害や装置を含む財産の破損を引き起こす恐れがあります。
- 安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「危険」、「警告」、「注意」、および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用いられます。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルの後に続く安全に関するメッセージに従ってください。



危険：死亡または重大な傷害を引き起こす可能性が高い差し迫った危険の存在を示すのに用いられます。



警告：死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。



注意：軽度の傷害または中程度の傷害を引き起こす恐れのある潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。

通知：これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起すおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。

なお、「留意事項」という見出し語は、装置の取り扱いおよび操作上の注意書きを示すのに用いられます。

- マニュアルに記載されている以外の操作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、保守員をお呼びください。
- 装置を操作する前に、このマニュアルをよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。
- このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、使いやすい場所に保管してください。
- 装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分に検討されたものですが、それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

● 共通的な注意事項

以下に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

< 警告 >

- この装置は、人命に直接関わる安全性を要求されるシステムに適用する目的で製造されたものではありません。このような用途に使用する可能性がある場合には、弊社営業窓口へ相談してください。
- 万一、発煙・異臭などがあった場合は、装置への給電を遮断し、本体背面のDC入力コネクタから電源ケーブルを抜いてご購入先または保守員に連絡してください。故障状態のままお使いになると火災や感電の原因になります。
万一、この装置を落としたりケースを破損した場合は、本体背面のDC入力コネクタを抜いて保守員に連絡してください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
また、開梱時および持ち運ぶ時は衝撃を与えないでください。
- 火災や感電の原因になりますので、この装置を改造しないでください。また、改造により発生した結果については、一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 火災の原因となる場合がありますので、ご使用の際は必ず防じんフィルタを取り付けてください。また、防じんフィルタは必ず純正品を使用してください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

< 注意 >

- ・ 装置が落下または転倒するokeがをする恐れがあります。装置の運搬時には十分注意してください。
- ・ この装置を開梱する時や持ち運ぶ時に指をはさんだり、ぶつけたりしてokeがをしないように注意してください。
- ・ 手や指のokeがの原因となる場合がありますので、防じんフィルタを掃除／交換する際には、必ずOSをシャットダウンし、本体背面のDC入力コネクタから電源ケーブルを抜いて行ってください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

< 通知 >

- ・ この装置単独ではシステムの安全は確保できません。この装置が万一故障したり誤動作やプログラムに欠陥があった場合でも、ご使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、人身事故・重大な災害に対する安全対策のための保護・安全回路を外部に設けるなど、システム的な保護処置を施した設計としてください。
- ・ ハードウェアの取り付け・交換などの作業時には、アースバンドを装着し静電気対策を行ってください。
- ・ ねじの締め付け・取り外しの際には、ねじ頭の大きさ、種類に合った工具を使用し、ねじ頭を潰さないよう注意してください。
ねじの締め付け時には、ねじ山の破壊防止のため、無理な力を加えずねじ穴に対してまっすぐに締め付けてください。
- ・ この装置は、弊社指定のハードウェアと組み合わせて使用することを前提に評価されています。したがって、弊社が指定しているハードウェアの取り付け・交換にあたっては、弊社指定のハードウェアを使用してください。それ以外のハードウェアを使用した場合の動作は、保証できません。
- ・ 故障の原因になりますので、この装置をじんあいの多い所や、腐食性ガスのある環境で使用することは避けてください。
- ・ この装置を開梱する時や持ち運ぶ時は衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
- ・ この装置の前面および背面には、吸排気孔のためのスペースを必ず確保してください。温度上昇による故障または短寿命の原因になります。また、保守作業のための保守スペースが必要です。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

- 弊社指定の基本ソフトウェアを使用してください。それ以外の基本ソフトウェアを使用した場合の動作は、保証できません。
- 非常遮断（OSのシャットダウン処理を行わずに電源ケーブルを抜いたり、ブレーカを切ったり）をすると、OSやアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。何らかの異常が発生し緊急に遮断しなければならないとき以外は、絶対に実施しないでください。
- 電源の供給元で電源を遮断した場合、システムを自動で復旧できないことがありますので、注意してください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

● このマニュアル内の注意事項

< 「 警告」と表示されているもの >

- この装置について（危険電圧）

感電による死亡または重傷の恐れがあるため、この装置およびACアダプタ（オプション）の分解・改造を行わないでください。

（1-3ページ）

- ACアダプタ（オプション）の電源ケーブルは付属のケーブルを使用してください。それ以外のケーブルを使用すると機器故障、火災、および感電の原因となる場合があります。

また、AC 125Vを超える電圧で使用される場合は、使用される入力電圧に対応した電源ケーブルをユーザー自身でご用意ください。

- 電源ケーブルのプラグをコンセントに接続する際は、必ずアース端子（接地極）が接地されたコンセントを使用してください。また、あわせて漏電ブレーカを設置してください。
上記を実施しない場合、火災および感電の恐れがあります。
- 感電や機器故障の原因となりますので、接地極のない2極差し込みプラグは使用しないでください。

（1-11ページ）

- 装置の吸排気孔をふさぐと装置内の温度が上昇して火災や故障の原因となりますので、設置スペースを確保してください（「1. 5. 2 設置条件」参照）。

（2-1ページ）

- 万一、発煙・異臭などがあった場合は、装置への給電を遮断し、本体背面のDC入力コネクタから電源ケーブルを抜いてご購入先または保守員に連絡してください。故障状態のままお使いになると火災や感電の原因となります。

（2-4ページ）（9-1ページ）

- 防じんフィルタは必ず装置に取り付けてください。防じんフィルタを取り付けない場合、じんあいが装置内に侵入し、短絡火災が発生する恐れがあります。

（6-1ページ）（6-15ページ）



安全にお取り扱いいただくために（続き）

- 感電や機器故障の原因となりますので、作業の際には必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。
(6-8ページ)
- メモリの取り付け／取り外しの際は、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。
電源を入れたままメモリの取り付け／取り外しをすると、感電や発火する恐れがあります。
(6-10ページ)



安全にお取り扱いいただくために（続き）

< 「 注意」と表示されているもの >

- ファンについて（回転物注意）

保守員以外はファンを外さないでください。動作中のファンの回転部に手や物がはさまれてけがの原因となります。

(1-3ページ)

- この装置を高温で保管する場合、直接素手で触らないように注意してください。
装置が熱くなるため、やけどをする恐れがあります。

(1-10ページ)

- 装置を机上に縦置きする場合は、必ず製品に同梱されている縦置きスタンドを取り付け、水平な場所に設置してください。縦置きスタンドを取り付けない場合、装置が転倒・落下し、けがをする恐れがあります。

(1-11ページ) (6-16ページ)

- 手や指のけがの原因となる場合がありますので、防じんフィルタを掃除／交換する際には、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

(6-1ページ)

- 取り付け／取り外しの際、内部の部品に直接、素手で触らないでください。熱くなっているためやけどをする恐れがあります。また、内部の部品を傷つける恐れがあるため、故障の原因となります。

(6-8ページ)

- 本体カバーを取り付ける際に、本体カバーの内側に指を入れないでください。指をはさみ、けがをする恐れがあります。

(6-9ページ)



安全にお取り扱いいただくために（続き）

- SSDの取り付け／取り外しは、突起部で手指を切らないように注意してください。
(6-13ページ)
- 装置を廃棄する際は手順に従いリチウム電池を取り外してください。
- リチウム電池の交換は修理にて対応いたしますので、弊社担当営業へご連絡ください。
(6-17ページ)
- JPソケットの取り付け／取り外しの際、内部の部品に直接、素手で触らないでください。熱くなっているためやけどをする恐れがあります。また、内部の部品を傷つける恐れがあるため、故障の原因となります。
(6-19ページ)



安全にお取り扱いいただくために（続き）

< 「通知」と表示されているもの >

- この装置は、障害の種類によっては大切なファイルを消失することがあります。また、この装置の障害だけでなく、使用中の停電、誤操作などによってもファイルを消失することがあります。このような状態になった場合には、ファイルの回復はできません。そのような事態に備えて日常業務の中にファイルのセーブ作業を組み入れ、計画的にファイルのバックアップをお取りください。

(iiiページ) (C-7ページ)

- この装置を移動するときには、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。SSDなどの故障の原因となります。
- 輸送や運搬時の梱包には納入時の梱包材を使用してください。これ以外の梱包材を使用した場合、機器を損傷することがあります。
- 破損またはつぶれた梱包材は、輸送や運搬には使用しないでください。機器を損傷することがあります。

(C-1ページ)

- 装置およびSSDの故障の原因となりますので、SSDの活線挿抜は絶対に行わないでください。SSDの交換は、必ずOSをシャットダウンし電源ケーブルを抜いた状態で行ってください。
- USBポートを使用するときには、USBコネクタの挿入方向を確認してゆっくり挿入してください。誤って挿入するとUSBポート損傷の原因となります。
- 動作中のアプリケーションへの影響がありますので、オンライン運転中（システム稼働中）にUSB機器の挿抜をしないでください。

(1-3ページ)



安全にお取り扱いいただくために（続き）

- この装置を移動するときには、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。SSDなどの故障の原因となります。
- 輸送や運搬時の梱包には納入時の梱包材を使用してください。それ以外の梱包材を使用した場合、機器を損傷することがあります。
- 破損またはつぶれた梱包材は、輸送や運搬には使用しないでください。機器を損傷することがあります。

(1-11ページ) (6-1ページ)

- 電源ケーブルの近くにインターフェースケーブル等（他のパソコンなどの機器ケーブル）を配線しないでください。機器故障および誤動作の原因となります。
- インターフェースケーブルの挿抜は、この装置と相手機器の電源が入っている状態で行わないでください。電源電圧のショートなどによる障害の原因となります。
この装置の電源が入っている状態でインターフェースケーブルが外れた場合は、OSをシャットダウンし電源ケーブルを抜いてください。
OSをシャットダウンせずにいきなり電源ケーブルを抜くと、ファイルの内容を破壊する恐れがあります。
- 外部接点用のケーブルがある場合は、必ず外部接点用のコネクタ（EXT）に接続してください。このケーブルは、リレー負荷を通して最大DC 40Vが印加されている可能性があり、誤って他のコネクタに接続しますと故障の原因となります。

(1-14ページ)

- 非常遮断（OSのシャットダウン処理を行わずに電源ケーブルを抜いたり、ブレーカを切ったり）をすると、OSやアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。何らかの異常が発生し緊急に遮断しなければならないとき以外は、絶対に実施しないでください。
- 電源の供給元で電源を遮断した場合、システムを自動で復旧できないことがありますので、注意してください。

(2-4ページ)



安全にお取り扱いいただくために（続き）

- 防じんフィルタを水洗いした場合は、防じんフィルタを完全に乾かしてから、装置に装着してください。湿ったままで装置を動作させると故障の原因となります。また、洗剤を使用する際には、必ず中性洗剤を使用してください。その他の洗剤を使用しますと、防じんフィルタの機能を失う可能性があります。

(6-2ページ)

- メモリの取り付け／取り外しの際は、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。電源を入れたままメモリの取り付け／取り外しを行うと、感電や発火する恐れがあります。

(6-10ページ)

- メモリとコネクタは取り付け方向が決まっています。取り付け方向を間違えないようにしてください。間違えて取り付けた場合、故障の原因となります。
- DIMM1スロットとDIMM2スロットに異なる容量のメモリを実装しないでください。メモリを認識できない原因となります。

(6-11ページ)

- SSDは一時的であっても静電気防止対策をしたクッションなど、衝撃を吸収するもの上に載せてください。机などの硬いものの上に直接置くと衝撃によって故障やデータ破壊、短寿命化の要因となります。
- 装置の電源が入った状態でのSSDのねじ取り外し、SSDの活線挿抜は絶対に行わないでください。装置およびSSDの故障の原因となります。
- SSDの交換は必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。
- SSDの取り付け／取り外し作業は、故障時の交換など必要時以外は行わないでください。頻繁に行いますと機器故障の原因となります。
- SSDは確実に装置に取り付けてください。半接触の状態やねじの取り付けもれは、故障の原因となります。
- SSDを取り付け／取り外す際は、実装するSSDおよび実装されているSSDに衝撃を与えないよう注意してください。衝撃を与えると故障する恐れがあります。

(6-13ページ)



安全にお取り扱いいただくために（続き）

- リカバリDVDは、出荷時のハードウェア構成で作成したイメージファイルを保存したDVDです。そのため、ハードウェア構成が出荷時と異なる場合、復元作業を行ってもOSが正常に起動しない可能性があります。リカバリDVDを使用した復元は、外部記憶装置をすべて取り外し、出荷時のハードウェア構成で行ってください。
また、リカバリDVDを使用した場合にはシステムドライブのすべてのデータが消去されますので、必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
尚、本製品はDVDドライブを搭載しておりませんので、あらかじめお客様に外付けDVDドライブをご準備いただく必要があります。

(7-1ページ)

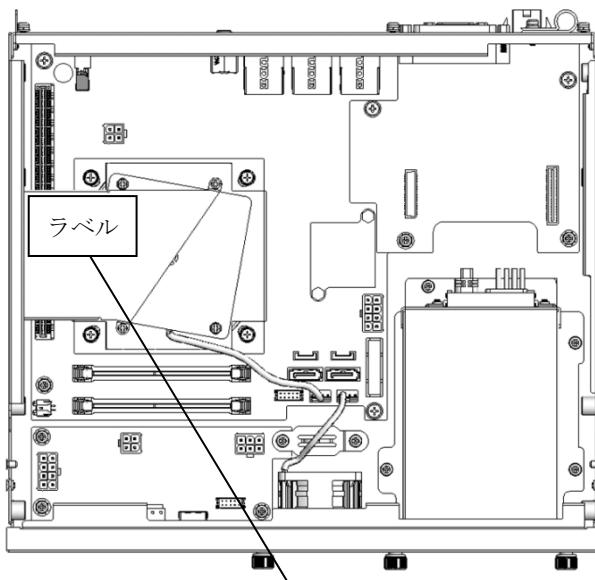
- 有寿命部品は推奨交換周期を超えて使用しないでください。部品劣化によって故障の原因となることがあります。

(A-1ページ)

! 安全にお取り扱いいただくために（続き）

● **!** 警告ラベルについて

警告ラベルは、装置の以下に示す個所に貼り付けられています。

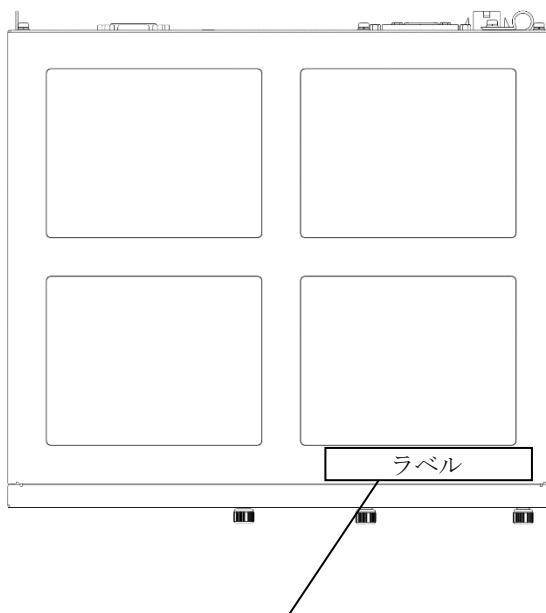




安全にお取り扱いいただくために（続き）

● 通知ラベルについて

通知ラベルは、装置の以下に示す個所に貼り付けられています。



通知 NOTICE

当您更换驱动器设备的启动过程中，系统数据将被销毁。请参阅用户手册。
當您更換驅動器設備的啟動過程中，系統資料將被銷毀。請參閱使用者手冊。
装置の電源が入った状態でドライブの挿抜を実施すると、システムデータ破壊にいたりますので、取扱説明書に従いドライブの交換を実施してください。
Drive replacement during startup of the device corrupts the system data. See User's Manual.



安全にお取り扱いいただくために（続き）

● 装置の廃棄

装置を廃棄するときは、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の発行が義務付けられています。詳しくは、各都道府県産業廃棄物協会に問い合わせてください。

● 欧州電池指令（2006/66/EC）に基づく表示

EU



このシンボルマークは、欧州連合内の国において有効です。このシンボルマークは、EU指令2006/66/ECの第20条「最終ユーザーへの情報」および付属書IIで指定されています。

この装置には、リチウム電池を搭載しております。電池を取り外すときは、「6. 5 リチウム電池の取り外し」に従い実施してください。

欧洲連合では使用済みの電池および蓄電池に対して分別収集システムがありますので、各地域の収集／リサイクルセンターで電池および蓄電池を正しく処理してください。

注意事項

1. 装置について

通 知

- この装置を移動するときには、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。SSDなどの故障の原因となります。
- 輸送や運搬時の梱包には納入時の梱包材を使用してください。これ以外の梱包材を使用した場合、機器を損傷することがあります。
- 破損またはつぶれた梱包材は、輸送や運搬には使用しないでください。機器を損傷することがあります。

(1) 輸送条件

<使用上のお願い>

- ・輸送や運搬は、専用梱包箱（納入時の梱包箱／梱包材）に入れて行ってください。装置を他の筐体に組み込んだ状態での輸送や運搬は、装置に与える振動、衝撃が装置の仕様値内に入るよう養生してください。
- ・納入時の梱包箱／梱包材は、輸送や運搬時に使用しますので必ず保管してください。

(2) 接続ケーブルについて

<使用上の注意>

- ・ケーブルを強く引っ張らないでください。
- ・VCCI、FCC、CEマーキングに適合するためには、この装置に接続するインターフェースケーブル（ディスプレイインターフェースケーブル、キーボードインターフェースケーブル、マウスインターフェースケーブル）に対してシールドケーブルを使用してください。

<使用上のお願い>

- ・この装置に接続するケーブルは手や足などに引っ掛けないように装置の周囲にきちんと整理して配線してください。
- 操作中に電源ケーブルに手や足などを引っ掛け電源を遮断すると、大切なデータが破壊されることがあります。

(3) コネクタについて

<使用上の注意>

- ・コネクタは、正しい向き・正しい角度で差し込まないと正常に接続できません。コネクタがきちんと差し込まれていないと動作しなかったり、誤動作したりします。
- ・装置の入出力ケーブルコネクタに、緩みがないことを確認してください。

(4) 電源について

(a) 電源電圧について

<使用上のお願い>

- ・装置本体の入力電源の電圧値が定格範囲（DC12-24V）内であることを確認してください。また、装置の入力電源の電圧値が定格範囲の上下限に近い値でしたら入力電源の設定異常とみなして電源設備の管理責任者に点検を依頼してください。

(b) 電源ケーブルについて

<使用上の注意>

- ・ACアダプタ(オプション)に付属されている電源ケーブルの定格はAC125Vです。AC125Vを超える電圧で使用される場合は、使用する入力電圧に対応した電源ケーブルをユーザー自身でご用意ください。
- ・高密度のLSIなどで構成される電子回路の正常動作の維持や雷などによる異常電圧から装置を保護するために、アースは電気設備技術基準のD種接地（旧第3種接地）にしてください。
- ・電源ケーブルとして、接地極付き2極差し込みプラグを使用してください（「1. 7 ハードウェアの接続」参照）。
- ・電源ケーブルのプラグをコンセントに接続する際は、必ずニュートラルが接地されたコンセントを使用してください。また、あわせて漏電ブレーカを設置してください。
- ・抜け防止クランプを使用する場合は、非常時に電源ケーブルを抜去できるようにケーブル長に余裕を持たせて固定するか、コンセント側に非常遮断スイッチを設けるようにしてください。
- ・電源ケーブルの上に物を置かないでください。また、電源ケーブル近傍に信号線を配線しないでください。

(c) 電源の投入／遮断について

<使用上の注意>

- ・電源を遮断してから再び電源を投入するまでに、必ず1分以上待ってください。1分未満ではBIOSの電源の設定と異なる動作をする場合があります（「5. 6 BIOSセットアップ」参照）。
- ・通信中やSSDの読み書き中には装置の電源を切ったり、NMIスイッチを押したりしないでください。

<使用上のお願い>

- ・周辺機器の接続や切り離しは、必ず装置と周辺機器の両方の電源を遮断してから行ってください。電源を投入したまま行うと故障の原因となります。
- ・電源を投入するときは、周辺機器の電源を投入した後に、装置の電源を投入してください。また、電源を遮断するときには、装置の電源を遮断した後に、周辺機器の電源を遮断してください。
- ・装置を使わないときには、電源を遮断してください。また、長期間使用しない場合は、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。
- ・じゅうたんやひざかけなどは、材質によって静電気が発生し、装置に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい導電性を持つじゅうたんやひざかけなどを使用してください。
- ・落雷や電源事情が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然画面が消えることがあります。このときは、一度装置の電源を遮断してからもう一度電源を投入して、立ち上げ直してください。

(5) 設置環境

<使用上の注意>

- ・USBデバイスを使用する際は、最大電流値を超えないよう注意してください（「5. 1 (6) 最大電流規定」参照）。
- ・この装置の機能を損なうことなく、長く愛用いただくためには、適正な環境と取り扱いが必要です。装置の寿命を縮めることや故障の要因となりますので、下記のような場所への設置を避けてください。

- 直射日光の当たる場所・・・・・・窓際
- 温湿度変化の激しい場所・・・・・冷暖房機器の近く
- 電気的ノイズを発生する機器のある場所・・・モータ、発電機の近く
- 強磁界を発生する機器のある場所・・・磁石などの近く
- じんあいの多い場所
- 振動の多い場所
- 腐食性ガスのある場所
- 音圧による振動がある場所・・・大きなブザー音やアラーム音を発生する機器の近く

- ・装置の左右面、上下面是以下のことに注意してください。
 - ・発熱体を密着させないこと。
 - ・保守作業をするために、この装置の移動が容易であること。また、固定した場合は、取り外しが容易であること。
- ・亜鉛ウィスカが装置に悪影響を与えるケースが発生していますので、装置および機器設置場所に電気亜鉛めっきを使用しないでください。

(情報システムの設備ガイド～JEITAテクニカルレポート～(JEITA ITR-1001) より)

　　ウィスカの発生する場所：電気亜鉛めっきを施した床パネル、ストリンガ、支柱、耐震用平鋼などによって発生します。

現象：亜鉛のひげ状結晶（導電性を持ったウィスカ）が何らかの原因で床下から室内に浮遊して装置の中に入り込み、プリント基板や端子部分で電気的短絡が発生することによって生じる問題です。短絡する場所によって、現れる現象が異なるために発生原因の特定が難しく、一過性の障害として処理されてしまうことが特徴です。そのため原因究明に時間がかかります。

<使用上のお願い>

- ・装置を、筐体内、デスク内に実装するときは、装置周辺の温度上昇を考慮してください。
- ・この装置の時計などは、電源が遮断されている状態でもバッテリバックアップによって動作しています。したがって、保存時に動作保証温度範囲外の環境に放置されると、再度使用するときに時計の時刻設定などシステムBIOSの再設定が必要となることがあります。システムBIOSの再設定が必要になった場合は「5. 6 BIOSセットアップ」を参照し、再設定を行ってください。

(6) 使用条件

<使用上の注意>

- ・装置の移動は、装置の電源ケーブルを抜いてから行ってください。
- ・結露防止のため、屋外から室内に移動した場合は、4時間以上放置した後に使用してください。
- ・装置は精密な電子部品でできていますので、振動や衝撃を与えないでください。
- ・装置の上に腰かけたり、物を載せたりしないでください。
- ・通常使用時、ディスプレイの電源スイッチは切らずにスタンバイ状態にしておいてください。
- ・通常使用の立ち上げ時はサインイン画面になるまでキーボード、マウスは操作しないでください。

<使用上のお願い>

- ・装置周辺（特に装置の下部）、装置の溝、装置の前面などに付着したほこりを取り除くことをお勧めします。

(7) 異音について

<仕様>

- ・電源を入れたときに低周波音が発生する場合がありますが、これは高周波対策用チョークコイルなどの過渡期における低周波振動によるもので、特性、寿命などに影響はありません。

(8) 保証について

<仕様>

- ・装置のハードウェアの破損に伴うデータや応用ソフトウェアの破損については、保証できません。
- ・弊社指定の基本ソフトウェアを使用してください。それ以外の基本ソフトウェアを使用した場合の動作は、保証できません。
- ・この装置は、弊社指定のハードウェアを前提に評価されています。したがって、ハードウェアの取り付け、交換にあたっては、弊社指定のハードウェアを使用してください。それ以外のハードウェアを使用した場合の動作は、保証できません。

2. ネットワークについて

<使用上の注意>

- ・Magic Packet™フレームは、装置のスタンバイランプが点灯している状態で送信するような運用してください。OSのシャットダウン処理が終了し、実際に電源が切れるタイミングでMagic Packet™フレームを送信しますと、電源が切れることなく再起動したり、WOLが不可能になったりする場合があります（「2. 6. 2 LANを使用した電源ON方法」参照）。

<仕様>

- ・ネットワークの状態によってはMagic Packet™フレームを紛失することがあります。このため、使用しているシステムでMagic Packet™フレームが確実に届くような運用をしてください（「2. 6. 2 LANを使用した電源ON方法」参照）。
- ・ネットワークドライブをサインイン時に再接続する設定にしておいても再接続されない場合があります。この場合は再度サインインするか、net useコマンドで接続してください。
net useコマンドについては、Windows®のヘルプを参照してください。
- ・この装置と他の装置または周辺機器をネットワーク接続する場合は、双方の「速度とデュプレックス」の設定を合わせてください（「2. 7 LANインターフェースの設定方法」参照）。
この設定が異なる場合、アダプターのパフォーマンスが低下したり、アダプターが正常に動作しないことがあります。
- ・装置間の電位差により発熱する恐れがあるため、ネットワークの接続に使用するツイストペアイーサネットケーブルは、「5. 8. 1 コネクタ仕様（1）マザーボード（標準）」で指定されているケーブル以外（例：カテゴリ5やSTPケーブル）は使用しないでください。

3. ビデオ表示画面について

<仕様>

- ・画面の設定をする場合は、アプリケーションをすべて停止させてから行ってください。
- ・シングルディスプレイからマルチディスプレイまたはマルチディスプレイからシングルディスプレイへ変更するために接続を変更する場合は、この装置の電源をいったん切った後にディスプレイケーブルを接続し、再び電源を入れてから、画面の設定を行ってください。
- ・ディスプレイの接続を変更した場合は、再度、画面の設定を実施してください。
- ・アプリケーションによっては画面がちらついたり、スムーズに再生されない場合があります。
- ・DisplayPortのマルチストリーム機能(ディジーチェーン)は非サポートです。
- ・DisplayPortで接続されたディスプレイの電源を切った場合、そのディスプレイは検出されなくなります。

<使用上の注意>

- ・マルチディスプレイにて「コラージュ」の設定を行う場合は、DDC (Display Data Channel) 対応のディスプレイを使用してください。DDC非対応のディスプレイを使用した場合、「コラージュ」の設定を行うことができません。

4. SSDについて

通 知

この装置は、障害の種類によっては大切なファイルを消失することがあります。また、この装置の障害だけでなく、使用中の停電、誤操作などによってもファイルを消失することがあります。このような状態になった場合には、ファイルの回復はできません。そのような事態に備えて日常業務の中にファイルのセーブ作業を組み入れ、計画的にファイルのバックアップをお取りください。

(1) SSDの取り扱いについて

<使用上の注意>

- ・SSDは製品によりアクセス性能が異なります。また、SSDは高温時および低温時に性能が低下してしまいます。そのため、SSDを使用する際は、SSDのアクセス性能や高温時および低温時の性能がユーザーの用途に影響しても問題ないことを確認してください。

<使用上のお願い>

- ・振動や衝撃をあたえないでください。
- ・人体や作業台の静電気防止をしてください。
- ・金具またはSSDの側面を持ち、コネクタ部に触れないようにしてください。
- ・長期保管は、静電気防止対策をした袋に入れた後に専用箱に入れてください。

<仕様>

- ・すでに作成されているパーティションを変更する場合は、いったんパーティションを削除してから、再度作成してください。
- ・SSDの容量や性能は部品によって変更となる場合があります。

(2) ファイルのバックアップについて

<使用上のお願い>

- ・SSDの内容は、必ず定期的にバックアップをお取りください。
- ・パーティションを削除すると、パーティション内のファイルはすべて消去されます。重要なファイルは、バックアップを取ってからパーティションを削除してください。

5. USB 機器について

<使用上の注意>

- ・USB機器の導入にあたっては、事前評価を行うとともに、ミッションクリティカルな用途での使用は避けてください。
- ・OSが正常に起動しなくなる可能性がありますので、OS起動途中でのUSB機器の接続は行わないでください。
- ・CPU/USB切替器によっては、OS起動途中に画面の切り替えを行うとOSが正常に起動しなくなる可能性があります。CPU/USB切替器を使用する場合は、十分な動作検証を実施してください。
- ・USB2.0およびUSB3.0では、転送性能に影響を与える可能性がありますので、使用するケーブルは規定の長さ以下で使用してください。また、デバイスに応じてUSB2.0またはUSB3.0対応のケーブルを使用しませんと、デバイス本来の転送速度が出なかつたり、通信エラーが発生したりする場合があります。ケーブルに関しては、それぞれのケーブルメーカーに仕様を確認してください（ケーブル長は、「5.8. 3 外部インターフェースケーブル長規定」を参照してください）。

<使用上のお願い>

- ・USBポートを使用するときには、USBコネクタの挿入方向を確認してゆっくり挿入し、USBポートを破損しないように注意してください。
- ・USB機器の挿抜やアクセスによって、システム負荷が上昇することがあります。オンライン運転中（システム稼働中）での使用が必要な際は、動作中のアプリケーションに影響を与えないことをユーザーが確認してからUSB機器を使用してください。
- ・USBキーボード清掃後は、装置に接続されたUSBキーボードのコネクタが緩みによりキーボードが正常に認識されなかつたり、システムが正常に起動しない場合がありますので、装置とのコネクタ接続確認を行ってください。

<仕様>

- ・すべてのUSB機器との接続を保証するものではありません。
- ・USB機器の中にはUSB規格を逸脱しているものがあり、そのようなデバイスを接続した状態で電源が切断されると、装置が正常に起動しなかつたり、時刻の設定が狂つたりする場合があります。USB機器を選定する場合は、十分な動作検証を実施してください。

6. リチウム電池について

<使用上のお願い>

- ・この装置は、リチウム電池を使用しています。廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。海外では当該国の法令に従い、廃棄してください。

7. 光学式マウスについて

<使用上のお願い>

- ・光学式センサーの特性上、透明な素材や光を反射する素材（ガラス、鏡など）の上では正しく動作しない場合があります。この場合は、このような素材の上での使用を避けるか、市販の光学式マウス対応マウスパッドなどを使用してください。
- ・光センサー部が結露やオイルミストなどで汚れると正しく動作しない場合があります。そのような環境で使用する場合には本体と同様に十分な環境対策を行って使用してください。

8. BIOSの設定について

<仕様>

- ・バックアップ用の電池が切れた状態または電池が接続されていない状態で電源がOFFの場合、設定がStay Offに設定されます。電源スイッチを押してシステムを起動すると、「After AC Power ON」の設定が行われますが、バックアップ用の電池が切れているため、電源ケーブルを抜去すると、設定がStay Offとなります（「5. 6 BIOSセットアップ」参照）。
- ・BIOSセットアップメニューの画面上の時計は、時計用ではなく時刻設定用のため、日付が変わっても画面上の日付は変更されません。もし、日付が変わった場合は、日付を修正してください（「5. 6 BIOSセットアップ」参照）。
- ・セットアップメニューを使用すると、時刻が遅れる場合があります。セットアップメニューを終了した後、必ず時刻を確認してください（「5. 6 BIOSセットアップ」参照）。

9. 保守サービスについて

<仕様>

- ・Microsoft® Windows®、デバイスドライバ、および流通アプリケーションについては、障害対策のための改造ができない場合があります。したがって、障害対策として回避策を提示する場合もあります。
- ・弊社に無断で流通ハードウェアを追加実装された場合には、装置全体としての保証ができません。
- ・採用している一部の部品（Intel Corporation製のLSIなど）については原因調査権がなく、部品の解体調査はできません。
- ・この装置は、製品価格に保守サポート費用が含まれません。発注時には必ず保守契約による保守サポートレベルの明確化と、保守サポートレベルに応じた保守費の負担をしていただく必要があります。

10. Windows®の設定について

(1) 修正プログラムなどの適用に関して

<仕様>

- ・修正プログラムや更新プログラム、最新のサービスパックが必要な場合は、ユーザーにて適用をお願いします。また、修正プログラムや更新プログラム、サービスパックを適用したことによるシステムへの影響については、十分な動作確認を行ってください。

11. メモリ シングルビットエラーの検出について

<制限>

- ・この装置にはECC (Error Checking and Correcting) 付きメモリが実装されているため、メモリにシングルビットエラーが発生しても自動的に訂正され、装置の動作に支障はありません。また、シングルビットエラーの検出をBIOS起動時、および、RASソフトウェアにて実施しています。シングルビットエラーが多発している場合は通知を行いますが、非常に稀なケースにおいて、シングルビットエラーを検出できず通知されないことがあります。

目次

はじめに.....	i
重要なお知らせ.....	iii
安全にお取り扱いいただくために.....	S-1
注意事項.....	C-1
第1章 お使いになる前に.....	1-1
1. 1 適用	1-1
1. 2 オペレーターの役割.....	1-1
1. 3 作業の流れ	1-2
1. 4 各部の名称と役割	1-3
1. 5 装置の設置	1-10
1. 5. 1 環境条件	1-10
1. 5. 2 設置条件	1-11
1. 6 ハードウェアの接続.....	1-14
第2章 操作.....	2-1
2. 1 電源を入れる前に	2-1
2. 2 装置の立ち上げ	2-2
2. 3 装置の停止	2-3
2. 4 電源遮断	2-4
2. 5 非常遮断	2-4
2. 6 LANを使用した電源制御方法.....	2-5
2. 6. 1 WOL (Wake ON LAN) 機能の有効化.....	2-5
2. 6. 2 LANを使用した電源ON方法.....	2-6
2. 7 LANインターフェースの設定方法.....	2-8
2. 8 ビデオ表示画面の設定方法.....	2-16

第3章 セットアップ.....	3-1
3. 1 初めて電源を投入した際のセットアップ手順.....	3-1
3. 1. 1 Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのセットアップ	3-1
3. 1. 2 Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCのセットアップ	3-5
3. 2 OSセットアップ後の基本設定.....	3-10
3. 2. 1 Windows® 10の基本設定	3-10
第4章 OS動作上の特記事項.....	4-1
4. 1 セットアップ中のイベントログ記録について.....	4-1
4. 2 OS動作中のイベントログ記録について.....	4-2
4. 3 既定でスケジューリングされる機能について.....	4-4
4. 4 セキュリティ強化機能について.....	4-8
4. 5 装置出荷時のネットワーク設定について.....	4-8
4. 6 ライセンス認証について.....	4-9
4. 7 サインイン画面でマウス操作が行えなくなる現象について.....	4-10
第5章 仕様.....	5-1
5. 1 装置仕様	5-1
5. 2 メモリ空間	5-5
5. 3 I/O空間	5-6
5. 4 割り込み一覧	5-7
5. 5 シリアルポートの設定.....	5-8
5. 6 BIOSセットアップ	5-9
5. 7 時計機構	5-16
5. 8 インタフェース仕様.....	5-17
5. 8. 1 コネクタ仕様	5-17
5. 8. 2 外部接点仕様	5-23
5. 8. 3 外部インターフェースケーブル長規定.....	5-27

第6章 点検・保守.....	6-1
6. 1 日常点検	6-1
6. 2 定期点検	6-4
6. 3 保守サービス契約	6-5
6. 4 部品の取り付け／取り外し.....	6-7
6. 4. 1 各部品の種類と取り付け位置.....	6-7
6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に.....	6-8
6. 4. 3 本体カバーの取り付け／取り外し.....	6-9
6. 4. 4 メモリの取り付け／取り外し.....	6-10
6. 4. 5 SSDの取り付け／取り外し.....	6-13
6. 4. 6 防じんフィルタの取り付け／取り外し.....	6-15
6. 4. 7 縦置きスタンドの取り付け／取り外し.....	6-16
6. 5 リチウム電池の取り外し.....	6-17
6. 6 リモートパワーオン機能を有効にする場合.....	6-19
第7章 リカバリDVDによる出荷状態への復元.....	7-1
7. 1 復元手順の概要	7-1
7. 2 事前の準備	7-2
7. 3 システムドライブの出荷状態への復元.....	7-3
7. 3. 1 出荷状態への復元手順.....	7-3
7. 3. 2 復元操作時のエラーと対処方法.....	7-11
第8章 保守操作.....	8-1
8. 1 概要	8-1
8. 2 メモリダンプ収集機能.....	8-6
8. 2. 1 メモリダンプ収集設定確認メッセージ.....	8-8
8. 2. 2 メモリダンプに関する各種設定方法.....	8-9
8. 3 重度障害発生時立ち上げ抑止機能.....	8-11
8. 4 保守操作コマンド	8-12
8. 4. 1 ログ情報収集コマンド (logsav)	8-13
8. 4. 2 メモリダンプファイル複写コマンド (mdump)	8-15
8. 4. 3 メモリダンプ保存用ストレージ領域確保コマンド (createdmp)	8-17
8. 4. 4 RAS情報表示コマンド (getrasinfo)	8-19

第9章	トラブルシューティング	9-1
9. 1	トラブル一覧	9-1
9. 1. 1	OS起動前のトラブル	9-1
9. 1. 2	OS起動後のトラブル	9-2
9. 2	原因と対処方法	9-3
9. 2. 1	OS起動前のトラブル	9-3
9. 2. 2	OS起動後のトラブル	9-7
9. 3	Bug Check要因	9-17
9. 4	イベントログ	9-19
9. 5	パフォーマンスマニターによるシステム負荷の確認	9-23
9. 6	状態表示デジタルLED	9-27
9. 6. 1	POST表示	9-27
9. 6. 2	ハードウェアステータスコード表示	9-29
付録	有寿命部品の取り扱いについて	A-1

図目次

図 1－1 各部の名称（前面観）	1-4
図 1－2 各部の名称（背面観）	1-5
図 1－3 操作および保守スペース（上面観）	1-12
図 1－4 設置スペース	1-12
図 1－5 設置図（デスクトップ横置き）	1-13
図 1－6 設置図（デスクトップ縦置き）	1-13
図 1－7 ハードウェアの接続	1-15
図 6－1 各部品の種類と取り付け位置.....	6-7
図 6－2 本体カバーの取り外し.....	6-9
図 6－3 メモリの取り付け.....	6-11
図 6－4 SSDの取り外し	6-14
図 6－5 防じんフィルタの取り外し	6-15
図 6－6 縦置きスタンドの取り付け	6-16
図 6－7(1) リチウム電池の取り外し.....	6-17
図 6－7(2) リチウム電池の取り外し(続き).....	6-18
図 6－8 JPソケットの取り外し.....	6-19

表目次

表 1－1 各部の役割	1-6
表 1－2 装置寸法、操作および保守スペース、設置スペース	1-12
表 5－1 時計機構仕様	5-16
表 6－1 保守サービス対象範囲および保守期間	6-5
表 7－1 リカバリ操作時のエラーメッセージ一覧	7-11
表 8－1 RAS機能概要	8-1
表 8－2 メモリダンプを収集する要因一覧	8-6
表 8－3 保守操作コマンド一覧	8-12
表 8－4 logsaveがセーブする情報	8-13
表 8－5 logsaveのエラーメッセージ	8-14
表 8－6 mdumpのエラーメッセージ	8-16
表 8－7 createdmpのエラーメッセージ	8-18
表 8－8 getrasinfoコマンドが表示する情報	8-19
表 8－9 getrasinfoのエラーメッセージ	8-27
表 9－1 Bug Check（ブルースクリーン）要因コード一覧	9-17
表 9－2 Bug Check（ブルースクリーン）の対処一覧	9-18
表 9－3 この装置固有のイベントログ一覧	9-20
表 9－4 性能に関わるパフォーマンスカウンター一覧	9-25
表 9－5 POSTコードと停止原因／対処方法	9-27
表 9－6 ハードウェアステータスコードと要因／対処方法	9-29

第1章 お使いになる前に

1. 1 適用

このマニュアルは、日立組込み用コントローラHF-W400Eを操作する人（オペレーター）の日常運用にあたり必要となる、各種装置の操作、調整について記述したものです。

梱包を解いたら、「納入品構成表」にあるものがすべて揃っていること、納入品に損傷がないことを確認してください。万一、不足や損傷などの問題があるときは、弊社担当営業まで連絡してください。

また、RAS機能の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- HF-W400E RAS機能マニュアル（マニュアル番号 WIN-3-0097）

1. 2 オペレーターの役割

この装置を長い間安定して利用していただくためには、以下の事項について配慮してください。

(1) 有寿命部品のセッティング

- 有寿命部品（SSDや防じんフィルタなど）をセットする場合は、それぞれの章で示す装置操作手順に従ってください。

(2) 装置の特性への配慮

- 「注意事項 1. 装置について」を参照し、装置の特性について配慮してください。
- このマニュアルに記載した事項は、取り扱い上の基本ですので、必ずお守りください。
- 取り扱い、清掃などの詳細については各章を参照してください。

(3) この装置の保全

運用にあたっては、以下の事項について配慮してください。

- ファイルのバックアップ

「注意事項 4. SSDについて（2）ファイルのバックアップについて」を参照してください。

- 電源ケーブル、電源の遮断

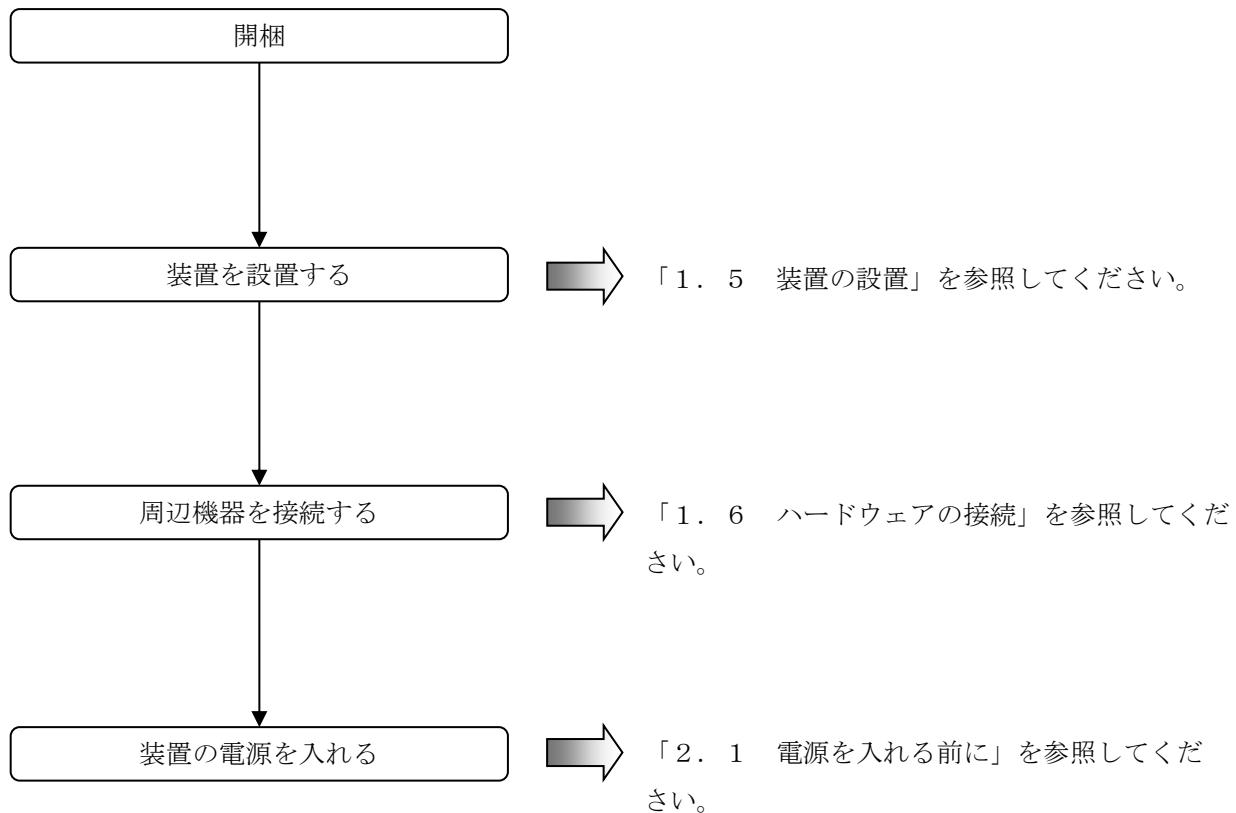
「注意事項 1. 装置について（4）電源について」を参照してください。

(4) この装置の点検

- 点検については「6. 1 日常点検」および「6. 2 定期点検」を参照してください。

1. 3 作業の流れ

以下に装置の電源を入れるまでの作業フローを示します。



1. 4 各部の名称と役割



警 告

この装置について（危険電圧）

感電による死亡または重傷の恐れがあるため、この装置およびACアダプタ(オプション)の分解・改造を行わないでください。



注 意

ファンについて（回転物注意）

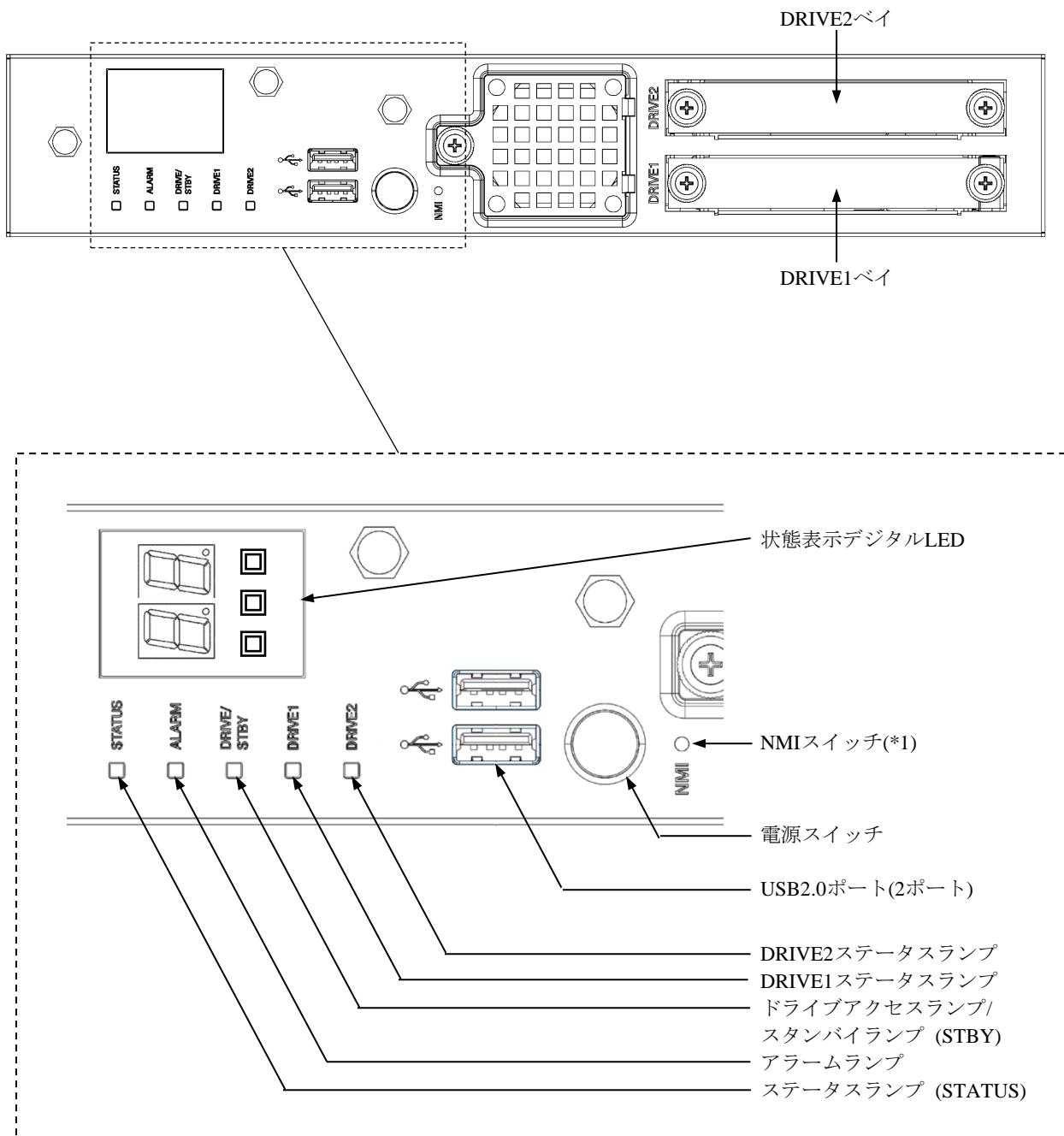
保守員以外はファンを外さないでください。動作中のファンの回転部に手や物がはさまれてけがの原因となります。

通 知

- 装置およびSSDの故障の原因となりますので、SSDの活線挿抜は絶対に行わないでください。SSDの交換は、必ずOSをシャットダウンし電源ケーブルを抜いた状態で行ってください。
- USBポートを使用するときには、USBコネクタの挿入方向を確認してゆっくり挿入してください。誤って挿入するとUSBポート損傷の原因となります。
- 動作中のアプリケーションへの影響がありますので、オンライン運転中（システム稼働中）にUSB機器の挿抜をしないでください。

● 表示・操作部の説明

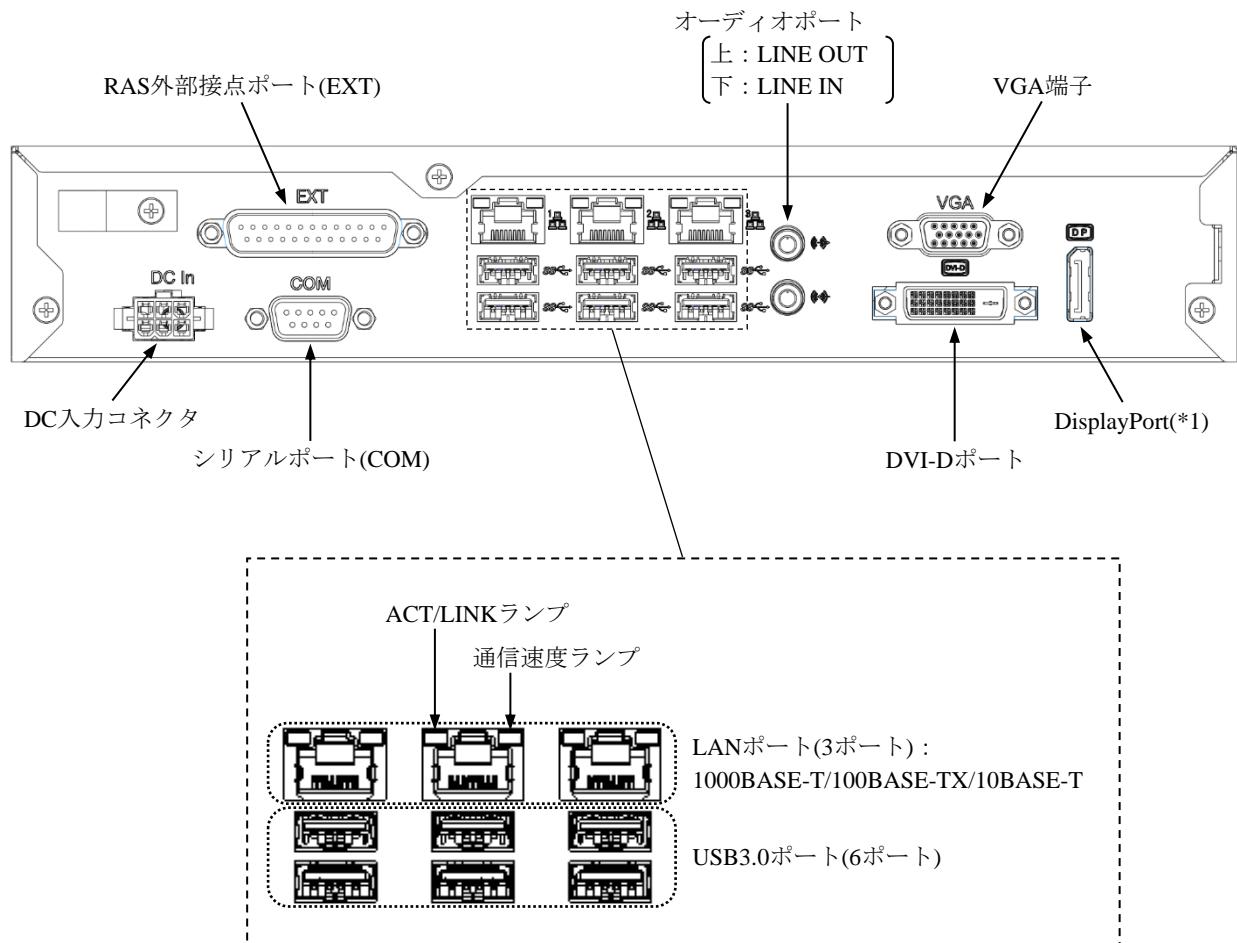
(1) 前面観



(*1) NMIスイッチはイジェクトピンを挿入して押してください。イジェクトピンを用意できない場合は、NMIスイッチの穴に入る太さのピンで代用してください。

図1-1 各部の名称（前面観）

(2) 背面観



(*1) DisplayPort 接続のディスプレイの電源を切った場合、そのディスプレイは検出されなくなります。

図1-2 各部の名称（背面観）

表1-1 各部の役割 (1/4)

名称	役割	
電源スイッチ (POWER)	スイッチを押すと電源が入ります。スイッチを4秒以上押すと、電源が切れスタンバイ状態となります（緊急時用）。	
NMIスイッチ	OS起動中にスイッチを押すとブルースクリーン画面が表示されメモリダンプの収集を開始します。 デフォルトのOS設定ではメモリダンプ収集後に再起動します。	
ステータスランプ (STATUS)	ランプ表示	状態
	緑点灯	装置が動作中 (RUN状態)
	赤点灯	装置が動作していない (STOP状態) ・装置の立ち上げ途中 ・シャットダウン開始後、エラー停止時 ・何らかの異常で装置がデッドロック ・RASソフトウェアをインストールしていない
	消灯	主電源OFF状態／スタンバイ状態
アラームランプ (ALARM)	以下の異常検出時に、点灯（赤）します。 ・装置内のファンの停止 ・装置内の温度異常	
ドライブアクセスランプ (DRIVE)	SSDにアクセスしているときに点灯（緑）します。	
スタンバイランプ (STBY)	ランプ表示	状態
	橙点灯	装置がスタンバイ（補助電源だけが入っている）
	消灯	電源遮断または装置動作中
DRIVEステータスランプ DRIVE1：ベイ1用 DRIVE2：ベイ2用	本モデルでは点灯しません。	

表1-1 各部の役割 (2/4)

名称	役割
オーディオポート (LINE IN)	オーディオライン入力です。
オーディオポート (LINE OUT)	オーディオライン出力です。
シリアルポート (COM) (9ピン : RS-232C)	モデムなどシリアルインターフェースを使用する機器を接続します (「5. 8. 1 コネクタ仕様」参照)。
RAS外部接点ポート (25ピン : EXT)	外部接点接続用コネクタです (「5. 8. 1 コネクタ仕様」参照)。
VGA端子	ディスプレイのアナログインターフェースからケーブルを接続します (「5. 8. 1 コネクタ仕様」参照)。
DVI-Dポート	ディスプレイのデジタルインターフェースからケーブルを接続します (「5. 8. 1 コネクタ仕様」参照)。
DisplayPort	ディスプレイのデジタルインターフェースからケーブルを接続します (「5. 8. 1 コネクタ仕様」参照)。
USBポート (USB2.0/USB3.0)	USBインターフェースを使用する機器を接続します。

表1-1 各部の役割 (3/4)

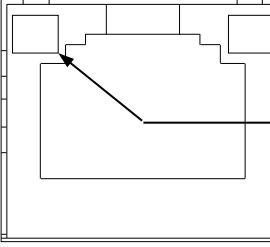
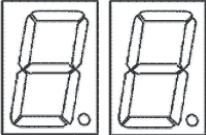
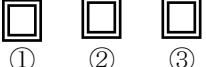
名称	役割										
LANポート (1000Base-T/100Base-TX/ 10Base-T)	LANケーブルを接続します（「5.8.1 コネクタ仕様」参照）。										
<p>● オンボードLAN</p>  <p>通信速度ランプ ACT/LINKランプ</p>											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">ACT/LINKランプ</th> </tr> <tr> <th>ランプ表示</th> <th>状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑点灯</td> <td>リンクが確立している。 装置と接続先ともに給電されていて、ツイストペアイーサネットケーブルの接続が良好な状態です。</td> </tr> <tr> <td>消灯</td> <td>リンクが確立していない。 ・装置が物理的にネットワークへ接続されていない ・スイッチングハブに給電されていない ・ツイストペアイーサネットケーブルの接続状態が良好でない ・ドライバの設定に問題がある</td> </tr> <tr> <td>緑点滅</td> <td>ネットワークデータを送信または受信中。 点滅周期はネットワークトラフィック量で変化します。</td> </tr> </tbody> </table>	ACT/LINKランプ		ランプ表示	状態	緑点灯	リンクが確立している。 装置と接続先ともに給電されていて、ツイストペアイーサネットケーブルの接続が良好な状態です。	消灯	リンクが確立していない。 ・装置が物理的にネットワークへ接続されていない ・スイッチングハブに給電されていない ・ツイストペアイーサネットケーブルの接続状態が良好でない ・ドライバの設定に問題がある	緑点滅	ネットワークデータを送信または受信中。 点滅周期はネットワークトラフィック量で変化します。
ACT/LINKランプ											
ランプ表示	状態										
緑点灯	リンクが確立している。 装置と接続先ともに給電されていて、ツイストペアイーサネットケーブルの接続が良好な状態です。										
消灯	リンクが確立していない。 ・装置が物理的にネットワークへ接続されていない ・スイッチングハブに給電されていない ・ツイストペアイーサネットケーブルの接続状態が良好でない ・ドライバの設定に問題がある										
緑点滅	ネットワークデータを送信または受信中。 点滅周期はネットワークトラフィック量で変化します。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">通信速度ランプ</th> </tr> <tr> <th>ランプ表示</th> <th>状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橙点灯</td> <td>1000Mbpsで動作中。</td> </tr> <tr> <td>緑点灯</td> <td>100Mbpsで動作中。</td> </tr> <tr> <td>消灯</td> <td>10Mbpsで動作中。または、リンクが確立していない。</td> </tr> </tbody> </table>	通信速度ランプ		ランプ表示	状態	橙点灯	1000Mbpsで動作中。	緑点灯	100Mbpsで動作中。	消灯	10Mbpsで動作中。または、リンクが確立していない。
通信速度ランプ											
ランプ表示	状態										
橙点灯	1000Mbpsで動作中。										
緑点灯	100Mbpsで動作中。										
消灯	10Mbpsで動作中。または、リンクが確立していない。										

表1-1 各部の役割 (4/4)

名称	役割
状態表示デジタルLED  	<p>この装置の様々な状態を2桁16進数のコードと状態識別LEDで表示します。状態表示デジタルLEDと状態識別LEDは、シャットダウン後、スタンバイ状態になっても点灯し続ける場合があります。この状態は電源を再投入するまで保持されます。</p> <p>状態識別LED</p> <ul style="list-style-type: none"> ① RASステータス（赤） ② アプリケーションステータス（緑） ③ BIOSステータス（橙） <p>（状態表示デジタルLEDにユーザーAPPLICATIONから任意のステータスを表示させる方法は、「HF-W400E RAS機能マニュアル」を参照してください。）</p>

【留意事項】

- ・USB機器についての注意事項は、「注意事項 5. USB機器について」を参照してください。

1. 5 装置の設置

1. 5. 1 環境条件

! 注 意

この装置を高温で保管する場合、直接素手で触らないように注意してください。
装置が熱くなるため、やけどをする恐れがあります。

この装置を使用する際には下表に示す環境条件を満たしてください。

項目	条件
周囲温度(動作時)	5~40°C(高度1000mを超える場合は5~35°C)
周囲温度(保存時)	-10~60°C
温度勾配	±10K/h以下
湿度	20~80%RH (結露しないこと)
湿度勾配	10%RH/h以下
じんあい (*1) 塵埃	特にひどくないこと (0.3mg/m ³ 以下 (JEITA IT-1004B classB))
腐食性ガス	なきこと (JEITA IT-1004B classA (温度25°C、湿度50%RH))
耐振動	49m/s ² (10Hz、5s)
耐衝撃	動作時：19.6m/s ² (非通電時：98m/s ²)
電源電圧	本体：DC12~24V ±10% ACアダプタ(オプション)：AC100~240V ±10%
電源周波数 (*2)	50/60Hz±3Hz
電源ノイズ (*2)	1.0kV (ファストトランジエント/バースト波)
静電気ノイズ接触放電	4kV (気中：8kV)
絶縁抵抗 (*2)	DC500V、20MΩ
絶縁耐圧 (*2)	AC1.5kV、1分間
瞬時停電 (*2)	20ms以下
高度	標高2,000m以下

(*1) 導電性粉じんなどが浮遊する環境では使用できません。

(*2) ACアダプタ (オプション) 使用時の仕様です。

【留意事項】

- ・環境条件についての注意事項は、「注意事項 1. 装置について (5) 設置環境」を参照してください。

1. 5. 2 設置条件

!**警 告**

- ACアダプタ(オプション)の電源ケーブルは付属のケーブルを使用してください。それ以外のケーブルを使用すると機器故障、火災、および感電の原因となる場合があります。
また、AC 125Vを超える電圧で使用される場合は、使用される入力電圧に対応した電源ケーブルをユーザー自身でご用意ください。
- 電源ケーブルのプラグをコンセントに接続する際は、必ずアース端子（接地極）が接地されたコンセントを使用してください。また、あわせて漏電ブレーカを設置してください。
上記を実施しない場合、火災および感電の恐れがあります。
- 感電や機器故障の原因となりますので、接地極のない2極差し込みプラグは使用しないでください。

!**注 意**

装置を机上に縦置きする場合は、必ず製品に同梱されている縦置きスタンドを装置に取り付け、水平な場所に設置してください。縦置きスタンドを取り付けない場合、装置が転倒・落下し、けがをする恐れがあります。

通 知

- この装置を移動するときには、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。SSDなどの故障の原因となります。
- 輸送や運搬時の梱包には納入時の梱包材を使用してください。それ以外の梱包材を使用した場合、装置を損傷することがあります。
- 破損またはつぶれた梱包材は、輸送や運搬には使用しないでください。装置を損傷することがあります。

【留意事項】

- 設置条件についての注意事項は、「注意事項 1. 装置について (5) 設置環境」を参照してください。

表1-2 装置寸法、操作および保守スペース、設置スペース

寸法 (mm)			操作および保守スペース (mm)				設置スペース (mm)			
高さ	幅	奥行き	前面側	背面側	左側	右側	前面側	背面側	左側	右側
50	285	249	500	600	200	200	50	100	10	10

- 操作および保守時は、図1-4のスペースを確保してください。
- 装置はファンによって空冷し、前面吸気、両側面排気となっていますので風路を妨げないように注意してください。特に前面50mm、背面100mm以内に障害物を置かないでください（背面はケーブルルコネクタ引き出し空間を含む）。

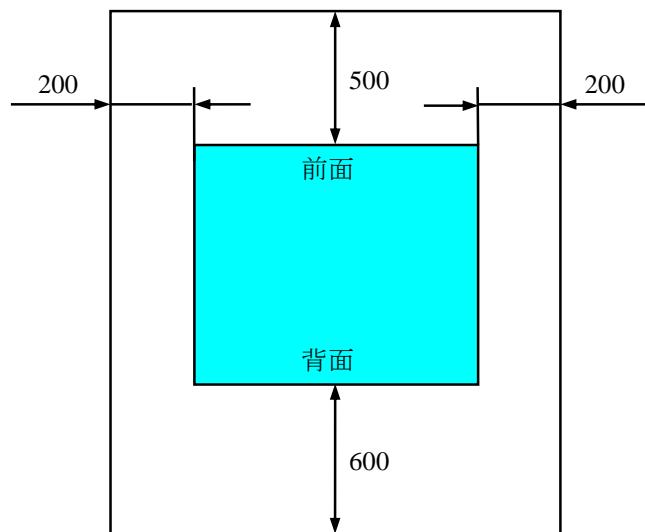


図1-3 操作および保守スペース (上面観)

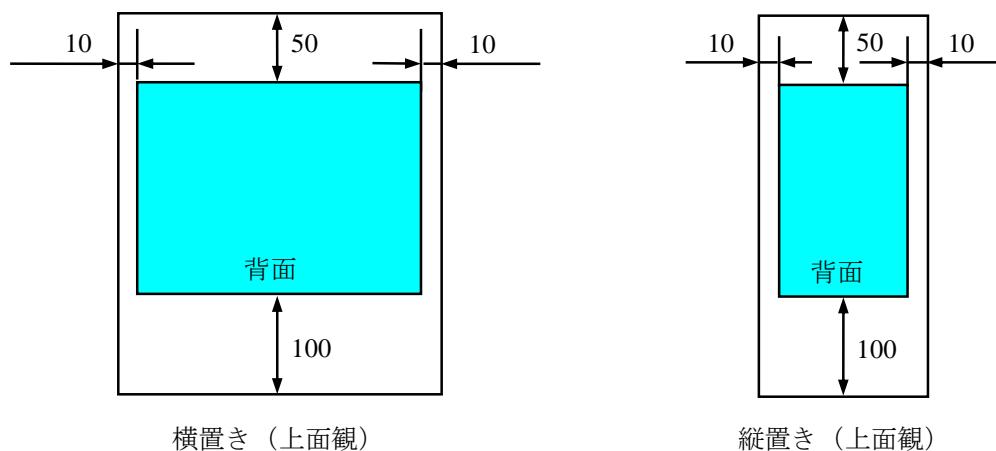


図1-4 設置スペース

(a) デスクトップ横置き

デスク側にズレ防止マットなどを貼り付けてください。本体にゴム足はありません。

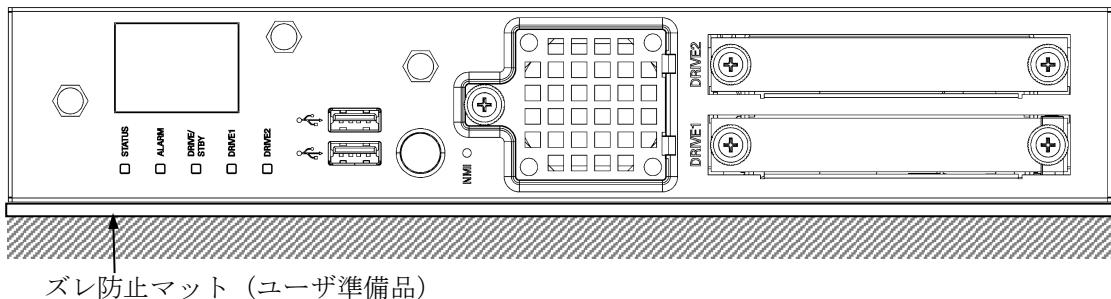


図1-5 設置図（デスクトップ横置き）

(b) デスクトップ縦置き

添付の縦置きスタンドを取り付けてください。縦置きスタンドにはゴム足があります。

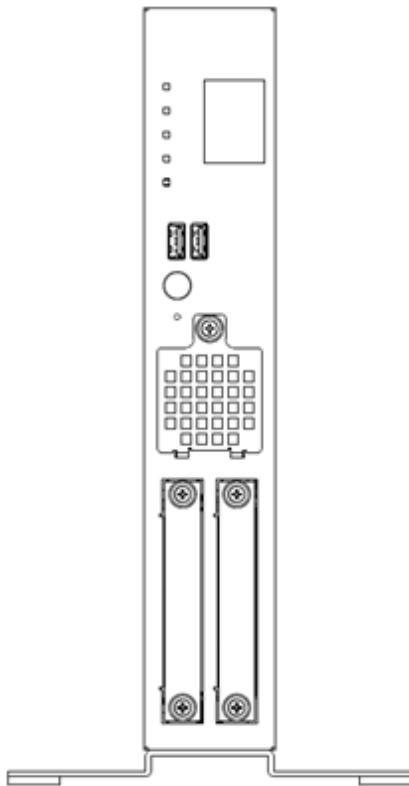


図1-6 設置図（デスクトップ縦置き）

1. 6 ハードウェアの接続

通 知

- 電源ケーブルの近くにインターフェースケーブル等（他のパソコンなどの機器ケーブル）を配線しないでください。機器故障および誤動作の原因となります。
- インタフェースケーブルの挿抜は、この装置と相手機器の電源が入っている状態で行わないでください。電源電圧のショートなどによる障害の原因となります。
この装置の電源が入っている状態でインターフェースケーブルが外れた場合は、OSをシャットダウンし電源ケーブルを抜いてください。OSをシャットダウンせずにいきなり電源ケーブルを抜くと、ファイルの内容を破壊する恐れがあります。
- 外部接点用のケーブルがある場合は、必ず外部接点用のコネクタ（EXT）に接続してください。このケーブルは、リレー負荷を通して最大DC 40Vが印加されている可能性があり、誤って他のコネクタに接続しますと故障の原因となります。

ハードウェアの接続に際しましては、事前に本書の「安全にお取り扱いいただくために」をよくお読みになり、十分理解したうえで行ってください。

下図の接続例を参考にハードウェアの接続を行ってください。

この装置にディスプレイやキーボード、マウスを接続した後に、電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込んでください。

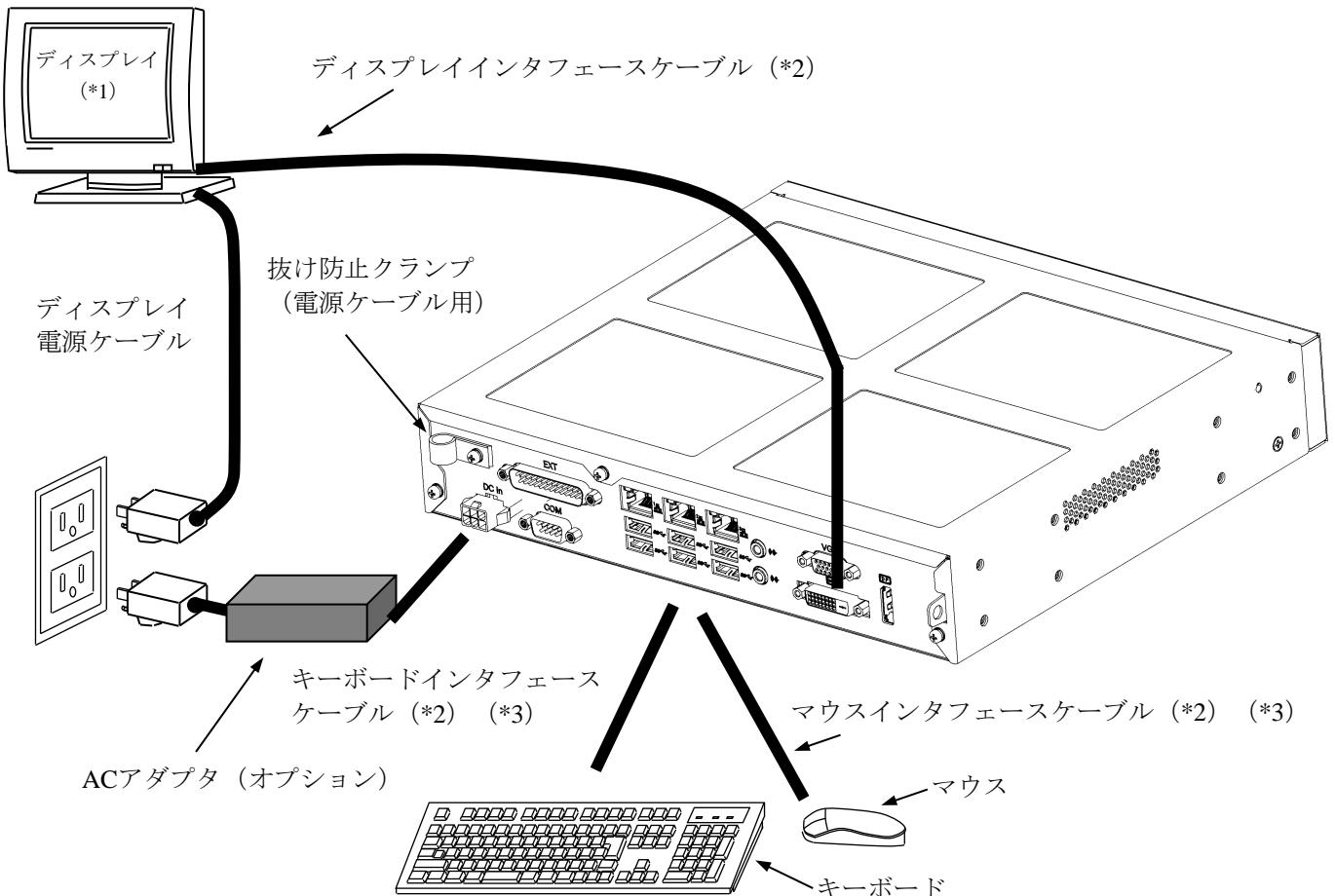


図 1-7 ハードウェアの接続

(*1) 操作部の名称、操作方法、および調整方法は、使用するディスプレイに添付されている取扱説明書を参照してください。

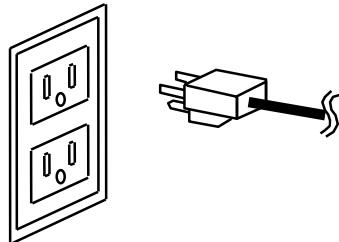
(*2) 各々の接続ケーブル長は、「5.8.3 外部インターフェースケーブル長規定」の外部インターフェースケーブル長規定を参照してください。また、マウスおよびキーボードインターフェースケーブルはこの装置に直結し、延長ケーブルは使用しないでください。延長ケーブルを使用した場合、正常に動作しない恐れがあります。

(*3) コネクタの向きに注意して接続してください。また、USBポートは規格上コネクタのロック機構がないため、USBケーブルへの不用意な接触でコネクタが抜けてしまう可能性があります。必要に応じて装置を設置する際にケーブルを固定して使用してください。

(注) VCCI、FCC、CEマークリングに適合するためには、この装置に接続するすべてのインターフェースケーブル（ディスプレイインターフェースケーブル、キーボードインターフェースケーブル、マウスインターフェースケーブル）に対してシールドケーブルを使用してください。

● 電源コンセント接続

ACアダプタ(オプション)の電源ケーブルのプラグを接地極付きコンセント (*1) にしっかりと差し込んでください。



電源ケーブルは必ず接地極付き2極
差し込みプラグを使用してください。

(*1) やむを得ず接地極付きでないコンセントを使用するときは、3極-2極変換アダプタを使用してアダプタから出ている緑色のアース線を必ず電源コンセントのアースに接続してください。なお、3極-2極変換アダプタは、ユーザーにて動作検証を実施したものを使用してください。

【留意事項】

- ・ACアダプタ(オプション)に付属されている電源ケーブルの定格はAC 125Vです。
AC 125Vを超える電圧で使用する場合は、使用する入力電圧に対応した電源ケーブルをユーザー自身で用意してください。
- ・抜け防止クランプを使用する場合は、非常時に電源ケーブルを抜去できるようにケーブル長に余裕を持たせて固定するか、電源コンセント側に非常遮断スイッチを設けるようにしてください。

第2章 操作

2. 1 電源を入れる前に



警 告

装置の吸排気孔をふさぐと装置内の温度が上昇して火災や故障の原因となりますので、設置スペースを確保してください（「1. 5. 2 設置条件」参照）。

【留意事項】

電源を入れる際は、以下の注意事項を参照してください。

- ・「注意事項 1. 装置について (2) 接続ケーブルについて」
- ・「注意事項 1. 装置について (4) 電源について」
- ・「注意事項 1. 装置について (5) 設置環境」

2. 2 装置の立ち上げ

以下の操作によって、装置を立ち上げることができます。

- ① ディスプレイが接続されている場合はディスプレイの電源を入れてください。
- ② この装置のDC入力コネクタにACアダプタ(オプション)などの電源を接続してください。
電源を接続するとステータスランプ (STATUS) が点灯します。ステータスランプは電源が入ると“赤”、OSが立ち上がり装置が動作中になると“緑”が点灯します。
- ③ この装置の電源を初めて入れた場合は、「3. 1 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」に従い、装置のセットアップを実施してください（この作業は、装置を購入してから初回立ち上げ時にだけ行う必要があります）。

【留意事項】

- ・RASソフトウェアをインストールしていない場合、またはリカバリDVDによる出荷状態への復元中は、ステータスランプ (STATUS) は“緑”にならず“赤”的ままであります。

以上の操作後、装置が自動的にサインイン画面までの立ち上げ処理をします。

なお、LANを使用した電源制御については、「2. 6 LANを使用した電源制御方法」を参照してください。

2. 3 装置の停止

装置を停止する場合は、利用中のユーザーがいないこと、バックグラウンド実行プログラムがないことを確認してから以下の処理をします。

- ・アプリケーションプログラムの停止
- ・OSの停止

アプリケーションプログラムの具体的な停止方法は、ソフトウェアによって異なりますので、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

OSを停止するには、画面左下の【スタート】ボタンをクリックし、スタートメニューを開いてください。次にスタートメニューにて【電源】をクリックし、【シャットダウン】をクリックしてください。OSのシャットダウン後、自動的に電源が切れ、補助電源のみが入っている状態（スタンバイ状態）になります（このとき、ステータスランプ（STATUS）は消灯し、スタンバイランプ（STBY）が点灯します）。

なお、通常の停止プロセスを実行できない場合（システムロックなどでシャットダウン要求が受け付けられない場合）は、この装置の電源スイッチを4秒以上押してください。電源が切れ、スタンバイ状態になります。電源スイッチを4秒以上押して電源を切った場合、次回起動時にLAN経由では電源が入りませんので、緊急時以外は使用しないでください（「2. 6 LANを使用した電源制御方法」参照）。メモリダンプを収集する方法は「8. 2 メモリダンプ収集機能」を参照してください。

2. 4 電源遮断

- ① 装置が停止していることを確認してください（「2. 3 装置の停止」参照）。
- ② 本体背面のDC入力コネクタから電源ケーブルを抜き取ってください。
- ③ 上記②により電源を遮断すると、スタンバイランプ（STBY）が消灯します。

2. 5 非常遮断



警 告

万一、発煙・異臭などがあった場合は、装置への給電を遮断し、本体背面のDC入力コネクタから電源ケーブルを抜いてご購入先または保守員に連絡してください。故障状態のままお使いになると火災や感電の原因になります。

通 知

- 非常遮断（OSのシャットダウン処理を行わずに電源ケーブルを抜いたり、ブレーカを切ったり）をすると、OSやアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。何らかの異常が発生し緊急に遮断しなければならないとき以外は、絶対に実施しないでください。
- 電源の供給元で電源を遮断した場合、システムを自動で復旧できないことがありますので、注意してください。

以下の場合には電源の供給元（ブレーカなど）で電源を遮断してください。

- ・この装置が異常で、緊急に電源を遮断する場合（異臭が発生している場合など）
- ・何らかの異常によって、装置を停止できなくなった場合
- ・過電流や異常加熱により繰り返し電源が切れたり、補助電源だけが入っている状態になる場合

また、以下の場合には電源ケーブルを抜くか電源の供給元（ブレーカなど）で電源を遮断してください。

- ・ファン停止、温度異常時、装置保護のため自動的に電源が切れ、補助電源だけが入っている状態になった場合

OS立ち上げ前は、BIOS立ち上げ時にファン停止を検知し、自動で電源が切れます。

OS立ち上げ後は、RASソフトウェアがファン停止を検知し、OS自動シャットダウン後、電源が切れます（RASソフトウェアがインストールされている場合のみ）。

2. 6 LANを使用した電源制御方法

この装置は、LANを使用した遠隔操作によって電源をONにすることができます。

この節では、LANを使用して装置の電源をONにする方法WOL（Wake ON LAN）を説明します。ここで電源ONとはスタンバイランプ（STBY）点灯状態でMagic Packet™フレームをLANインターフェースに対して送信することで、装置を起動することを言います。

なお、出荷時の初期状態では上記の機能は無効の設定になっています。上記の機能を利用する場合は「2. 6. 1 WOL（Wake ON LAN）機能の有効化」の①～③までを実行し、WOL機能を有効化したうえで以降の手順を実施してください。

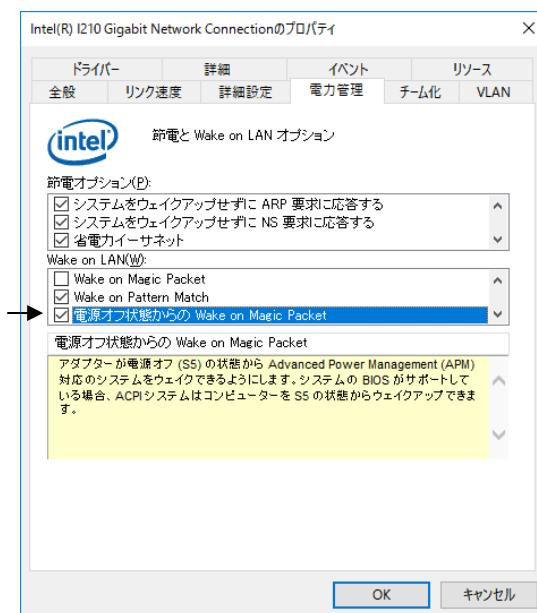
【留意事項】

- ・ネットワークについての注意事項は、「注意事項 2. ネットワークについて」を参照してください。

2. 6. 1 WOL（Wake ON LAN）機能の有効化

Magic Packet™フレームを受信した際に、WOLを行うかどうかの設定を以下 の方法で行うことができます。出荷時の初期状態では、WOL機能は無効の設定になっています。

- ① 「2. 7 LANインターフェースの設定方法」の「● ネットワーク転送速度の設定方法」の①～⑤までを実行してください。
- ② [電力管理] タブをクリックし、WOLを行う場合は [Wake on LAN(W):] の [電源オフ状態からのWake On Magic Packet] チェックボックスをオンにしてください。
Windows® 10 2019 LTSCの場合は、「詳細設定」タブをクリックし、[プロパティ(P):]の [Wake on Magic Packet]および[Enable PME]の2項目を[Enable]にしてください。
- ③ [OK] ボタンをクリックした後、OSを再起動してください。



2. 6. 2 LANを使用した電源ON方法

- ① この装置を一度起動した後にシャットダウン処理で電源をOFFし、スタンバイランプ（STBY）が点灯した状態にしてください。
- ② 外部から装置の内蔵LANアダプターにMagic Packet™フレームを送信します。内蔵LANがMagic Packet™を受信すると装置の電源がONになります。

LANを使用して装置を起動する（WOLを使用する）には、スタンバイランプ（STBY）が点灯した状態にしておく必要があります。また、一度装置を起動し、次回起動時にWOLを使用する場合は必ずシャットダウン処理で電源をOFFし、スタンバイランプ（STBY）が点灯した状態にしてください。

装置に内蔵のLANアダプターは、WfM 2.0 (*1) に準拠していて、Magic Packet™技術 (*2) をサポートしています。これによって、内蔵LANアダプターがMagic Packet™フレーム (*2) と呼ばれる特定の情報パケットを受信すると装置の電源がONになります。

Magic Packet™フレームの送信プログラムは装置には添付されていませんので、市販のMagic Packet™フレーム送信ソフトウェアを使用してください。

- (*1) Wired for Management (WfM) は、Intel Corporationが提唱しているネットワーク上のパソコンを管理するためのハードウェア仕様に関するガイドラインです。
- (*2) Magic Packet™技術は、Advanced Micro Devices, Inc.が開発したネットワーク上のコンピュータを、遠隔操作で起動する技術です。

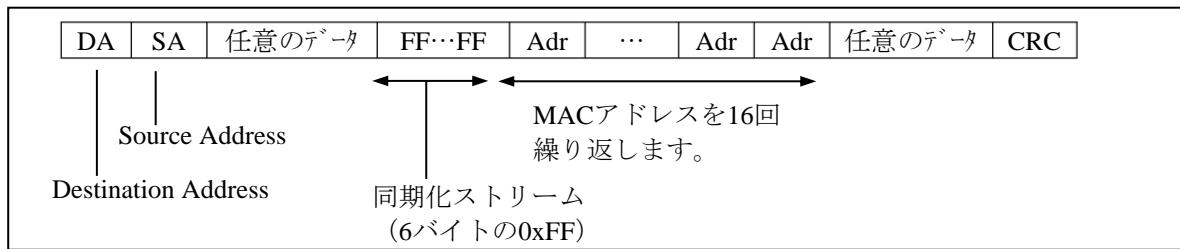
【留意事項】

- ・ Magic Packet™フレームは、必ず装置の内蔵LANアダプターに対して送信してください（接続位置につきましては、「1. 4 各部の名称と役割」を参照してください）。
- ・ 電源スイッチを4秒以上押して電源をOFFにした状態からは、WOLは使用できません。電源スイッチを4秒以上押して電源をOFFにした場合には、一度電源スイッチを押して装置を起動し、シャットダウン処理で再度電源をOFFにしてください。

<Magic PacketTMフレームの内容>

Magic PacketTMフレームは、SOURCE ADDRESS、DESTINATION ADDRESS（受信側のMACアドレスまたはBROADCAST ADDRESSを含むMULTICAST ADDRESS）、CRCなど、使用しているLANの基本的な条件を満たしている必要があります。Magic PacketTMフレームのデータは、ノードのMACアドレスを16回繰り返すことによって構成されます。このシーケンスは、パケット内のどこに位置していてもかまいませんが、必ず同期化ストリームの後に続いていなければなりません。同期化ストリームは、6バイトの0xFFとして定義されます。16回繰り返されるMACアドレスが起動対象の装置のアドレスと合致すれば、デバイスは、BROADCASTフレームも受信します。

以下にMagic PacketTMフレームを示します。



2. 7 LANインターフェースの設定方法

この装置は、1000Base-T/100Base-TX/10Base-TのLANポートを3ポート搭載しています。LANポートコネクタ（1000Base-T/100Base-TX/10Base-T）の実装位置は、「1. 4 各部の名称と役割」を参照してください。

【留意事項】

- ・ネットワークについての注意事項は、「注意事項 2. ネットワークについて」を参照してください。

● ネットワーク転送速度または転送モード自動認識機能について

LANポートは、ネットワーク転送速度または転送モードを自動的に認識するオートネゴシエーション機能を持っています。通常はこのオートネゴシエーション設定で使用してください（WOL機能を使用する場合は、オートネゴシエーション設定にしてください。また、速度を1000Mbps固定にしますと、WOL機能は使用できません）。

また、接続されるハブとの相性によってはオートネゴシエーション機能が正常に動作しないで、他の端末との通信に悪影響を及ぼす可能性があります。

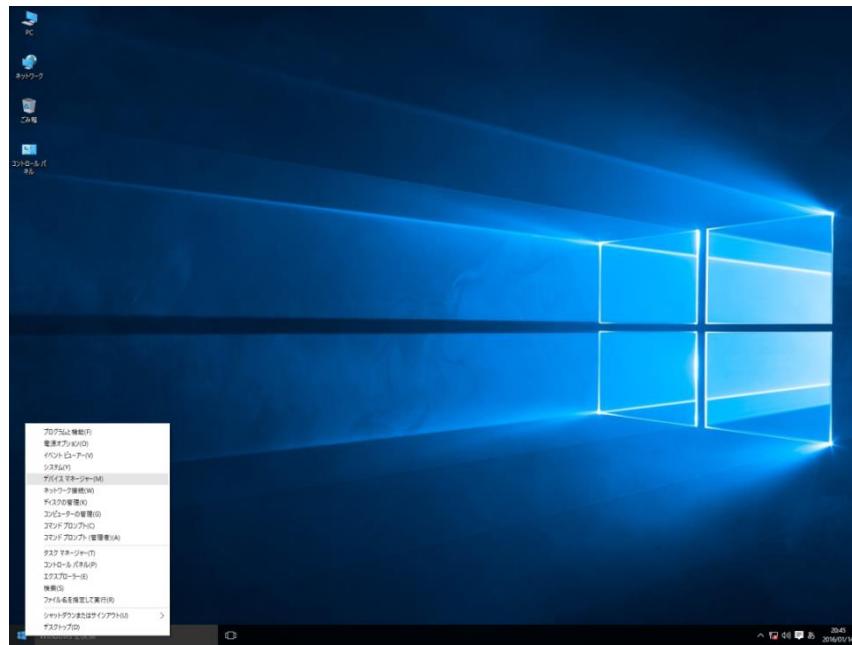
オートネゴシエーション機能が正常に動作しない場合には、LANインターフェースを下記のように設定してください。

ハブ側仕様	LAN設定仕様 (*)	
	速度	デュプレックス
10Mbps／半二重	10Mbps	半二重通信 (Half Duplex)
10Mbps／全二重	10Mbps	全二重通信 (Full Duplex)
100Mbps／半二重	100Mbps	半二重通信 (Half Duplex)
100Mbps／全二重	100Mbps	全二重通信 (Full Duplex)
1000Mbps	1000Mbps (1.0Gbps)	全二重通信 (Full Duplex)

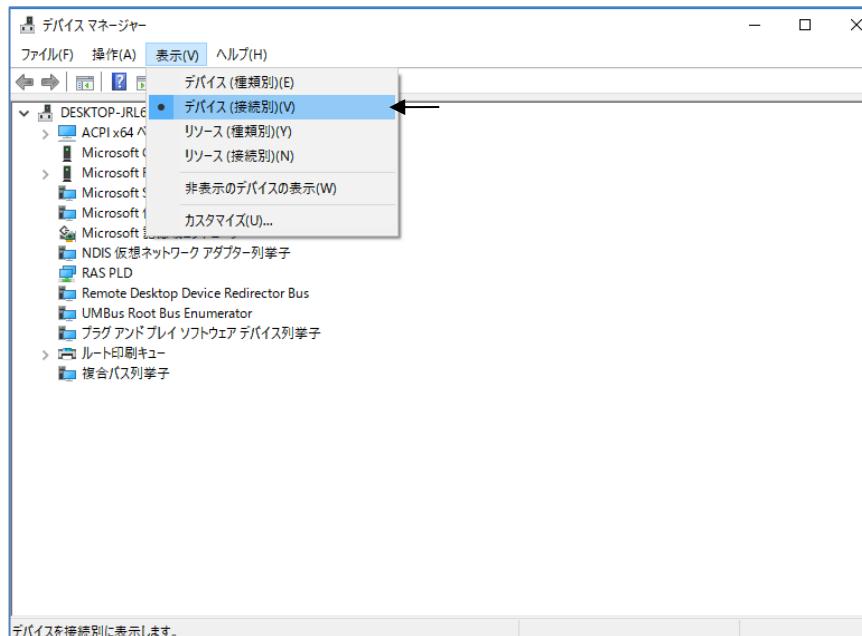
(*) 使用しているLANポートによって表示が異なります。

● ネットワーク転送速度の設定方法

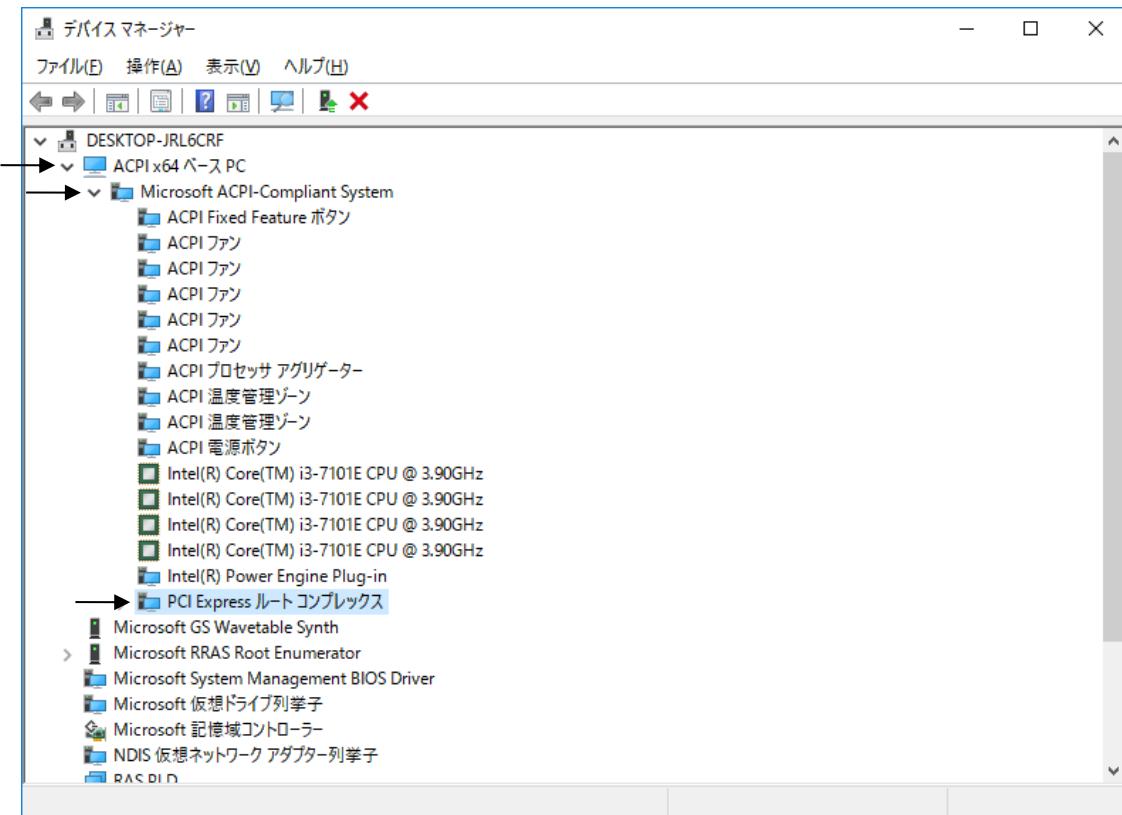
- ① コンピュータの管理者アカウントでサインインしてください。
- ② [スタート] ボタンを右クリックし、 [デバイスマネージャー(M)] をクリックしてください。
[デバイスマネージャー] 画面が表示されます。



- ③ [表示(V)] タブをクリックし、 [デバイス(接続別)(V)] を選択してください。



- ④ [ACPI x64-based PC] - [Microsoft ACPI-Compliant System] - [PCI Express ルート コンプレックス] を開いてください。



- ⑤ 以下を参照し、設定を変更したいネットワークアダプターをダブルクリックし、[Network Connectionのプロパティ] を表示させてください。

<内蔵LAN (LAN1) の設定を変更する場合>

[Intel(R) 100 Series/C230 Series Chipset Family PCI Express Root Port #6 – A115] をクリックし、その下に表示されるネットワークアダプター

(下図ではIntel(R) I210 Gigabit Network Connection #2) をダブルクリックしてください。

<内蔵LAN (LAN2) の設定を変更する場合>

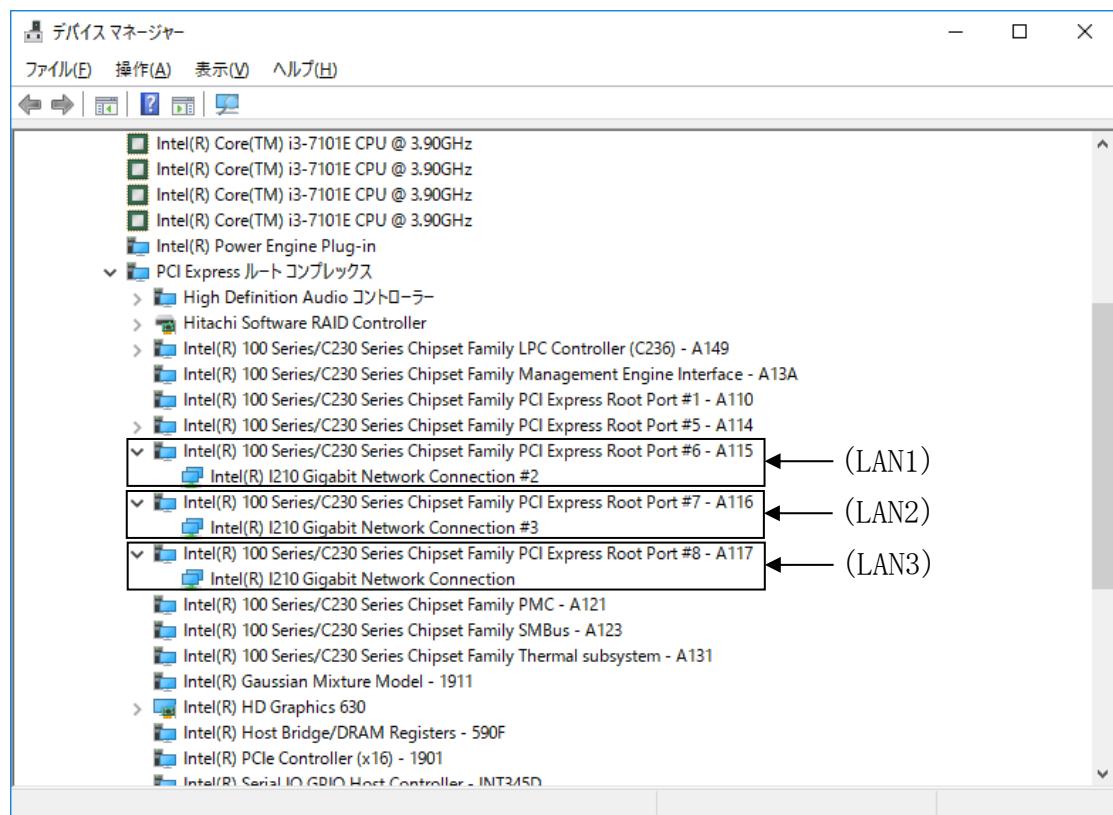
[Intel(R) 100 Series/C230 Series Chipset Family PCI Express Root Port #7 – A116] をクリックし、その下に表示されるネットワークアダプター

(下図ではIntel(R) I210 Gigabit Network Connection #3) をダブルクリックしてください。

<内蔵LAN (LAN3) の設定を変更する場合>

[Intel(R) 100 Series/C230 Series Chipset Family PCI Express Root Port #8 – A117] をクリックし、その下に表示されるネットワークアダプター

(下図ではIntel(R) I210 Gigabit Network Connection) をダブルクリックしてください。



⑥ [リンク速度] タブをクリックしてください。

Windows® 10 2019 LTSCの場合は、「詳細設定」タブをクリックしてください。



⑦ [速度とデュプレックス(S):] のプルダウンメニューから、設定する転送速度／転送モードを選択してください。

Windows® 10 2019 LTSCの場合は、[プロパティ(P):]の[Speed & Duplex]の項目で設定する転送速度／転送モードを選択してください。

- | | |
|--------------------------------------|-----------------|
| ・オートネゴシエーション (Auto Negotiation) | : オートネゴシエーション設定 |
| ・10Mbps 半二重通信 (10Mbps Half Duplex) | : 10Mbps／半二重設定 |
| ・10Mbps 全二重通信 (10Mbps Full Duplex) | : 10Mbps／全二重設定 |
| ・100Mbps 半二重通信 (100Mbps Half Duplex) | : 100Mbps／半二重設定 |
| ・100Mbps 全二重通信 (100Mbps Full Duplex) | : 100Mbps／全二重設定 |
| ・1.0Gbps 全二重通信 (1.0Gbps Full Duplex) | : 1.0Gbps／全二重設定 |

転送速度／転送モードを設定する必要がない場合は、プルダウンメニュー最上段の【オートネゴシエーション】を選択し、オートネゴシエーション設定にしてください。



- ⑧ [OK] ボタンをクリックしてください。
- ⑨ [デバイスマネージャー] 画面を閉じてください。

【留意事項】

- ・ネットワークについての注意事項は、「注意事項 2. ネットワークについて」を参照してください。

<1000Mbpsのリンクが安定しない場合>

接続するハブの種類によっては、1000Mbpsの速度でリンクが安定しない場合があります。

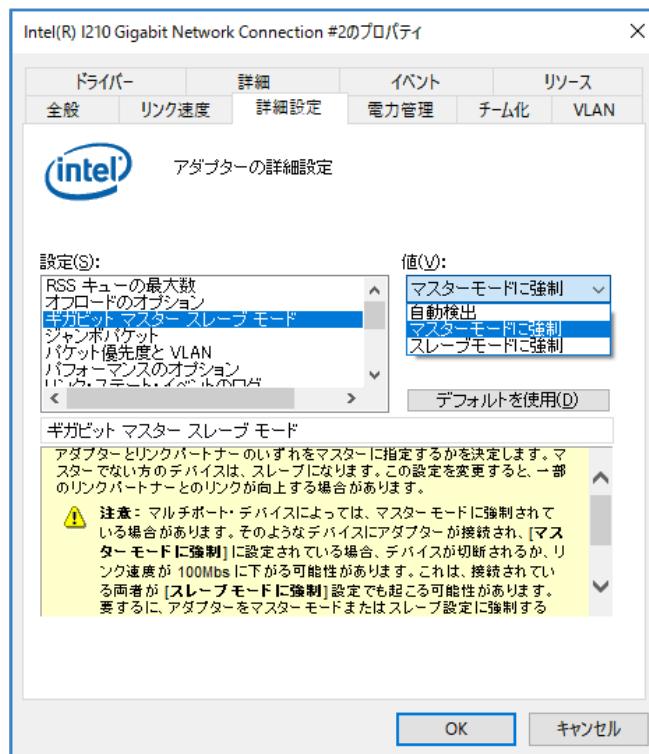
1000Mbpsの速度でネットワークを使用する場合は、ハブとの接続検証を事前に実施してください。

また、1000Mbpsでリンクが安定しない場合、以下の方法でリンクが安定することがあります。

- ・20m以上、100m未満のケーブルで接続する（UTPカテゴリ5e以上を使用してください）。
- ・マスタースレーブモードの設定をマスター固定にする（1000Mbps設定時だけ有効）。

マスタースレーブモードの設定をマスター固定にする方法は以下のとおりです。また、ハブの種類によってはリンクしなくなる場合があります。その場合は、[自動検出 (Auto Detect)] に戻してください。

- ① 「2. 7 LANインターフェースの設定方法」の「● ネットワーク転送速度の設定方法」の①～⑤までを実行してください。
- ② [詳細設定] タブをクリックし、[設定(S):] の [ギガビット マスター スレーブ モード] を選択してください。
- ③ [値(V):] プルダウンメニューから [マスター モードの強制] を選択してください。
- ④ [OK] ボタンをクリックした後、OSを再起動してください。



- OS起動時にリンクが切断されるログが記録される点について

Windows®起動時、イベントログに下記の警告を表示することがあります。この警告は、Windows®起動時のLAN ドライバ初期化処理によって記録しているもので、システム動作上問題はありません。

イベントID	ソース	種類	分類	説明
27	e1rexpress	警告	なし	Intel(R) I210 Gigabit Network Connection (*1) Network link is disconnected. (*2)

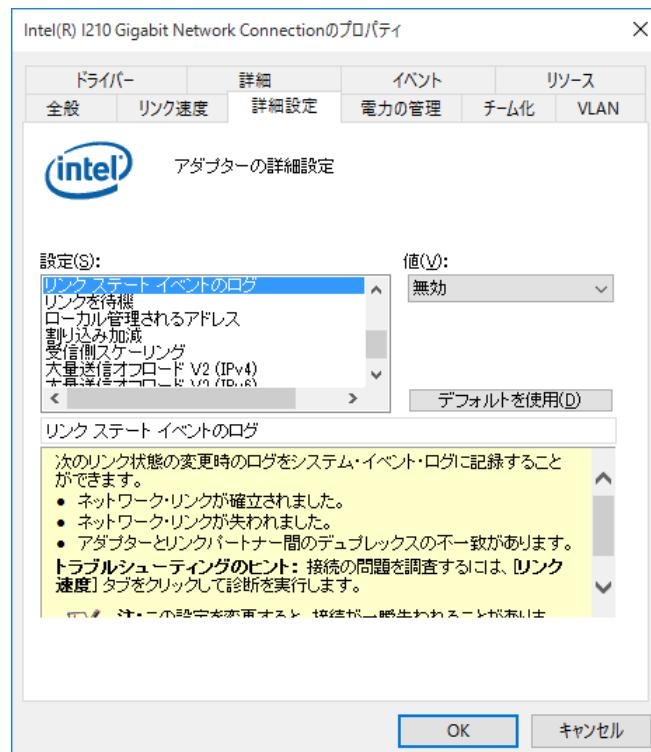
(*1) LANアダプターによって表示名称が異なります。

(*2) OSによって表示内容は異なります。

なお、下記の手順でLANアダプターの設定を変更することで、この警告をイベントログに表示しない
ようにできます。

ただし、この設定を行うと、システム稼働中のLAN接続・切断のログも記録しないため、不具合発生時の解析が困難になる可能性がありますので注意してください。

- ① 「2. 7 LANインターフェースの設定方法」の「● ネットワーク転送速度の設定方法」の①～⑤までを実行してください。
 - ② [詳細設定] タブをクリックし、[設定(S):] の [リンクステートイベントのログ] を選択してください。
 - ③ [値(V):] プルダウンメニューから、[無効] を選択してください。



2. 8 ビデオ表示画面の設定方法

画面の設定では、色数（画面の同時発色数）、解像度（画面を構成するドット数）、リフレッシュレート（1秒間に画面が更新される回数）、シングルディスプレイとマルチディスプレイの設定が行えます。

【留意事項】

- ・ビデオ表示画面についての注意事項は、「注意事項 3. ビデオ表示画面について」を参照してください。
- ・ビデオ表示画面の設定を変更する場合は、[インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル]にて画面設定をしてください。

(1) 1画面表示時（シングルディスプレイ）の画面設定方法

1台のディスプレイを接続している場合は、以下の手順で画面設定をしてください。

- ① デスクトップ上で右クリックし、表示されるメニューから [インテル® グラフィックスの設定] をクリックして [インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル] を起動してください



- ② [インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル] 画面の [ディスプレイ] をクリックしてください。



- ③ 画面中央の項目で画面設定を行ってください。

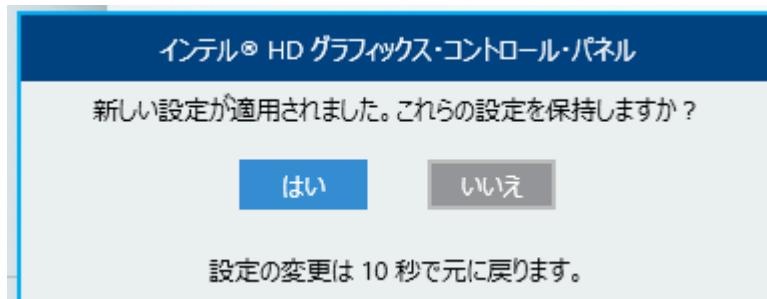


設定項目	説明
解像度	解像度を選択できます。
リフレッシュレート	リフレッシュレートを選択できます。

【留意事項】

- ・回転およびスケーリングの設定は、変更しないでください。
- ・解像度、リフレッシュレートの設定は、「5. 1 装置仕様（4）サポート解像度」に記載の中から設定してください。

- ④ 設定項目を変更したら〔適用〕ボタンをクリックしてください。なお、解像度またはリフレッシュレートを変更した場合、設定変更の確認画面が表示されるので〔はい〕ボタンをクリックしてください。

**【留意事項】**

- ・設定できる解像度には、接続しているディスプレイでサポートしている解像度より大きな解像度も含まれています。
- ・ディスプレイで表示可能な最大解像度を超えた解像度に設定した場合、ディスプレイに画面が表示されなくなります。
- ・ドライバインストール後は、接続しているディスプレイでサポートしている最大解像度に設定されますので、解像度を変更する場合は小さな解像度に設定してください。

(2) 複数画面表示（マルチディスプレイ）時の画面設定方法

複数台のディスプレイを接続している場合は、同時に表示させるマルチディスプレイ出力が可能です。マルチディスプレイの設定は以下の手順で行ってください。

- ① 「(1) 1画面表示時（シングルディスプレイ）の画面設定方法」を参照し、[インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル] 画面の [ディスプレイ] をクリックしてください。
- ② [マルチ・ディスプレイ] をクリックして、マルチディスプレイの設定を行ってください。



以降に、「クローン・ディスプレイ」、「拡張デスクトップ」、「コラージュ」の設定方法を示します。

【留意事項】

- DisplayPortのマルチストリーム機能(ディジーチェーン)は非サポートです。

(a) クローン・ディスプレイ

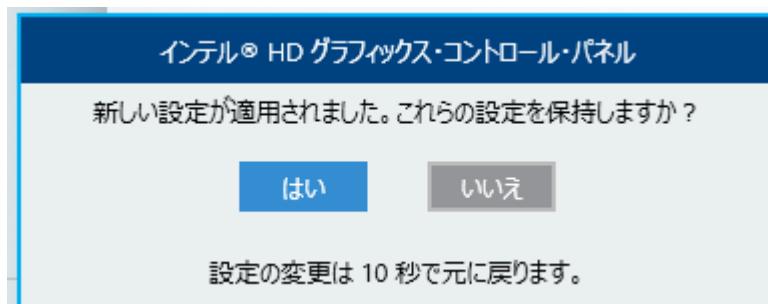
複数のディスプレイで同じ画面を表示する設定であり、解像度、色数、リフレッシュレートは共通の設定となります。使用するディスプレイの表示能力（最大解像度、最高リフレッシュレートなど）を接続前に確認してください。

- ① [インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル] 画面の [マルチ・ディスプレイ] をクリックしてください。
- ② [ディスプレイ・モードの選択] にて、[クローン・ディスプレイ] を選択してください。



- ③ 設定項目を変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

設定変更の確認画面が表示されるので [はい] ボタンをクリックしてください。



(b) 拡張デスクトップ

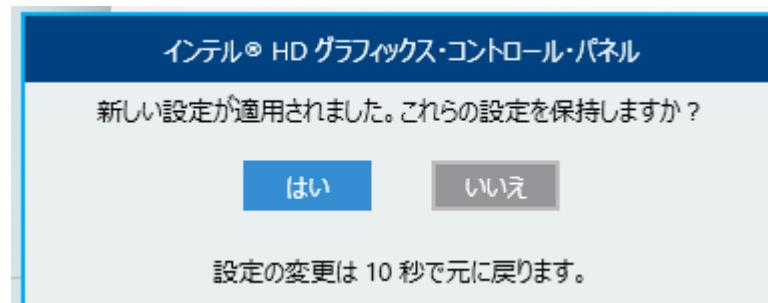
1つの画面を複数のディスプレイで分割して表示する設定であり、解像度、色数、リフレッシュレートは独立した設定にできます。タスクバーは主ディスプレイ側のみに表示されます。設定可能な解像度、色数、リフレッシュレートは接続されているディスプレイの表示能力に依存します。

- ① [インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル] 画面の [マルチ・ディスプレイ] をクリックしてください。
- ② [ディスプレイ・モードの選択] にて、[拡張デスクトップ] を選択してください。



- ③ 設定項目を変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

設定変更の確認画面が表示されるので [はい] ボタンをクリックしてください。



(c) コラージュ

1つの画面を複数のディスプレイで分割して表示する設定であり、表示可能な解像度は各ディスプレイの解像度の合計値となります。例えば、2つのディスプレイを水平方向に並べて、コラージュに設定した場合、水平方向の解像度がディスプレイ2台分となります。解像度、色数、リフレッシュレートの設定は、複数のディスプレイ共通です。タスクバーは主ディスプレイ側のみに表示されます。設定可能な解像度、色数、リフレッシュレートは接続されているディスプレイの表示能力に依存します。

- ① [インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル] 画面の [マルチ・ディスプレイ] をクリックしてください。
- ② [ディスプレイ・モードの選択] にて、 [コラージュ] を選択してください。

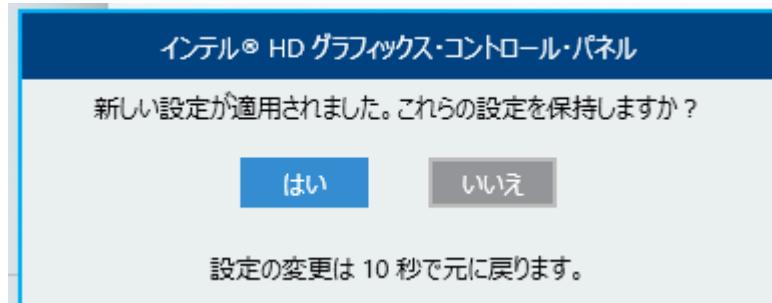


- ③ [コラージュ] にて、 [有効] を選択してください。



- ④ 設定項目を変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

設定変更の確認画面が表示されるので [はい] ボタンをクリックしてください。



第3章 セットアップ

3. 1 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

3. 1. 1 Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのセットアップ手順を示します。

- Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBの基本項目を設定します。
- RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- 所要時間は約20分です。

● セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。また、この節に記載するセットアップ作業は、出荷時のハードウェア構成で実施してください。

ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
ユーザー名	コンピュータの管理者アカウントのユーザー名です。 後からコントロールパネルで変更可能です。
パスワード	ユーザーのパスワードです。 後からコントロールパネルで変更可能です。

● Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのセットアップ手順

以下の手順でWindows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのセットアップを行ってください。

- ① この装置の電源を入れます。

Windows®が起動してセットアップの準備が行われます。

その後、デバイスドライバのインストールが行われていることを示す「Setup is installing devices. Please wait...」のメッセージが表示されます。

- ・これらの処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。
- ・再起動後、セットアップが継続されます。

- ② [Hi there] 画面が表示されます。

- ・使用する言語および設定項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

【留意事項】

この装置のタイムゾーンの初期設定は「大阪・東京・札幌」としております。

タイムゾーンを変更した場合、この装置のシステム時刻は「大阪・東京・札幌」のタイムゾーンから時差分変更されます。

- ③ [法的文書をお読みください] 画面が表示されます。

- ・表示内容を確認し、[承諾する] ボタンをクリックします。

- ④ [すぐに使い始めることができます] 画面が表示されます。

- ・[カスタマイズ] ボタンをクリックします。
- ・設定については必要に応じオンまたはオフを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
- ・再起動後、セットアップが継続されます。

- ⑤ [このPC用のアカウントの作成] 画面が表示されます。

- ・[このPCを使うのはだれですか] にユーザー名を入力します。
- ・[パスワードの安全性を高めてください] の[パスワードを入力してください] にパスワードを入力します。
- ・[もう一度パスワードを入力してください] にもう一度パスワードを入力します。
- ・[パスワードのヒント] にパスワードのヒントを入力します。
- ・[次へ] ボタンをクリックします。

【留意事項】

[このPC用のアカウントの作成] 画面では、使用する言語に日本語を選択していても

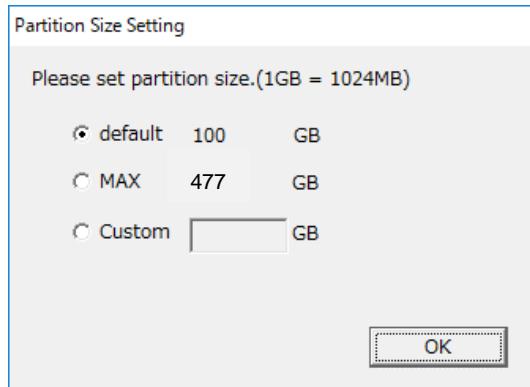
Windows®はキーボードレイアウトがデフォルト設定の英語キーボードとなります。

そのため、日本語キーボードから入力していても、日本語入力が行えず、記号、特殊文字の入力が日本語キーボードの表記と異なる入力となります。

日本語、記号、特殊文字をユーザー名、パスワード、パスワードのヒントに使いたい場合には英数字で仮設定してセットアップを完了し、セットアップ後に再設定してください。

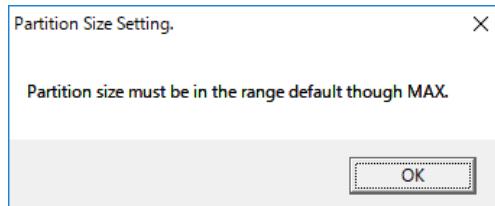
- ⑥ セットアップが完了後、自動的にサインインします。

- ⑦ パーティション容量設定画面が表示されます。



- ・作成可能な範囲の最小値（default）および作成可能な範囲の最大値（MAX）の容量が表示されますので、作成したい容量を選択し、【OK】ボタンをクリックしてください。作成可能な範囲の最小値（default）は、製品出荷時に表示されている容量です。
- ・容量を直接入力する場合は、カスタム(Custom)を選択してからパーティション容量をGB単位（1GB=1,073,741,824バイト）で入力し、【OK】ボタンをクリックしてください。

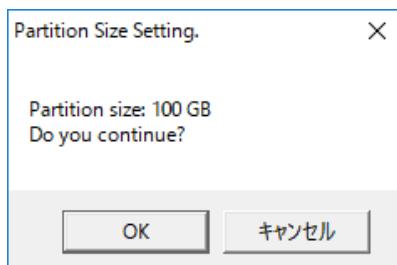
カスタム(Custom)を選択し、【OK】ボタンをクリックした際に、入力可能範囲外の数値が入力されていた場合は以下のメッセージが表示されますので、【OK】ボタンをクリックし、パーティション容量を再入力してください。



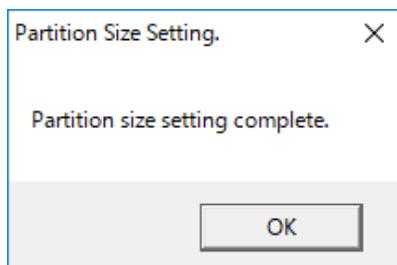
【留意事項】

リカバリDVDによる出荷状態への復元時に【Only the system and boot partition】を選択した場合、パーティション容量設定画面は表示されず、⑨のダイアログ終了時点までセットアップが進みます。

- ⑧ パーティション容量設定の確認画面が表示されます。
表示されたパーティション容量でよい場合は [OK] ボタンをクリックします。



- ⑨ パーティション容量設定が成功すると、以下のメッセージが表示されますので、
[OK] ボタンをクリックしてください。ダイアログを終了します。



その後、セットアップが継続し、「Windows システム評価ツール」、「Please wait. The system will restart automatically.」の順にメッセージが表示されますが、そのままお待ちください。再起動が行われます。

なお、これらの処理には数分かかります。

【留意事項】

セットアップ時に日本語を選択した場合、「Please wait. The system will restart automatically.」のメッセージ表示を行うことなく、再起動が行われる場合がありますが、システムの動作に問題はありません。

以上で、Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのセットアップは終了です。これ以降は「3. 2 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

3. 1. 2 Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCのセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCのセットアップ手順を示します。

- Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCの基本項目を設定します。
- RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- 所要時間は約20分です。

● セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。また、この節に記載するセットアップ作業は、出荷時のハードウェア構成で実施してください。

ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
ユーザー名	コンピュータの管理者アカウントのユーザー名です。 後からコントロールパネルで変更可能です。
パスワード	ユーザーのパスワードです。 後からコントロールパネルで変更可能です。

● Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCのセットアップ手順

以下の手順でWindows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCのセットアップを行ってください。

- ① この装置の電源を入れます。

Windows®が起動してセットアップの準備が行われます。

その後、デバイスドライバのインストールが行われていることを示す「Setup is installing devices. Please wait...」のメッセージが表示されます。

- ・これらの処理には数分かかることがあります、そのままお待ちください。
- ・再起動後、セットアップが継続されます。

- ② 使用する言語を選択する画面が表示されます。

- ・使用する言語を選択し、[はい] ボタンをクリックします。

- ③ お住いの地域を選択する画面が表示されます。

- ・お住いの地域を選択し、[はい] ボタンをクリックします。

- ④ キーボードレイアウトを確認する画面が表示されます。

- ・表示されるキーボードレイアウトを確認し、[はい] ボタンをクリックします。

- ⑤ 2つ目のキーボードレイアウトを追加する画面が表示されます。

- ・追加する場合には[レイアウトの追加] ボタンをクリックし、使用するキーボードレイアウトを選択、[次へ] ボタンをクリックします。

- ・追加しない場合には[スキップ] ボタンをクリックします。

- ⑥ ネットワークに接続する画面が表示されます。

- ・[今はスキップ] をクリックします。

- ・画面が切り替わりますので、[いいえ] をクリックします。

- ・再起動後、セットアップが継続されます。

- ⑦ 再起動後、もう一度ネットワークに接続する画面が表示されます。

- ・[今はスキップ] をクリックします。

- ・画面が切り替わりますので、[いいえ] をクリックします。

- ・[いいえ] をクリックします。

- ⑧ [Windows 10 使用許諾契約] 画面が表示されます。

- ・表示内容を確認し、[同意] ボタンをクリックします。

- ⑨ [このPCを使うのはだれですか] 画面が表示されます。

- ・[名前] にユーザー名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

- ⑩ [確実に覚えやすいパスワードを作成します] 画面が表示されます。

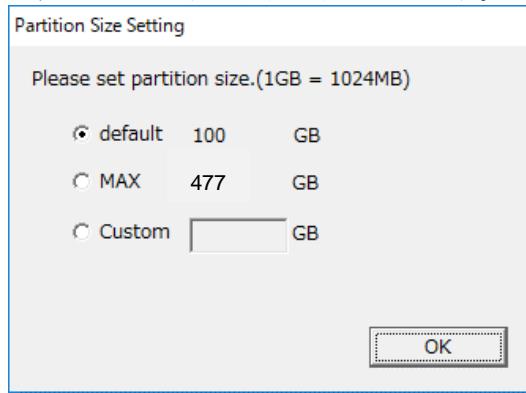
- ・[パスワード] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

- ・[パスワードの確認] 画面が表示されますので、[パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

【留意事項】

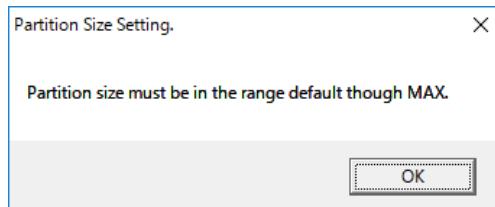
[このPC用のアカウントの作成] 画面では、使用する言語に日本語を選択していても Windows®はキーボードレイアウトがデフォルト設定の英語キーボードとなります。そのため、日本語キーボードから入力していても、日本語入力が行えず、記号、特殊文字の入力が日本語キーボードの表記と異なる入力となります。日本語、記号、特殊文字をユーザー名、パスワード、パスワードのヒントに使いたい場合には英数字で仮設定してセットアップを完了し、セットアップ後に再設定してください。

- ⑪ [このアカウントのセキュリティの質問を作成します] 画面が表示されます。
 - ・ [セキュリティの質問] から質問内容を選択し、[答え] に答えを入力します。セキュリティの質問は3つ設定します。
 - ・ [次へ] ボタンをクリックします。
- ⑫ [アクティビティの履歴を利用してデバイス間でより多くのことを行う] 画面が表示されます。
 - ・ 必要に応じ [はい] または [いいえ] ボタンをクリックします。
- ⑬ [デバイスのプライバシー設定の選択] 画面が表示されます。
 - ・ 設定については必要に応じオンまたはオフを選択し、[同意] ボタンをクリックします。
- ⑭ セットアップが完了後、自動的にサインインします。
- ⑮ パーティション容量設定画面が表示されます。



- ・ 作成可能な範囲の最小値 (default) および作成可能な範囲の最大値 (MAX) の容量が表示されますので、作成したい容量を選択し、[OK] ボタンをクリックしてください。作成可能な範囲の最小値 (default) は、製品出荷時に表示されている容量です。
- ・ 容量を直接入力する場合は、カスタム(Custom)を選択してからパーティション容量を GB単位 (1GB=1,073,741,824バイト) で入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。

カスタム(Custom)を選択し、[OK] ボタンをクリックした際に、入力可能範囲外の数値が入力されていた場合は以下のメッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックし、パーティション容量を再入力してください。

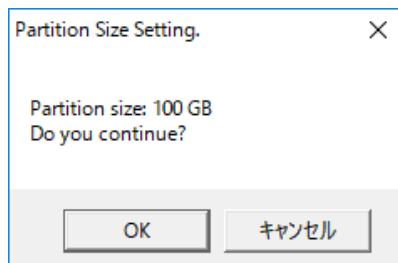


【留意事項】

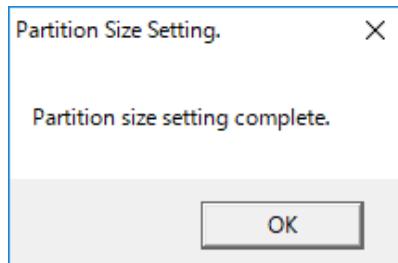
リカバリ DVDによる出荷状態への復元時に [Only the system and boot partition] を選択した場合、パーティション容量設定画面は表示されず、⑯のダイアログ終了時点までセットアップが進みます。

- ⑯ パーティション容量設定の確認画面が表示されます。

表示されたパーティション容量でよい場合は [OK] ボタンをクリックします。



- ⑰ パーティション容量設定が成功すると、以下のメッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。ダイアログを終了します。



その後、セットアップが継続し、「Windows システム評価ツール」、「Please wait. The system will restart automatically.」の順にメッセージが表示されますが、そのままお待ちください。再起動が行われます。

なお、これらの処理には数分かかります。

以上で、Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCのセットアップは終了です。これ以降は「3. 2 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

3. 2 OSセットアップ後の基本設定

3. 2. 1 Windows® 10の基本設定

この節では、プレインストールされたWindows® 10の基本設定手順を示します。

この手順は、「3. 1 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」を参照してOSのセットアップを実施した後に必要に応じて実施してください。

3. 2. 1. 1 基本設定手順の概要

LANインターフェースの設定



「2. 7 LANインターフェースの設定方法」を参照してください。

ビデオ表示画面の設定



「2. 8 ビデオ表示画面の設定方法」を参照してください。

自動更新の設定



「3. 2. 1. 2 自動更新の設定」を参照してください。
・所要時間は約5分です。

3. 2. 1. 2 自動更新の設定

Windows® 10はWindows Updateより配信される更新プログラムが自動的に適用される設定になっています。システムおよびアプリケーションの更新プログラムが定期的に確認され、自動的にダウンロードおよびインストールされます。

自動更新の設定は、以下の手順で実施してください。

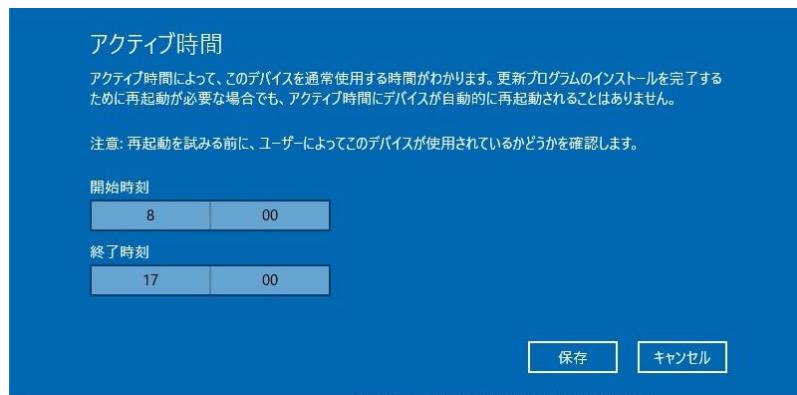
- ① [スタート] ボタンをクリックし、表示されたメニューから [設定] をクリックします。
- ② [更新とセキュリティ] をクリックします。Windows Update 画面が表示されます。
(画像イメージはWindows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB の例です。)



Windows® 10の自動更新の設定には以下のような項目があります。

(1) アクティブ時間の変更

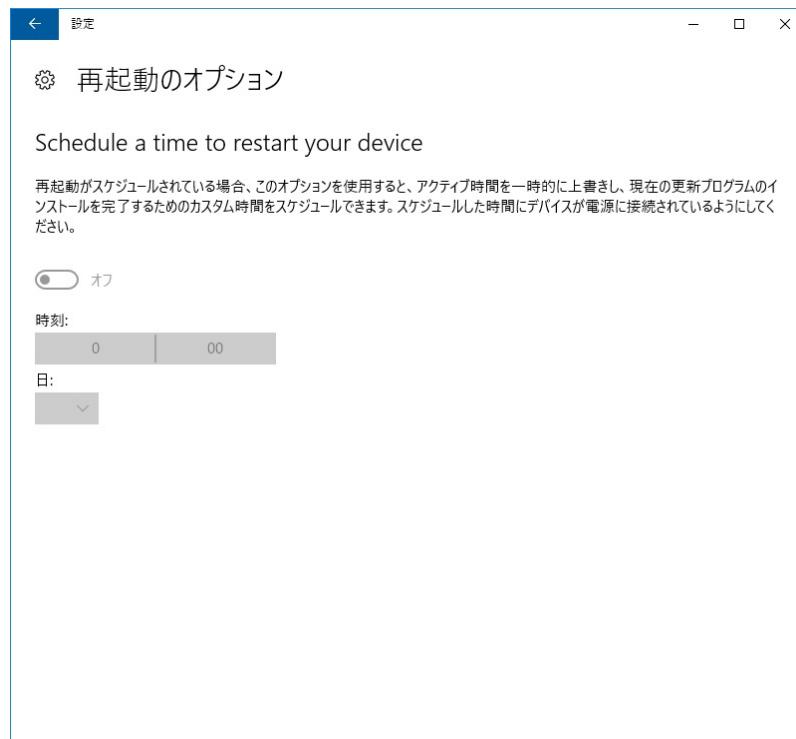
ダウンロード および インストールは自動的に行われますが、アクティブ時間中であれば再起動は行われず、アクティブ時間外に再起動がスケジュールされます。お客様の利用環境に合わせて設定してください。（画像イメージはWindows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBの例です。）



(初期設定では8:00～17:00が設定されています)

(2) 再起動のオプション(Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBのみ)

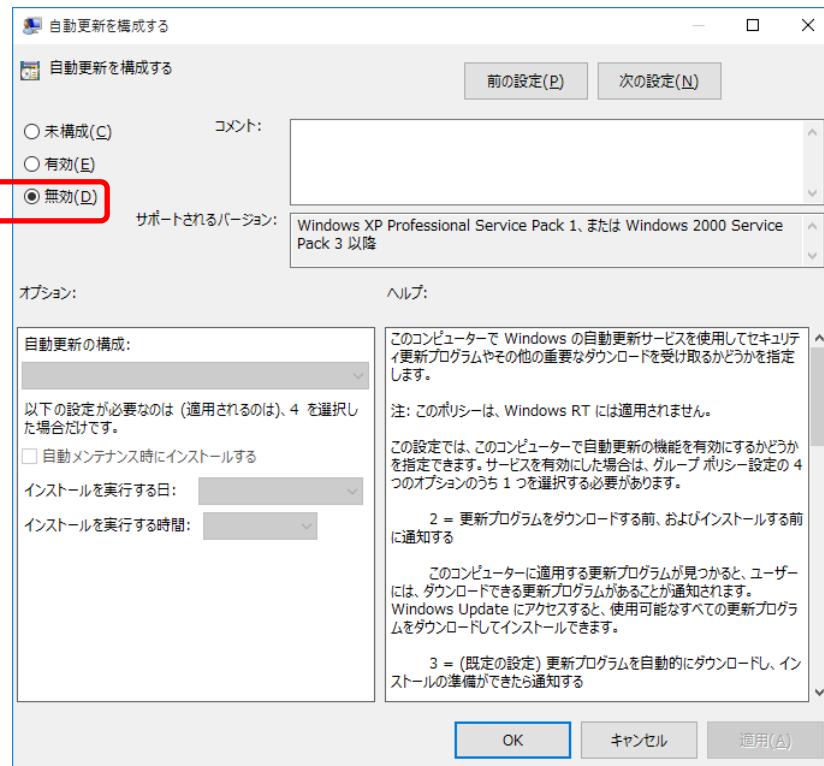
自動更新が実施され再起動がスケジュールされている場合、一時的に再起動の日時を設定することができます。なお、この設定はアクティブ時間よりも優先されます。



<Windows Updateを手動更新にする方法>

更新プログラムを自動的にダウンロードおよびインストールを行わせたくない場合は、ローカルグループポリシーエディタ(gpedit.msc)を使用して、Windows Updateを手動更新に設定することができます。Windows Updateを手動更新にする方法を以下に示します。

- ① コンピュータの管理者アカウントでサインインします。
- ② [スタート] ボタンを右クリックし [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- ③ [ファイル名を指定して実行] 画面で「gpedit.msc」と入力してローカルグループポリシーエディタを起動します。
- ④ ローカルグループポリシーエディタで、[コンピューターの構成] – [管理用テンプレート] – [Windows コンポーネント] – [Windows Update] – [自動更新を構成する] の項目を開きます。
- ⑤ [自動更新を構成する] 画面で [無効] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



第4章 OS動作上の特記事項

4. 1 セットアップ中のイベントログ記録について

この装置では、OSのセットアップ中に以下のイベントログが記録されることがあります、システムの動作に影響はありません。

表4-1 エラー/警告イベントログ（セットアップ中）

ソース	イベントID	種類
Search-ProfileNotify	2	エラー
SecurityCenter	16	エラー
volmgr	46,49	エラー
Service Control Manager	7000,7009,7022 7023,7024,7043	エラー
Bits-Client	16392	エラー
SideBySide	33	エラー
Search	1008	警告
e1express	27	警告
Kernel-PnP	219	警告
User Profiles Service	1534	警告
Winlogon	6005,6006	警告

イベントID:7009,7023はセットアップ中以外の場合でも記録されることがあります、断続的に記録されていなければ問題ありません。

イベントID:33はセットアップ中のRASソフトウェアのインストール処理によって記録されることがあります、動作上問題ありません。このイベントログはRASソフトウェアを再インストールする際にも記録されることがあります。

イベントID:6005,6006は両方記録されている場合のみ問題ありません。

4. 2 OS動作中のイベントログ記録について

この装置では、OSの動作中に以下のイベントログが記録されることがありますが、システムの動作に影響はありません。

表4-2 エラー/警告イベントログ (1/2)

ソース	イベントID	種類
DistributedCOM	10010	エラー
Search	3104	エラー
Security-SPP	1014,8198,8200	エラー
iANSMiniport	11,16	エラー
e1express	27	警告
Time-Service	134	警告
Search	3036	警告
Windows Remote Management	10149	警告
Service Control Manager	7023	警告

この装置では、OS稼働時に以下のイベントログが記録されることがあります。

表4-3 エラー/警告イベントログ (2/2)

ソース	イベントID	種類
DistributedCOM	10016	エラー

- ソース: DistributedCOM、イベントID:10016は、イベントログの内容が以下に該当するものであれば問題ありません。

<イベントログの内容>

○Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSBの場合

アプリケーション固有のアクセス許可の設定では、**CLSID {*****}およびAPPID {*****}** のCOMサーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化のアクセス許可を、アプリケーションコンテナー ***** SID (*****) で実行中のアドレス LocalHost (LRPC使用) のユーザー***** SID (*****) に与えることはできません。このセキュリティアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。

イベントログに記録された CLSID および APPID が以下であることを確認します。

CLSID	D63B10C5-BB46-4990-A94F-E40B9D520160
APPID	9CA88EE3-ACB7-47C8-AFC4-AB702511C276

CLSID	260EB9DE-5CBE-4BFF-A99A-3710AF55BF1E
APPID	260EB9DE-5CBE-4BFF-A99A-3710AF55BF1E

○Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCの場合

アプリケーション固有のアクセス許可の設定では、**CLSID *****およびAPPID ******* のCOMサーバーアプリケーションに対するローカル起動のアクセス許可を、アプリケーションコンテナー ***** SID (*****) で実行中のアドレス LocalHost (LRPC使用) のユーザー***** SID (*****) に与えることはできません。このセキュリティアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。

イベントログに記録された CLSID および APPID が以下であることを確認します。

CLSID	Windows.SecurityCenter.WscBrokerManager
	Windows.SecurityCenter.WscDataProtection
	Windows.SecurityCenter.SecurityAppBroker
APPID	利用不可

4. 3 既定でスケジューリングされる機能について

Windows®では、様々な機能が既定でスケジューリングされており、定期的にバックグラウンドで実行されます。これらの機能の中で、ドライブの最適化（デフラグ）は動作するとシステムに負荷が掛かり、業務を行うアプリケーションの動作およびSSDの寿命に影響を与える可能性があります。

(1) ドライブの最適化

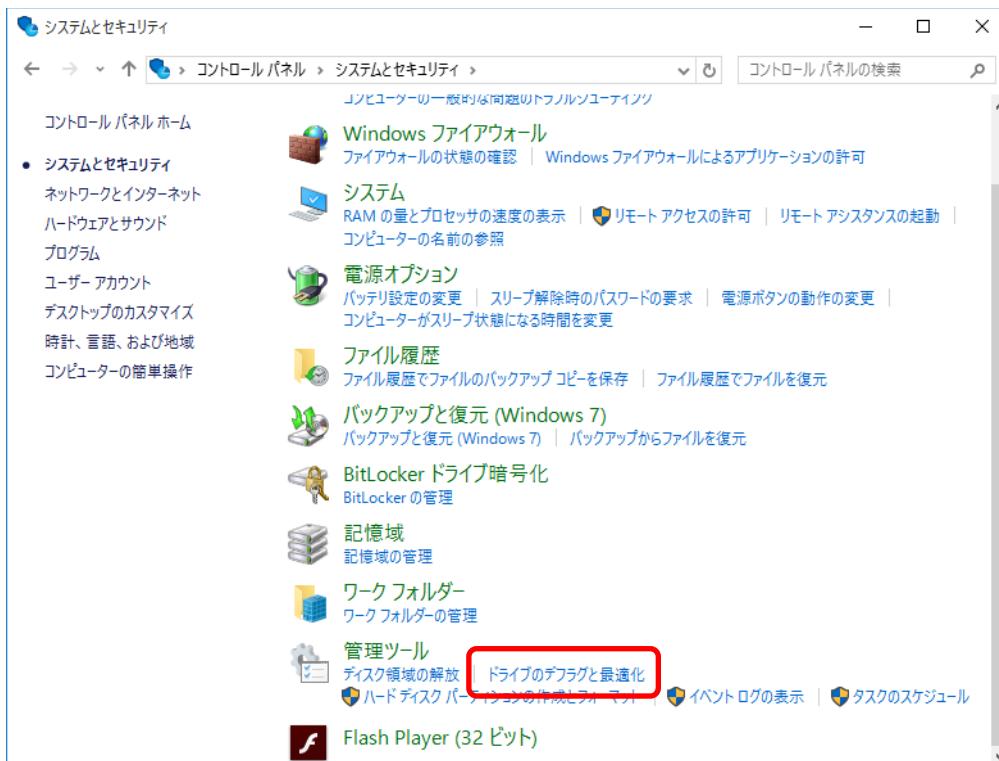
この装置では、ドライブの最適化のスケジュールは既定で無効にしています。ドライブの最適化を行う場合は、以下の方法で実施することができます。

- (a) ドライブの最適化のスケジュールを有効にする
- (b) ドライブの最適化を手動で実行する

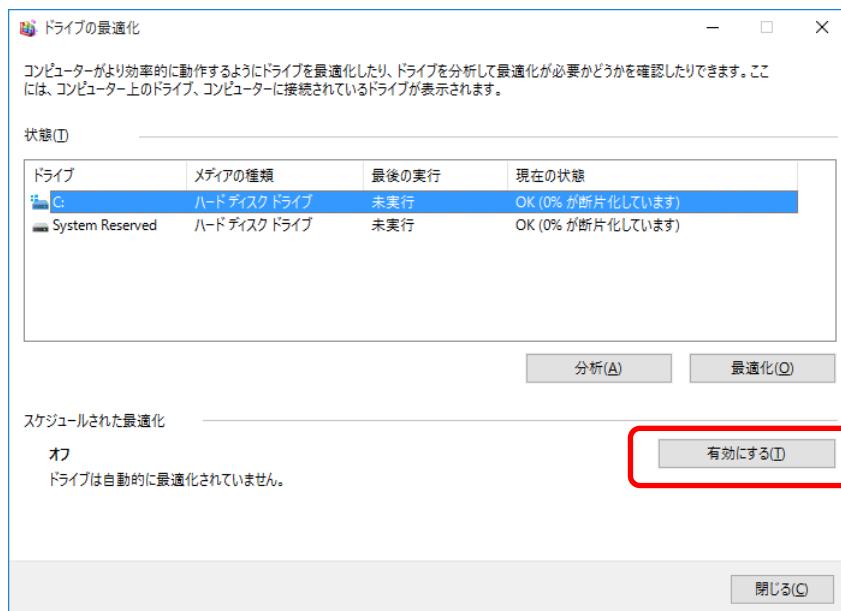
以降に、各手順を示します。

(a) ドライブの最適化のスケジュールを有効にする

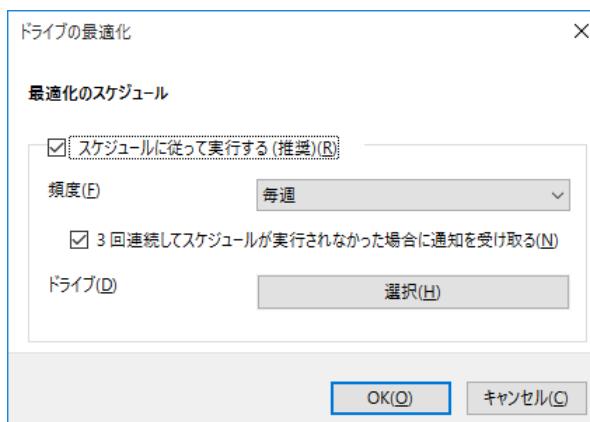
- ① コンピュータの管理者でサインインし、[コントロールパネル] 画面を表示します。
- ② [システムとセキュリティ] をクリックします。
- ③ 続いて管理ツールにある [ドライブのデフラグと最適化] をクリックします。



- ④ [ドライブの最適化] 画面が表示されます。
- [スケジュールされた最適化] にある [有効にする] ボタンをクリックします。

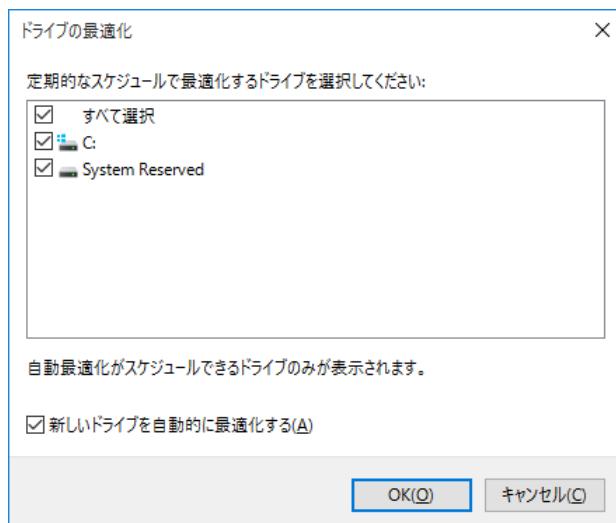


- ⑤ [最適化のスケジュール] 画面が表示されますので、[スケジュールに従って実行する(推奨)] チェックボックスをオンにします。



- ⑥ 必要に応じてドライブの最適化を実行する頻度を設定します。なお、スケジュールの初期設定は以下のとおりです。
- ・頻度：毎週
- ⑦ [選択] ボタンをクリックします。

- ⑧ [定期的なスケジュールで最適化するドライブを選択してください] 画面が表示されますので、必要に応じて最適化するドライブを選択します。
- ・ [OK] ボタンをクリックします。

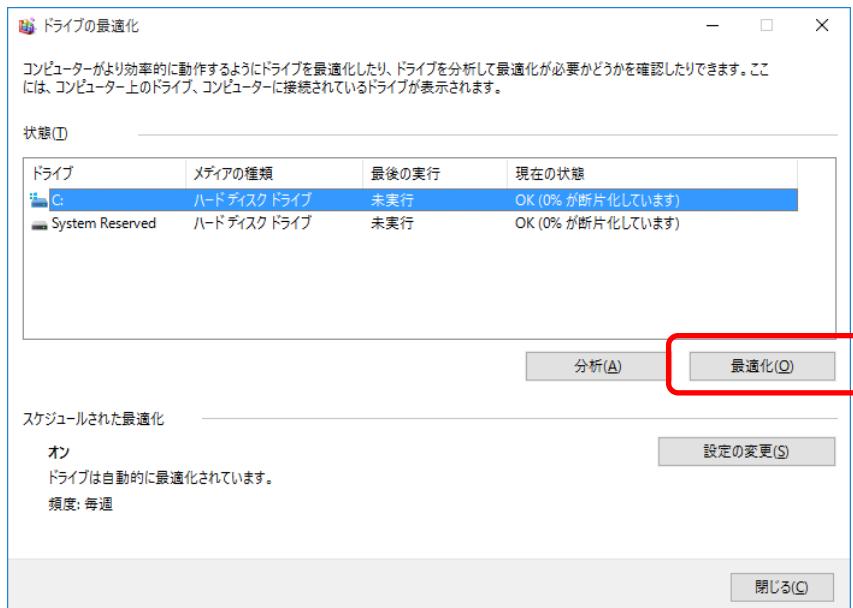


- ⑨ [最適化のスケジュール] 画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑩ 設定したスケジュールが [スケジュールされた最適化] に表示されますので、内容を確認してから [閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じます。



(b) ドライブの最適化を手動で実行する

- ① 前述 (a) の①から③を実施します。
- ② [ドライブの最適化] 画面が表示されます。
 - ・[状態] から最適化するドライブを選択し、[最適化] ボタンをクリックします。



- ・最適化が終了すると、[最後の実行] に最適化を実行した日時が表示されます。
- ③ [閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じます。

4. 4 セキュリティ強化機能について

Windows® 10では、スパイウェア対策機能であるWindows Defenderが既定で有効となっております。Windows Defenderにはウイルス対策機能も含まれており、この機能の影響でアプリケーションの性能がWindows® 7と比べて低下する場合があります。

4. 5 装置出荷時のネットワーク設定について

● SNP (Scalable Networking Pack) の無効化

SNPは、以下に示す3つの機能からなり、TCPに関する処理をネットワークアダプター側で実施することにより、プロセッサの負荷を軽減させることを目的としています。

- TCP Chimney Offload
- Receive Side Scaling (RSS)
- Network Direct Memory Access (NetDMA)

ただし、Windows®においてSNPを有効のままシステムを運用した場合、ネットワーク処理が不安定になったり、特定のネットワーク操作でパフォーマンスが低下したりすることがあるため、この装置ではSNPを無効としています。

Windows® 10では、TCP Chimney Offload および Network Direct Memory Access (NetDMA) はデフォルトで無効であるため、Receive Side Scaling (RSS) のみ無効に設定しています。

4. 6 ライセンス認証について

Windows® 10の場合、ライセンス認証はインターネット接続時に自動で行われます。

そのため、インターネットに接続されていない環境でライセンス認証が完了していない場合、コントロールパネルの「システムとセキュリティ」 - 「システム」に、「Windowsをライセンス認証するために、インターネットに接続してください」と表示されますが、そのまま使用しても問題ありません。

もし、オフラインでの電話認証によるライセンス認証を行われる場合は以下の手順でライセンス認証を行って下さい。

- ① 管理者権限のコマンドプロンプトより以下のコマンドを実行してください。

```
C:\windows\system32>slui 4で実行
Administrator: コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\windows\system32>slui 4
```

- ② 「国または地域を選んでください」画面が表示されるので、国を選択し、「次へ」をクリックします。
 - ③ 「電話でインストールIDをお知らせください」画面が表示されるので、表示された電話番号へ電話をお掛けになり、確認IDを確認してください。
確認IDの確認後、「確認IDを入力」をクリックします。
 - ④ 「確認IDを入力してください」画面が表示されるので、確認IDを入力してください。
確認IDの入力完了後、「Windowsのライセンス認証」をクリックします。
 - ⑤ 「手続きが完了しました」画面が表示されるので、「閉じる」をクリックします。
- 以上でライセンス認証は完了です。

4. 7 サインイン画面でマウス操作が行えなくなる現象について

Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCではパスワードを設定したユーザーのサインイン時にメモリダンプ収集設定確認メッセージが表示された場合、背景画面のみが表示されマウス操作が行えなくなる現象が発生することがあります。

本現象が発生した場合にはキーボード操作を行うことでサインイン画面が表示されますので、エンターキーを押下して対処して下さい。

第5章 仕様

5. 1 装置仕様

(1) 共通仕様

項目	仕様	
型式 (プレインストールOS)	HJ-4075-WEMS (Microsoft® Windows® 10 IoT Enterprise 2016 LTSB (64bit)) HJ-4075-WFMS (Microsoft® Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSC (64bit))	
プロセッサー	Intel® Core™ i3-7101TE Processor (3.4GHz、2コア/4スレッド)	
メインメモリー	4GB/8GB/16GB	
表示解像度・表示色	「(4) サポート解像度」参照	
ファイル 装置 (*1)(*2)	DRIVE1	SATA SSD 512GB
	DRIVE2	SATA SSD 512GB (オプション)
標準入出力インターフェース	ディスプレイ	アナログ (VGA Mini-D Sub 15ピン)
		デジタル (DVI-D 24ピン)
		デジタル (DisplayPort 20ピン) (*3)(*4)
	USBポート	USB2.0対応×2 (前面)
		USB3.0対応×6 (背面)
	シリアルポート	RS-232C (D-sub 9ピン) ×1
	LANポート	1000Base-T/100Base-TX/10Base-T自動切り替え×3 (RJ45、Wake on LAN™対応)
オーディオ	オーディオ	ライン入力×1、ライン出力×1
	外部接点	コネクタ形状 : D-sub 25ピン タイプC : DI2点、DO3点、A接点 ※ご購入時に仕様変更が可能
外形寸法 (幅×奥行き×高さ)	50×249×285mm (縦置き時、縦置き用スタンドを除く)	
RAS機能	ハードウェア状態監視 (ファン異常、温度異常、SMART、ドライブ使用時間など)、OSロック監視、ウォッチドッグ監視、異常検出時のアラーム通知 (ポップアップ通知、状態表示デジタルLED、リモート通知など)、メモリーダンプ収集、保守操作支援コマンド、シミュレーション機能	
質量	約3.3kg (縦置き用スタンドを除く)	
突入電流 (*5)	70A以下 (AC100V、60Hz)	
漏洩電流 (*5)	0.25mA以下	
消費電流 (最大) DC12V/DC24V	10.1A/5.2A	
電源電圧	本体 : DC12~24V ±10% ACアダプタ(オプション) : AC100~240V ±10%	

(*1) SSDの注意事項については、「注意事項 4. SSDについて」を参照してください。

(*2) HDD搭載およびRAIDはサポートしておりません。

(*3) 3画面出力時において、DisplayPort-DVI変換コネクタを使用する場合にはアクティブタイプのDisplayPort-DVI変換コネクタから選定いただき、事前評価を行った上で使用してください。

(*4) DisplayPort-DVI変換コネクタ使用時の出力解像度はDisplayPort-DVI変換コネクタの仕様を確認してください。

(*5) ACアダプタ (オプション) 使用時の仕様です。

(2) 付属品

項目	仕様
リカバリDVD	プレインストールOS分
縦置きスタンド	ゴム足付き、固定ネジ×4本付き
マニュアル	「安全にご使用いただくために」

(3) オプション

項目	仕様
ACアダプタ	入力：AC100～240V ±10% 出力：DC24V ACケーブル付き
外部接点ポート	B接点 (詳細は「5. 8. 2 外部接点仕様」を参照)
	A接点 (詳細は「5. 8. 2 外部接点仕様」を参照)
サービスメニュー	障害解析支援サービス（スポット契約）
	障害解析支援プラス（本体同時購入）

(4) サポート解像度

画面設定				備考	
解像度	リフレッシュレート (*1)				
	VGA	DVI-D	DisplayPort		
アナログ	デジタル	デジタル			
640×480	60Hz	60Hz	60Hz		
800×600	60Hz	60Hz	60Hz		
1,024×768	60Hz	60Hz	60Hz		
1,280×1,024	60Hz	60Hz	60Hz		
1,600×1,200	60Hz	60Hz	60Hz		
1,920×1,080	60Hz	60Hz	60Hz		
1,920×1,200	60Hz	60Hz	60Hz		
2,560×1,440	—	—	60Hz		
2,560×1,600	—	—	60Hz		
3,840×2,160	—	—	60Hz		

(*1) 記載しているリフレッシュレートは、弊社で表示可能であることを確認した設定です。

ただし、対応可能な解像度およびリフレッシュレートはディスプレイによって異なりますので、使用するディスプレイによっては使用できない場合があります。

(5) メモリ仕様

この装置に実装可能なメモリの組み合わせは下表となります。

DIMM1	DIMM2	合計容量
4GB	—	4GB
4GB	4GB	8GB
8GB	8GB	16GB

(6) 最大電流規定

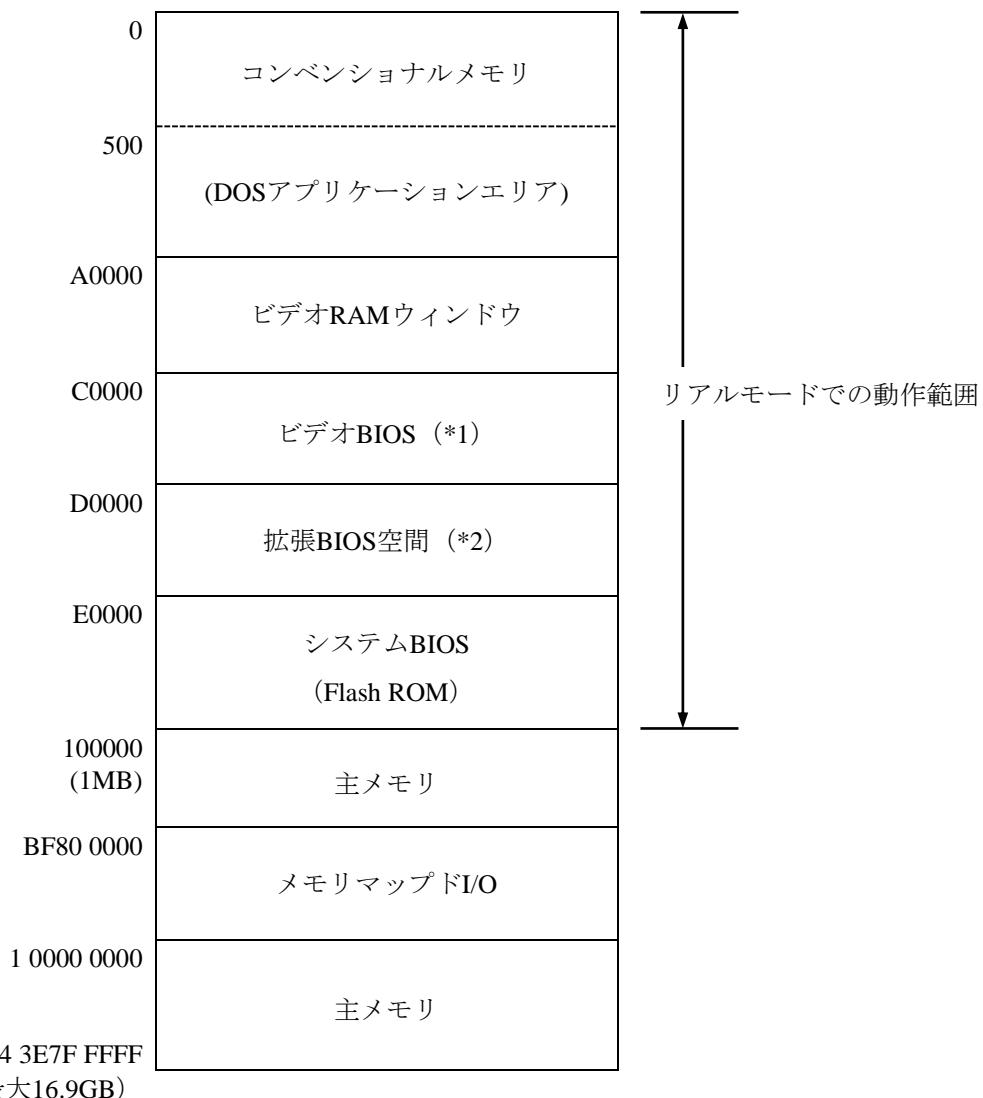
USBポート、VGAポート、DVI-Dポート、DisplayPortの合計最大消費電流は以下のとおりです。

DC出力	合計最大電流値
3.3V	3.5A
5V	7.5A

また、USBポート、VGAポート、DVI-Dポート、DisplayPort、それぞれの最大電流値は以下のとおりです。各デバイス接続時の突入電流が最大電流値を超えないよう注意してください。最大電流値を超えると、過電流保護回路が動作し、接続したデバイスが無効になる場合があります。

項目	電圧値	最大電流値
USB2.0	5V	0.5A／ポート
USB3.0	5V	0.9A／ポート
VGA	5V	1.0A／ポート
DVI-D	5V	0.5A／ポート
DisplayPort	3.3V	0.5A／ポート

5. 2 メモリ空間



(*1) ビデオBIOSは、将来のバージョンでサイズを変更する可能性があります。

(*2) 拡張BIOS空間は、D0000～DFFFFの狭い空間であり、すでに他のデバイスによって占有している可能性があります。また、将来のバージョンでは標準で実装するアダプターのBIOSのサイズが変更となる可能性もあるため、新規デバイスの設計においてはなるべく拡張BIOS空間を使用しないようにしてください。デバイス間で競合し、誤動作する可能性があります。

5. 3 I/O空間

I/O空間一覧

I/Oアドレス	デバイス名
0000-001F	DMAコントローラ
0020-002D	割り込みコントローラ
002E-002F	Super I/Oコンフィグレーション
0030-003D	割り込みコントローラ
0040-0043	システムタイマ
004E-004F	Super I/Oコンフィグレーション
0050-0053	システムタイマ
0060、0062、0064、0066	キーボードコントローラ
0061	NMIコントローラ
0070-0077	RTCコントローラ
0080	DMAとPOSTコード
0081-0091	DMAコントローラ
0092	リセットコントローラ
0093-009F	DMAコントローラ
00A0-00B1	割り込みコントローラ
00B2-00B3	パワーマネージメントコントローラ
00B4-00BD	割り込みコントローラ
00C0-00DF	DMAコントローラ
0000-00FF	Reserved (上記以外の領域)
0240-025F	RAS LSIレジスタ
02E8-02EF	シリアルポート
02F8-02FF	シリアルポート
03B0-03DF	VGAコントローラ
02E8-02EF	シリアルポート
03F8-03FF	シリアルポート1 (COM1) : A
04D0-04D1	割り込みコントローラ
0CF8-0CFB	PCIコンフィグレーション (アドレス)
0CF9	リセットコントローラ
0CF8-0CFF	PCIコンフィグレーション (データ)
1800-189F	パワーマネージメントコントローラ
F000-F03F	VGAコントローラ
F040-F05F	SMBusコントローラ
F060-F07F	AHCIコントローラ
F080-F083	AHCIコントローラ
F090-F097	AHCIコントローラ

5. 4 割り込み一覧

割り込み端子	内容
IRQ0	システムタイマ
IRQ1	未使用
IRQ2	未使用
IRQ3	未使用
IRQ4	シリアルポート1 (COM1)
IRQ5	未使用
IRQ6	未使用
IRQ7	未使用
IRQ8	リアルタイムクロック
IRQ9	未使用
IRQ10	未使用
IRQ11	SMBus
IRQ12	未使用
IRQ13	コプロセッサ
IRQ14	未使用
IRQ15	未使用
IRQ16	未使用
IRQ17	未使用
IRQ18	未使用
IRQ19	未使用
IRQ20	未使用
IRQ21	未使用
IRQ22	未使用
IRQ23	未使用
MSI	xHCI、オンボードビデオ、LAN1、LAN2、LAN3、SATAコントローラ

<留意事項>

- ・上記はAPIC設定時（デフォルト）の場合です。
- ・IRQの割り込み番号は固定しているので、上記の設定は変更できません。
- ・APIC対応OSでも、そのデバイスが有効な状態でない限り、APICのIRQは割り当たらず、APIC無効時のIRQ状態になります（次ページ参照）。

APIC無効時の割り込み

割り込み端子	内容
IRQ0	システムタイマ
IRQ1	未使用
IRQ2	未使用
IRQ3	未使用
IRQ4	シリアルポート1 (COM1)
IRQ5	未使用
IRQ6	未使用
IRQ7	未使用
IRQ8	リアルタイムクロック
IRQ9	未使用
IRQ10	LAN1
IRQ11	SMBusコントローラ、オンボードビデオ、xHCI、SATAコントローラ、 LAN2、LAN3
IRQ12	未使用
IRQ13	コプロセッサ
IRQ14	未使用
IRQ15	未使用

5. 5 シリアルポートの設定

装置出荷時のシリアルポートデフォルト設定は下記のようになっています。正常な動作をしなくなる恐れがありますので、下記の設定は変更しないでください。

BIOS上での名称	I/Oアドレス (*)	IRQ割り当て (*)	OS上での名称	備考
Serial port A	3F8h	IRQ 4	COM1	標準実装

(*) BIOSによって自動的に割り当てます。

5. 6 BIOSセットアップ

BIOSはシステムの構成情報をSPI-ROMに格納します。システム構成を変更したときには、BIOSの設定変更が必要な場合があります。

BIOSの設定変更にあたり、使用上の注意「8.BIOSの設定について」をご覧ください。

【留意事項】

BIOSは、製品出荷時のシステム構成に合わせて適切な状態に設定しています。

BIOSの設定を変更すると、動作が不安定となったり、システムが正常に起動しなくなる場合がありますので、BIOSの設定を変更するときは十分注意して行ってください。

(1) セットアップメニューの起動

BIOSをセットアップするにはセットアップメニューを起動します。

電源スイッチ（「1. 4 各部の名称と役割」を参照）を押すと、システムの初期化メッセージが表示します。 [F2] キーを押してセットアップメニューを起動してください。

(2) セットアップメニューの操作

メニューは主に下記キーを用いて操作します。

キー名称	説明
Esc	セットアップの終了または下位メニューから上位メニューへの復帰に使用します。
←／→	メニューまたは画面最上部に表示するメニューグループの選択に使用します。
↑／↓	項目または各メニューグループ内で個々の項目の選択に使用します。
+／-	設定値を選択します。このキー操作によって選択した項目で、設定できる値が切り替わります。
Space	設定値を選択します。設定条件が2つだけのときは、このキーの操作でトグルスイッチのように切り替えられます。
Tab	日付／時刻の設定をするとき、月→日、時→分といった項目間の移動に使用します。
Enter	上位メニューから下位メニューへの移動またはセットアップの終了（SPI-ROMへのデータセーブ）などに使用します。

(3) セットアップメニューの構成

セットアップメニューは大きく下記項目に分けられています。

Main : メニュー起動時に表示する画面です。日付／時刻などシステムの基本的な設定をします。

Advanced : 割り込みポートやI/Oアドレスの設定など、個々のシステム構成に依存する設定をします。

Chipset : ECCサポート設定、LANのEnable、Disable切り替えを設定します。

Boot : OSを起動する機器の優先順位を設定します。

Save&Exit : 変更した構成情報のSPI-ROMへの保存またはデフォルトの設定への復帰などをします。

(4) セットアップメニューの詳細

各メニューで設定できる項目の詳細を以下に示します。

(1/5)

上位 メニュー	設定項目	デフォルト値	説明
Main	System Date	—	初回セットアップ時に必ず設定してください。
	System Time	—	
Advanced	Beep on Boot	Disabled	起動時のビープ音のON/OFFを設定します。 Option: Disabled, Enabled
	Correctable ECC Error	Pause	起動時にCorrectable ECC Errorを検出した際に、メッセージを表示して起動を一時停止するか、無視して起動するかを設定します。 Option: Pause, Pass
	Memory Testing	Enabled	起動時のメモリテストを実行するかどうかを設定します。 Option: Enabled, Disabled
		Normal Test	起動時のメモリテストのテストモードを設定します。 Option: Normal Test, Fast Test
CPU Configuration	Core Multi Processing	Enabled	シングルコア/マルチコアの設定をします。 Option: Enabled, Disabled
	Hyper-Threading	Enabled	Hyper-Threading Technologyの有効/無効を設定します。 Option: Enabled, Disabled Hyper-Threadingを非サポートのプロセッサの場合は非表示です。
	EIST	Enabled	EISTの有効/無効を設定します。 Option: Enabled, Disabled
	MMIO Range	Dynamic	MMIOの可変/固定(2GB)を設定します。 Option: Dynamic, 2GB

(2/5)

上位 メニュー	設定項目		デフォルト値	説明
Advanced	SATA Configuration	SATA Mode Selection	AHCI	左記の設定は変更しないでください。
		Drive 1 Slot	Enabled	該当スロットの有効/無効の設定をします。 Option: Enabled, Disabled
		Drive 2 Slot	Enabled	該当スロットの有効/無効の設定をします。 Option: Enabled, Disabled
		Drive 3 Slot	Enabled	該当スロットの有効/無効の設定をします。 Option: Enabled, Disabled
	USB Configuration	Legacy USB Support	Enabled	USBデバイスを動作させるかどうかを設定します。Disabledの場合は、セットアップメニューおよびWindows®起動後のみUSBキーボードで操作できます。 Option: Enabled, Disabled
		Front USB Port	Enabled	前面USBポートの有効/無効の設定を行います。 Option: Enabled, Disabled

上位 メニュー	設定項目		デフォルト値	説明
Advanced	Power Configuration	After AC Power On	Power On	<p>停電→復電時の振る舞いの設定を行います。</p> <p>Stay Off :</p> <p>電源を入れたときにソフトパワーオフモードに入ります。</p> <p>Power On :</p> <p>電源を入れたときに自動的にOSを起動します。</p> <p>Auto :</p> <p>前回、電源を切ったときにOSが起動していた場合、Power Onと同様に立ち上がります。</p> <p>また、前回、電源を切ったときにOSが起動していなかった場合は、Stay Offと同様にソフトパワーオフモードに入ります。</p> <p>バックアップ用の電池が切れた場合または電池が未接続状態で</p> <p>電源がOFFの状態の場合、設定がStay Offと同様の動作になります。</p> <p>バックアップ電池が切れた場合、もしくは電池を交換した場合、当該設定値はデフォルト値(Auto)になります。</p>
	Fan Failure Detection	Enabled		<p>電源を入れたときにファン異常検出を行うかどうかを設定します。</p> <p>Option: Enabled, Disabled</p>
	Fan Speed Control	Auto		<p>ファンの回転数を設定します。</p> <p>Auto : CPUの温度に応じて自動でファンの回転数が変化します。</p> <p>Full : 常時ファンの回転を最高速にします。</p>
	Cx State Enable	Disabled		<p>プロセッサの電源ステート(Cx)の振る舞いを変更します。</p> <p>Option: Disabled, Enabled</p>

(4/5)

上位 メニュー	設定項目			デフォ ルト値	説明
Advanced	PCI Configuration	PCI-Express Device Slot #1	Enable Master	Enabled	左記の設定は変更しないでください。
			Link Speed	Auto	
		PCI-Express Device Slot #2	Enable Master	Enabled	
			Link Speed	Auto	
		PCI-Express Device Slot #3	Enable Master	Enabled	
			Link Speed	Auto	
		PCI Parity Error Detection		Enabled	
	I/O Device Configuration	Serial Port A		Enabled	
		Base I/O Address		3F8h	
		Interrupt		IRQ4	

(5/5)

上位メニュー	設定項目	デフォルト値	説明
Chipset	ECC Support	Enabled	メモリのECC機能の有効/無効を設定します。 Option: Enabled, Disabled
	LAN 1	Enabled	当該LANポートの有効/無効を設定します。 Option: Enabled, Disabled
	LAN 2	Enabled	当該LANポートの有効/無効を設定します。 Option: Enabled, Disabled
	LAN 3	Enabled	当該LANポートの有効/無効を設定します。 Option: Enabled, Disabled
Boot	Bootup NumLock State	On	起動時にキーボードのNumLockをONにします。 Option: On, Off
	UEFI Boot	Disabled	UEFIの有効/無効を設定します。 Option: Disabled, Enabled
	Boot Option Priorities	1. USB FDD 2. SATA CD/DVD 3. USB CD 4. DRIVE1 5. DRIVE2 6. PCI SCSI 7. USB HDD 8. Internal Shell	OSを起動するデバイスの優先順位とそのデバイスからOSを起動させるかどうかを設定します。
Save&Exit	Exit Saving Changes	—	セットアップで変更した内容をSPI-ROMに保存し、システムをリブートします。
	Discard Changes and Reset		今回のセットアップで変更した内容を破棄し、前回SPI-ROMに保存した設定でシステムをリブートします。
	Restore Defaults		BIOSのデフォルト設定を読み出します。ここではデフォルト値の読み出しを行うだけで、SPI-ROMへの保存は行いません。SPI-ROMに設定内容を保存するには、この後“Exit Saving Changes”を使用してください。

(5) デフォルト設定への戻し方

セットアップメニューの各項目をデフォルト設定に戻す場合は、下記の手順で実行してください。

- ① セットアップメニューを起動してください（「(1) セットアップメニューの起動」参照）。
- ② 上位メニューの「Save&Exit」を開き、「Load Setup Defaults」にカーソルを合わせ、[Enter]キーを押してください。
“Load Optimized Defaults?”というメッセージを表示します。
- ③ “Yes”を選択し、[Enter]キーを押してください。
- ④ 再び上位メニューの「Save&Exit」を開き、「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせ、[Enter]キーを押してください。
“Save configuration and reset?”というメッセージを表示します。
- ⑤ “Yes”を選択し、[Enter]キーを押してください。

以上で終了です。

5. 7 時計機構

この装置は、RTC（リアルタイムクロック）ICを用いた時計機構を持っています。

時計はカレンダーを内蔵していて、バッテリバックアップによって電源断続時も動作し続けます。

表5-1 時計機構仕様

項目	仕様
時計機構	時・分・秒 (24時間制)
日付機能	年・月・日
誤差	日差±4秒 (*)
バッテリ バックアップ	リチウム電池

(*) 周囲温度が25°Cでの目安値です。

なお、システムプログラム処理上は、通常周期タイマで内部時計を更新し、立ち上げ時などに時計機構から時刻を読み出し時計合わせ処理をします。

5. 8 インタフェース仕様

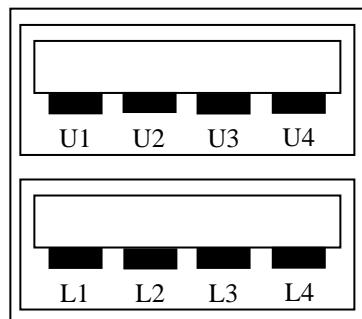
5. 8. 1 コネクタ仕様

この装置から外部へのインターフェース仕様を示します。

また、各ボードの差し込み位置は、「1. 4 各部の名称と役割」の「表示・操作部の説明」を参照してください。

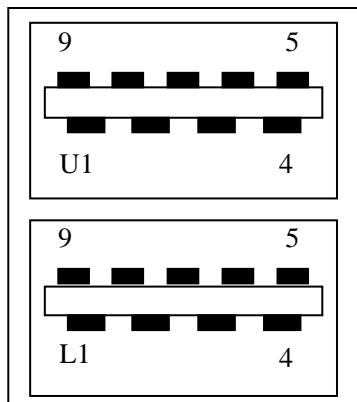
(1) マザーボード（標準）

● USB2.0ポート（前面）



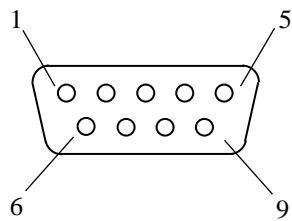
ピン番号	信号名
U1	+5V
U2	USBD1-
U3	USBD1+
U4	GND
L1	+5V
L2	USBD0-
L3	USBD0+
L4	GND

● USB3.0ポート（背面）



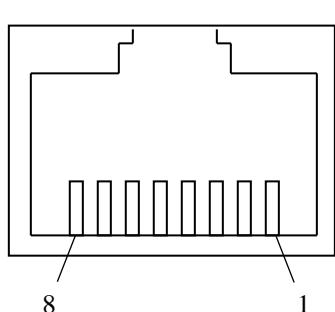
ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
L1(1)	+5V	U1(10)	+5V
L2(2)	USBD0-	U2(11)	USBD1-
L3(3)	USBD0+	U3(12)	USBD1+
L4(4)	GND	U4(13)	GND
L5(5)	SSRX1-	U5(14)	SSRX2-
L6(6)	SSRX1+	U6(15)	SSRX2+
L7(7)	GND	U7(16)	GND
L8(8)	SSTX1-	U8(17)	SSTX2-
L9(9)	SSTX1+	U9(18)	SSTX2+

● シリアルポート（オスコネクタ、インチねじ）（COM1）



ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	CD	6	DSR
2	RD	7	RTS
3	TD	8	CTS
4	DTR	9	RI
5	GND		

● LANポート（RJ-45モジュラーポート 8ピン）

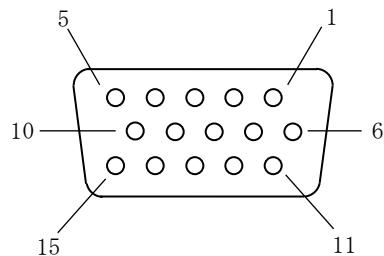


ピン番号	信号名
1	TRD0+
2	TRD0-
3	TRD1+
4	TRD2+
5	TRD2-
6	TRD1-
7	TRD3+
8	TRD3-

ネットワークの接続には下記仕様のケーブルを使用してください。

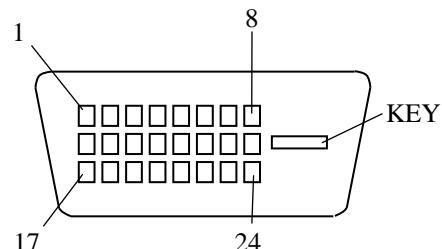
ケーブル仕様：UTPケーブル（シールドなしツイストペアケーブル） カテゴリ5eまたは6

● ビデオポート (VGAポート MiniD-sub 15ピン、インチねじ)



ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	RED	9	+5V
2	GREEN	10	GND
3	BLUE	11	NC
4	NC	12	SDA
5	GND	13	H SYNC
6	RED-RTN	14	V SYNC
7	GREEN-RTN	15	SCL
8	BLUE-RTN		

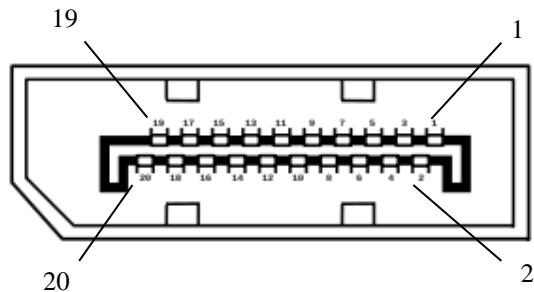
● ビデオポート (DVI-D 24ピン、インチねじ)



ピン番号	信号名	ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	TX2M	9	TX1M	17	TX0M
2	TX2P	10	TX1P	18	TX0P
3	SGND	11	SGND	19	SGND
4	NC(TX4M)	12	NC	20	NC
5	NC(TX4P)	13	NC	21	NC
6	DDCCLK2	14	P5DFP	22	SGND
7	DDCDAT2	15	PGND	23	TXCP
8	NC	16	NC	24	TXCM

(注) ビデオポートはシングルリンク仕様となります。

● ビデオポート (DisplayPort、20ピン)

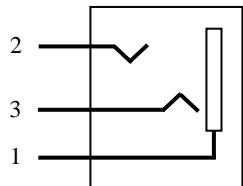


ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	MainLane0+	11	GND
2	GND	12	MainLane3-
3	MainLane0-	13	GND
4	MainLane1+	14	GND
5	GND	15	Aux+
6	MainLane1-	16	GND
7	MainLane2+	17	Aux-
8	GND	18	HotplugDetect
9	MainLane2-	19	GND
10	MainLane3+	20	+3.3V

(注1) 3画面出力時において、DisplayPort-DVI 変換コネクタを使用する場合には
アクティブタイプの DisplayPort-DVI 変換コネクタから選定いただき、事前
評価を行った上で使用してください。

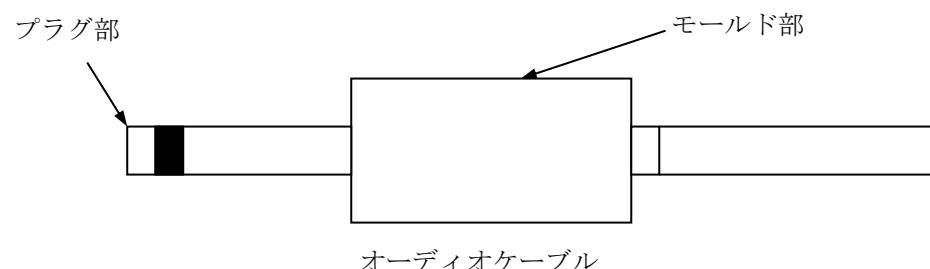
(注2) DisplayPort-DVI 変換コネクタ使用時の出力解像度は DisplayPort-DVI 変換
コネクタの仕様を確認してください。

- オーディオポート : LIN、LOUT (3.5φステレオオーディオポート)



LIN LOUT

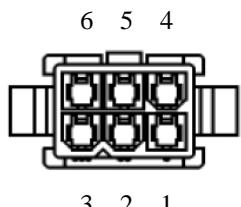
ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	AGND	1	AGND
2	LIN_L	2	LOUT_L
3	LIN_R	3	LOUT_R



【留意事項】

モールド部の径が ϕ 10mm以下の物を使用してください。 ϕ 10mmより大きな物ですとLINE IN、LINE OUT両方のポートに挿入しようとした場合、モールド同士が当たってしまい挿入できません。

(2) DC 入力コネクタ (DC In)

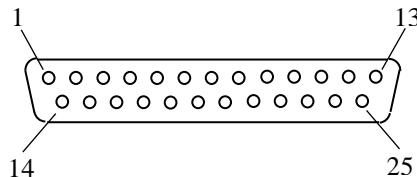


メーカー : molex
型式 : 5559-06P-210
Part Number : 0039012066

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	12V-24V	1	GND
2	N/C	2	N/C
3	12V-24V	3	GND

(3) RAS 外部接点インターフェース (EXT)

- 外部接点入出力ポート（オスコネクタ、インチねじ）



【Type C】

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	NC	14	NC
2	GENDO0_1	15	GENDO0_2
3	NC	16	NC
4	GENDO1_1	17	GENDO1_2
5	PSDOWN_1	18	PSDOWN_2
6	NI_RMTPWRON_1/NI_GENDI2_1	19	GND(NI_RMTPWRON_1/NI_GENDI2_2)
7	NI_GENDI1_1	20	GENDI1_2
8	NC	21	RMTPWRON_2/GENDI2_2
9	NC	22	GND(NI_GENDI1_2)
10	NC	23	NC
11	NC	24	NC
12	GENDI1_1	25	NC
13	RMTPWRON_1/GENDI2_1		

【Type A,B】

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	MCALL_1	14	MCALL_2
2	GENDO0_1	15	GENDO0_2
3	GENDO1_1	16	GENDO1_2
4	WDTTO_1	17	WDTTO_2
5	PSDOWN_1	18	PSDOWN_2
6	GENDI0_1	19	GND(RMTPWRON_2/GENDI2_2)
7	RMTSTDN_1/GENDI_1	20	GND(RMTSTDN_2/GENDI_2)
8	GND(RMTRESET_2)	21	GND(GENDI1_2)
9	CPUSTOP_2	22	GND(GENDI0_2)
10	RMTPWRON_1/GENDO2_2	23	CPUSTOP_1
11	RMTRESET_1	24	GENDO2_1
12	GENDI1_1	25	GND
13	GENDI2_1		

5. 8. 2 外部接点仕様

外部接点入出力の標準搭載はタイプCです。ご購入時にタイプAもしくはタイプBに変更することが可能です（ご購入後の変更はできません）。

（1）外部接点入出力信号一覧

信号線	意味
出力	PSDOWN OSがシャットダウンした状態(スタンバイまたは主電源OFF状態)または装置に電源が供給されていない状態を示します。
	CPUSTOP OS、アプリケーション、デバイスドライバなどが異常な高負荷で正常に動作できない状態、またはハングアップ状態を示します。
	WDTTO ウォッチドッグタイマによるタイムアウト検出を示します。OSがシャットダウンした状態(スタンバイまたは主電源OFF状態)または装置に電源が供給されていない状態においてもタイムアウトを検出します。
	MCALL メンテナンス要求信号です。温度異常、ファン異常状態を示します。
	GENDO0 GENDO1 GENDO2 汎用接点出力信号です。ユーザーがGENDO0～2の接点ごとに信号の意味を定義できます。
入力	RMTSHTDN (GENDI) シャットダウン要求信号または汎用入力信号です。この接点がクローズするとOSがシャットダウンします。ユーザーが使用する信号を選択することができます。
	RMTREST リセット要求信号です。この接点をクローズすると、装置がハードウェアリセットします。
	GENDIO0 GENDI1 汎用入力信号です。ユーザーがDENDIO～1ごとに信号の意味を定義できます。
	GENDI2 (RMTPWRON) 汎用入力信号です。ユーザーがGENDI2の信号の意味を定義できます。 またリモートパワーON機能を使用することができます。

(2) 外部接点入出力用ポート仕様

項目	出力(*1)						入力								
	PS DOWN	CPU STOP	WDT TO	MCALL	GEN DO0	GEN DO1	GEN DO2	RMTSHTDN/ GENDI(*2)	RMT RESET	GEN DI0	GEN DI1	GENDI2/ RMTPWRON (*3)			
タイプC (標準)	A接点	—	—	—	A接点	—	—	—	—	○	○				
タイプB (選択可)	B接点		A接点			○	○	○	○	○	○				
タイプA (選択可)	A接点						○	○	○	○	○				
仕様	接点仕様：フォトモスリレー接点 負荷電圧：最大40V DC 負荷電流：最大0.1A/点(定常) 最大0.6A/点(突入) 絶縁耐圧：AC250V、1分間						接点仕様：無電圧トランジスタ接点 接点電流：1mA/点								
接続図	<p>40V DC 0.1A 接点仕様</p> <p>HF-W側 ケーブル ユーザー側</p>						<p>タイプA/B：非絶縁 タイプC：非絶縁と絶縁の2種入力サポート (2種同時使用禁止)</p> <p>【非絶縁】</p> <p>5V(VCC)</p> <p>HF-W側 ケーブル ユーザー</p> <p>【絶縁】</p> <p>DC24V 5mA</p> <p>HF-W側 ケーブル ユーザー</p>								

PS DOWN : 電源断

RMTPWRON : リモートパワーオン

GENDI* : 汎用入力

CPU STOP : CPU停止(OSフリーズ監視)

RMTSHTDN : リモートシャットダウン

GENDO* : 汎用出力

WDTTO : ウオッチドッグタイムアウト

RMTRESET : リモートリセット

MCALL : 保守員呼び出し

(*1) A接点、B接点の動作は以下の通りです。

A接点 (MCALL) :

正常動作時=接点オープン、異常発生時=接点クローズ、電源断時=接点オープン

A接点 (PSDOWN,CPUSTOP,WDTTO) :

正常動作時=接点クローズ、異常発生時=接点オープン、電源断時=接点オープン

A接点 (GENDO*) :

接点状態はユーザプログラムの指示による。電源断およびプログラム指示なし時=接点オープン

B接点 (PSDOWN,CPUSTOP,WDTTO) :

正常動作時=接点オープン、異常発生時=接点クローズ、電源断時=接点クローズ

(*2) RMTSHTDNとGENDIは同じ接点を使用します (RASソフトウェアの設定によって切り替え)。

RMTPWRONとGENDI2は同じ接点を使用します (ジャンパピンによって切り替え)。詳細は

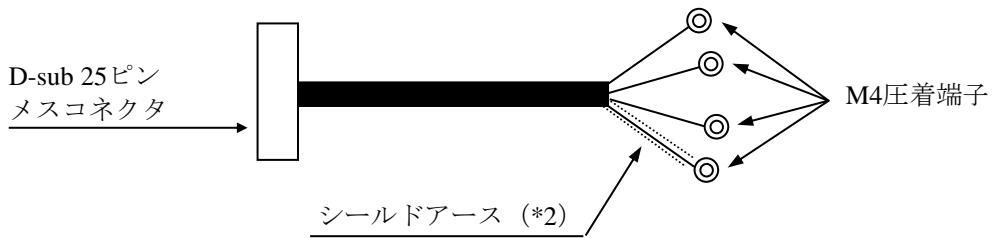
「6. 6 リモートパワーオン機能を有効にする場合」を参照してください。

(*3) RMTPWRON機能を使用するときは、外部接点にノイズが加わらないよう注意してください。

ノイズなどの影響によってソフトパワーオフ中に15ms以上接点がクローズ状態になると、意図しないでパワーオンする場合があります。なお、パワーオン後、OSやBIOSが動作している状態では、RMTPWRON機能は無効になりGENDI2入力として動作します。

(3) EXT推奨ケーブル仕様

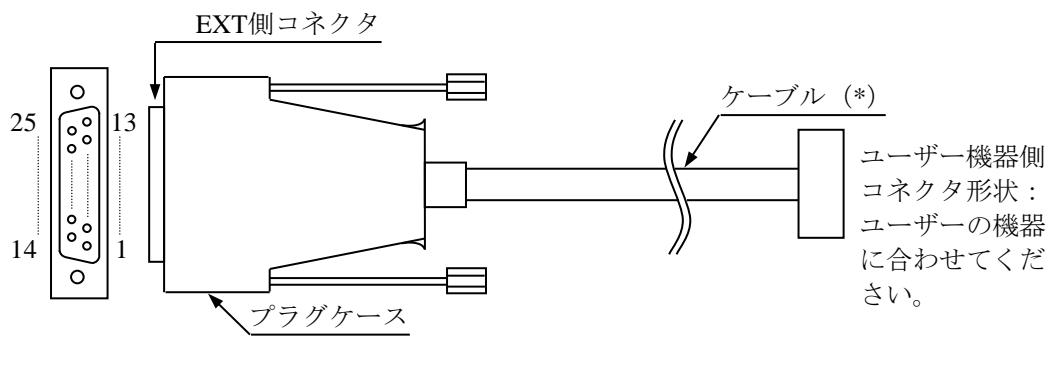
- ① 接続にあたっては下記のようなケーブルを準備してください。 (*1)



(*1) 最大ケーブル長は30mです。

(*2) ケーブルシールドを接続するため、近辺の位置にシールド芯線接続専用のシールドアースバーを設ける必要があります。

- ② ユーザーがケーブルを製作する場合の仕様を以下に示します。



外部接点ケーブル／コネクタ外観

(*) ケーブルのシールドアースは、プラグケースの導体（フレームグラウンド）に確実に接触させてください（なお、EXTポートにでているGNDピンはすべてシグナルグラウンドのため、シールドアースを接続しないでください。誤作動の原因となります）。

● EXT側コネクタ仕様（推奨品）

コネクタ形状：D-sub 25ピンメスコネクタ（2列）

部品名	型式	メーカー名
プラグケース	HDB-CTH1(4-40)(10)	ヒロセ電機（株）
メスコネクタ	HDBB-25S	ヒロセ電機（株）

● ケーブル仕様（推奨品）

項目	仕様	備考
最大ケーブル長	30m	
ケーブル電気シールド	要	フレームグラウンド接続
推奨ケーブル	UL2464SB 13P×24AWG	日立金属（株）

5. 8. 3 外部インターフェースケーブル長規定

(1) 外部インターフェースケーブル長規定

この装置の各種インターフェースの推奨最大ケーブル長は以下のとおりです。

No.	コネクタ名称	最大ケーブル長	備考
1	VGAポート	3m	
2	DVI-Dポート	3m	
3	DisplayPort	3m	
4	LANポート	100m	UTPカテゴリ5e以上
5	外部接点ポート	30m	ケーブル仕様は「5. 8. 2 (3)」を参照してください。
6	シリアルポート (COM)	15m	シールド付きケーブルを使用してください。
7	前面USB2.0 (2ポート)	3m	USB2.0準拠シールド付きケーブルを使用してください。また、延長ケーブルを使用すると正常に動作しない恐れがあります。
8	背面USB3.0 (6ポート)	2m	接続するデバイスに応じて、USB3.0準拠またはUSB2.0準拠のシールド付きケーブルを使用してください。また、延長ケーブルを使用すると正常に動作しない恐れがあります。
9	オーディオ (LINE IN/LINE OUT)	2m	

なお、接続するデバイスによっては動作しないことも考えられますので、事前に動作確認をしてから使用してください。

いわゆる延長、切替器との組合せでの安定稼働は保証致しかねますので、事前に動作確認してからご使用ください。

第6章 点検・保守

6. 1 日常点検

!**警 告**

防じんフィルタは必ず装置に取り付けてください。防じんフィルタを取り付けない場合、じんあいが装置内に侵入し、短絡火災が発生する恐れがあります。

!**注 意**

手や指のけがの原因となる場合がありますので、防じんフィルタを掃除／交換する際には、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

通 知

- この装置を移動するときは、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。SSDなどが故障する恐れがあります。
- 輸送や運搬時の梱包には納入時の梱包材を使用してください。これ以外の梱包材を使用した場合、装置を損傷することがあります。
- 破損またはつぶれた梱包材は、輸送や運搬には使用しないでください。装置を損傷することがあります。

(1) 防じんフィルタの清掃

通 知

防じんフィルタを水洗いした場合は、防じんフィルタを完全に乾かしてから、装置に装着してください。湿ったままで装置を動作させると故障の原因となります。また、洗剤を使用する際には、必ず中性洗剤を使用してください。その他の洗剤を使用しますと、防じんフィルタの機能を失う可能性があります。

(a) 頻度

じんあいの量によって、1～3か月に1回の割合で防じんフィルタを清掃してください。

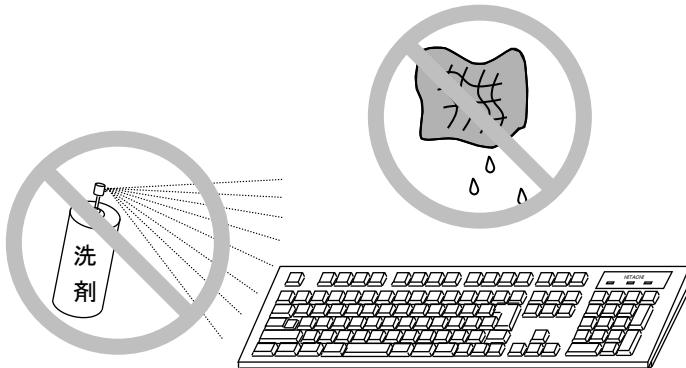
(b) 方法

- ① OSをシャットダウンしてください。
- ② 電源ケーブルを抜いてください。
- ③ 防じんフィルタを取り出し、ほこりをはたく、または水洗いしてください。なお、水洗いした場合、防じんフィルタが完全に乾いてから、装置に装着してください。
防じんフィルタの取り付け／取り外しの詳細は、「6. 4. 6 防じんフィルタの取り付け／取り外し」を参照してください。

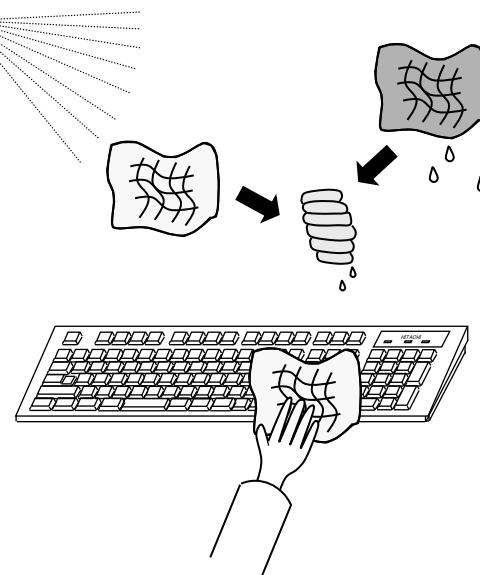
(2) キーボード（オプション）の清掃

キーボードは下記に注意して清掃してください。

- キーボードに洗剤を直接スプレーしたり、水滴をこぼしたりしないでください。
- 濡らしたままの布や雑巾でふかないでください。障害の原因となります。



- 洗剤は、布にごく少量をスプレーして使用してください。
- 水ぶきのときには、布をよく絞ってから使用してください。
- 布はガーゼなどの柔らかいものを使用してください。
- 洗剤は、使用上の注意などをよく読んでから使用してください。
- キーボード全体をガーゼなどで覆ってからスプレー式洗剤をスプレーし、数分間そのまま放置してからふき取る方法もあります。



【留意事項】

- ・USB機器の注意事項については、「注意事項 5. USB機器について」を参照してください。

6. 2 定期点検

定期点検項目を以下に記述します。定期点検は弊社と保守契約を結んでいただき、弊社保守員が実施します（日常点検を除きます）。弊社保守員または弊社の保守教育受講者以外は実施しないでください。システムの稼働計画の中に点検計画を組み込んでください。

点検内容	点検周期	備考
ロギング情報収集	1回／年	
各部点検清掃 ・装置内外の点検清掃 ・ファンの回転点検、じんあい除去 ・内部に混入した異物の除去 ・その他全般	1回／年	
防じんフィルタの交換	1回／年	
電源電圧測定	1回／年	
動作確認 ・各スイッチ、ランプの動作確認 ・テストプログラムによる動作確認	1回／年	
有寿命部品の定期交換 (*)	必要時	
日常点検 ・キーボードの清掃 ・防じんフィルタの清掃	1回／1～3か月	「6. 1 日常点検」 を参照してください。

(*) 有寿命部品の取り扱いの詳細は、「付録 有寿命部品の取り扱いについて」を参照してください。

6. 3 保守サービス契約

この装置に故障が発生した際の保守対応は、基本的には預かりによる修理（センドバック修理）となります。センドバック修理以外の保守対応を希望される場合は、別途される場合は、別途保守サービス契約の締結が必要となりますので、詳細は弊社担当営業に問い合わせてください。なお、保守対応が可能な期間については、保守サービス契約締結の有無にかかわらず下表のとおりとなります。

表6-2 保守サービス期間

対象		保守機関	備考
ハードウェア	本体装置	7年、10年	本体装置購入時に選択
	オプション周辺機器	本体装置の保守機関に準ずる	
ソフトウェア	Microsoft® Windows® (Embedded契約版)	製造メーカーのサポート可能 期間に準ずる	
	日立製RASソフトウェア	本体装置の保守期間に準ずる	

6. 4 部品の取り付け／取り外し

6. 4. 1 各部品の種類と取り付け位置

この装置の各部品の種類と取り付け位置は下図のとおりです。

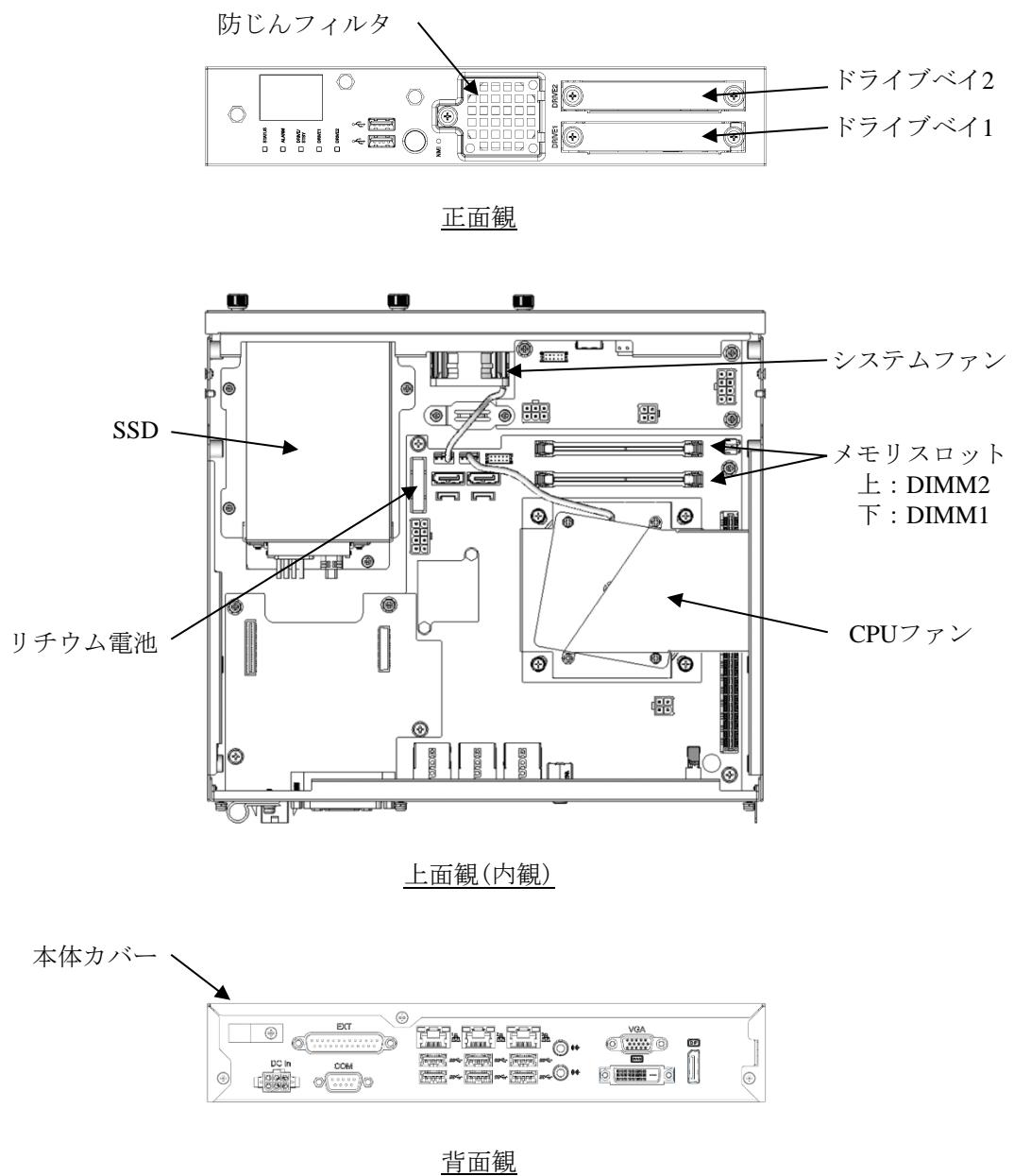


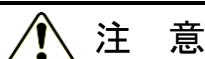
図 6－1 各部品の種類と取り付け位置

6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に

部品交換作業の際は、以下の注意事項を確認し、厳守してください。



感電や機器故障の原因となりますので、作業の際には必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。



取り付け／取り外しの際、内部の部品に直接、素手で触らないでください。熱くなっているためやけどをする恐れがあります。また、内部の部品を傷つける恐れがあるため、故障の原因となります。

- ・保守スペースは必ず確保し、平らな場所で作業してください（「1. 6. 2 設置条件」参照）。
- ・部品の取り付け／取り外し作業をするときは、綿手袋を着用してください。
- ・ねじの締め付け／取り外しの際には、プラスドライバ（JIS規格No.1およびNo.2）を使用し、ねじ頭を潰さないよう注意してください。
- ・ねじの締め付け時には、ねじ山の破壊防止のため、無理な力を加えずねじ穴に対してまっすぐに締め付けてください。

上記以外に作業項目毎に注意事項がありますので、それらも厳守してください。

6. 4. 3 本体カバーの取り付け／取り外し

! 注 意

本体カバーを取り付ける際に、本体カバーの内側に指を入れないでください。指をはさみ、けがをする恐れがあります。

作業の前に「6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に」を参照してください。

(1) 本体カバーの取り外し

- ① 装置側面の2本のねじを外してください。
- ② 装置背面の3本のねじを外してください。
- ③ 本体カバーを装置背面方向にずらしてください。
- ④ 本体カバーを持ち上げてください。

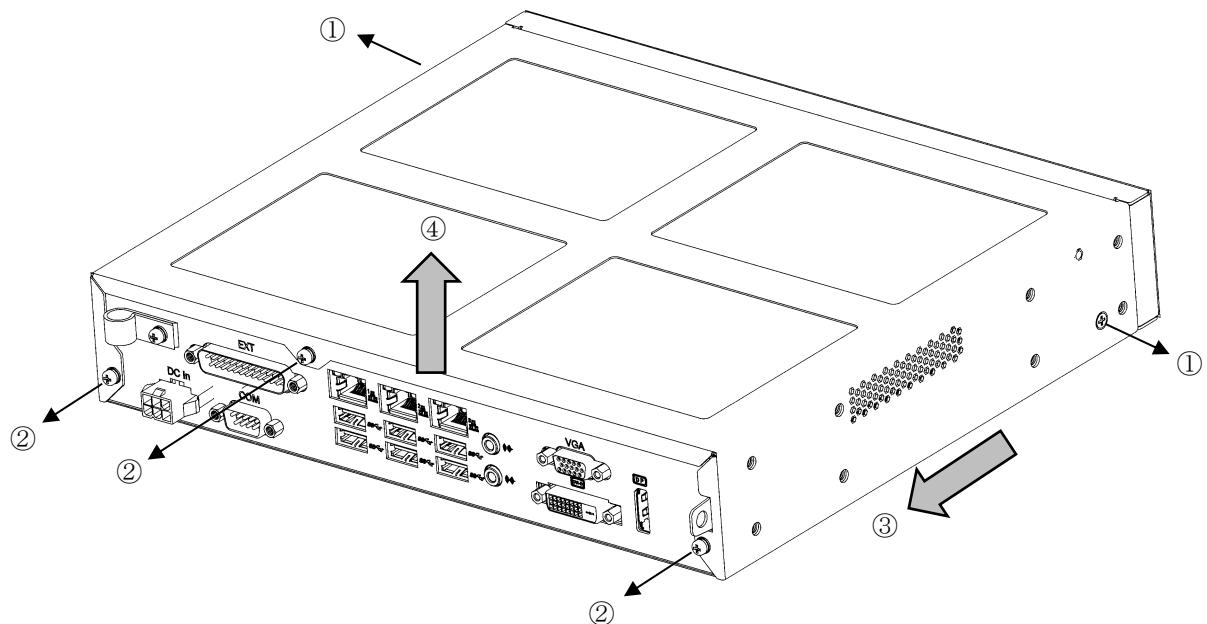


図 6-2 本体カバーの取り外し

(2) 本体カバーの取り付け

本体カバーを取り付けるときは、「(1) 本体カバーの取り外し」と逆の手順で取り付けてください。

6. 4. 4 メモリの取り付け／取り外し



警 告

メモリの取り付け／取り外しの際は、必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。電源を入れたままメモリの取り付け／取り外しを行うと、感電や発火する恐れがあります。

通 知

メモリの取り付け／取り外しの際、装置に接続している外部ケーブルを必ず抜いてください。
故障の原因となります。

(1) メモリの取り付け

通 知

- メモリとコネクタは取り付け方向が決まっています。取り付け方向を間違えないようにしてください。間違えて取り付けた場合、故障の原因となります。
- DIMM1スロットとDIMM2スロットに異なる容量のメモリを実装しないでください。メモリを認識できない原因となります。

- ① 「6. 4. 3 本体カバーの取り付け／取り外し」に従い、装置の本体カバーを取り外してください。
- ② メモリスロットの接栓部に異物が付着していないかを確認し、異物がある場合はプロアーなどを使い異物を取り除いてください。
- ③ メモリスロットの両側にあるつまみを外側へしっかりと開いてください。
- ④ メモリの向き(切り欠きの位置)に注意してメモリをメモリスロットへ差し込み、メモリの両端を真上から垂直に押し込んでください。「カチッ」と音がしてメモリスロット両側のつまみがしっかりと閉じていることを確認してください。

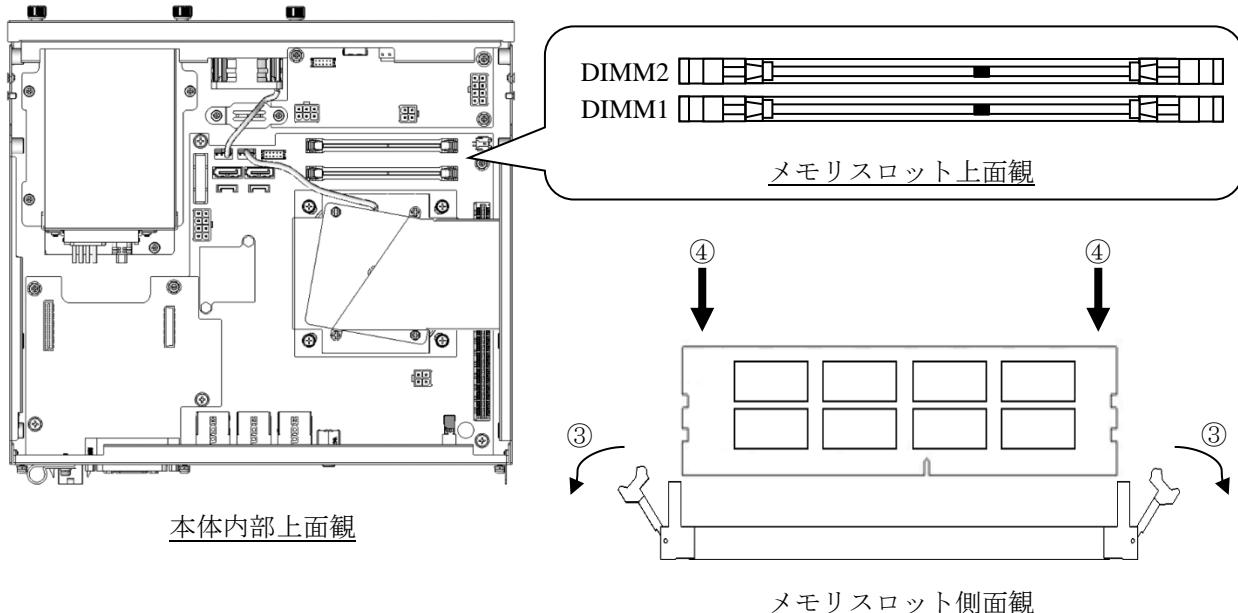


図 6-3 メモリの取り付け

また、メモリは以下の組み合わせで取り付けて使用してください。

メモリの 実装員数	DIMM1 スロット	DIMM2 スロット	合計容量
1枚	4GB	—	4GB
2枚	4GB	4GB	8GB
2枚	8GB	8GB	16GB

(2) メモリの取り外し

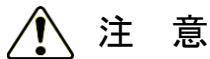
- ① 「6. 4. 3 本体カバーの取り付け／取り外し」に従い、装置の本体カバーを取り外してください。
- ② DIMMスロットの両側にあるつまみを外側へしっかりと開いてください。ロックが外れてメモリが上方向へ浮き上がります。
- ③ メモリの両端を持ち、真上へ引き抜いてください。

(3) メモリダンプファイルの再設定

メモリの容量を変更した場合は、メモリダンプ収集の再設定が必要です。

詳細は、「8. 2. 1 メモリダンプ収集設定確認メッセージ」を参照し、メモリダンプ収集に関する再設定を行ってください。

6. 4. 5 SSDの取り付け／取り外し



注 意

SSDの取り付け／取り外しは、突起部で手指を切らないように注意してください。

通 知

- SSDは一時的であっても静電気防止対策をしたクッションなど、衝撃を吸収するもの上に載せてください。机などの硬いものの上に直接置くと衝撃によって故障やデータ破壊、短寿命化の要因となります。
- 装置の電源が入った状態でのSSDのねじ取り外し、SSDの活線挿抜は絶対に行わないでください。装置およびSSDの故障の原因となります。
- SSDの交換は必ずOSをシャットダウンし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。
- SSDの取り付け／取り外し作業は、故障時の交換など必要時以外は行わないでください。頻繁に行いますと機器故障の原因となります。
- SSDは確実に装置に取り付けてください。半接触の状態やねじの取り付けもれは、故障の原因となります。
- SSDを取り付け／取り外す際は、実装するSSDおよび実装しているSSDに衝撃を与えないよう注意してください。衝撲を与えると故障する恐れがあります。

(1) SSDの取り付け／取り外しの前に

作業の前に「6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に」を参照してください。

【留意事項】

- ・SSDについての注意事項については「注意事項 4. SSDについて」を参照してください。

(2) SSDの取り外し

- ① SSDケース取り付けねじ2本を緩めてください。
- ② SSDケース取り付けねじ2本を両手で持ち、SSDを取り出してください。

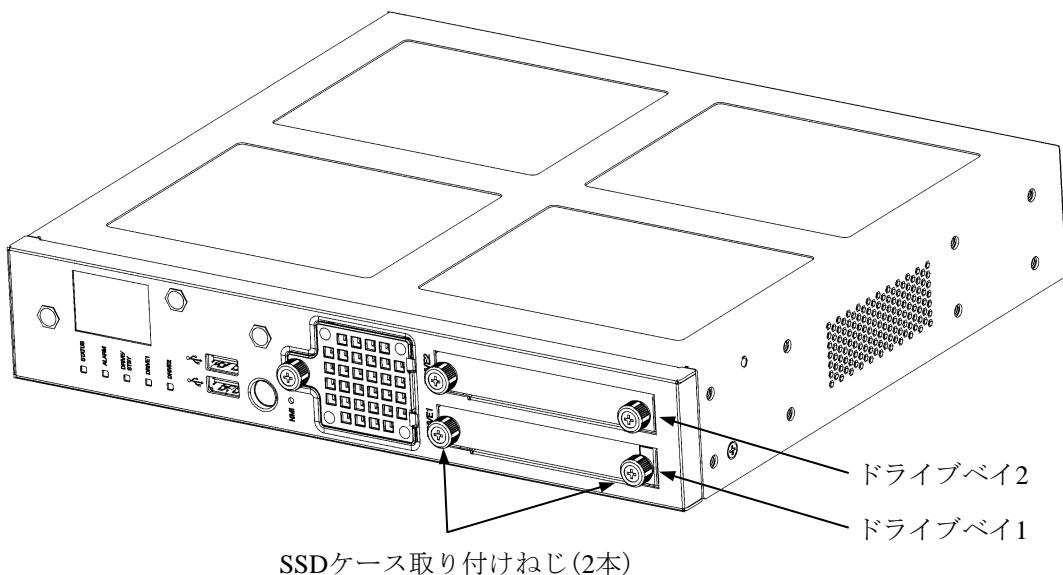


図6-4 SSDの取り外し

【留意事項】

- ・SSDを取り出す際は、接続コネクタに無理な力が加わらないように注意し、SSDに衝撃を与えないようゆっくりと引き出してください。
- ・コネクタ接続時は衝撃に注意してください。

(3) SSDの取り付け

SSDの取り付けは「(2) SSDの取り外し」と逆の手順で行ってください。

6. 4. 6 防じんフィルタの取り付け／取り外し

! 警 告

防じんフィルタは必ず装置に取り付けてください。防じんフィルタを取り付けない場合、じんあいが装置内に侵入し、短絡火災が発生する恐れがあります。

(1) 防じんフィルタの取り付け／取り外しの前に

- ・作業の前に「6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に」を参照してください。

(2) 防じんフィルタの取り外し

- ① 防じんカバーねじを緩めてください。
- ② 防じんカバーを装置から取り外してください。
- ③ 防じんフィルタを防じんカバーから取り外してください。

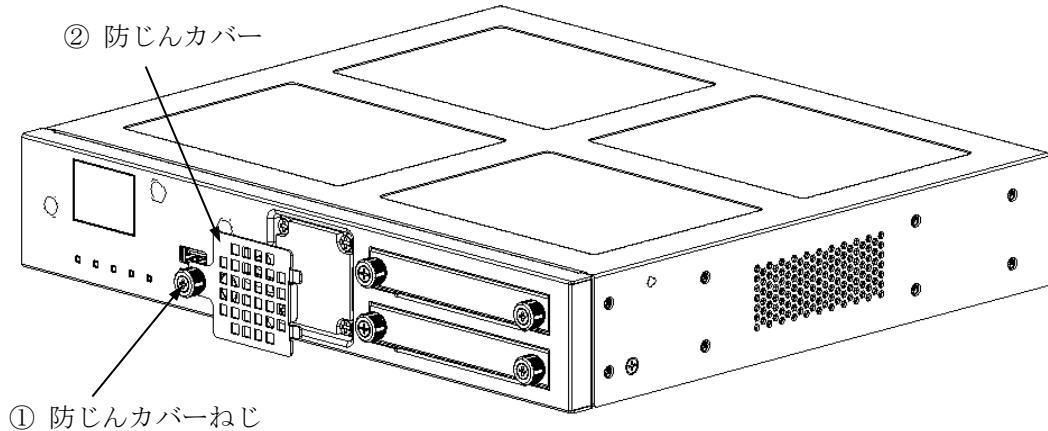


図 6-5 防じんフィルタの取り外し

(3) 防じんフィルタの取り付け

防じんフィルタの取り付けは、「(2) 防じんフィルタの取り外し」と逆の手順で行ってください。

6. 4. 7 縦置きスタンドの取り付け／取り外し

! 注 意

装置を机上に縦置きする場合は、必ず製品に付属の縦置きスタンドを装置に取り付け、水平な場所に設置してください。縦置きスタンドを取り付けない場合、装置が転倒・落下しけがをする恐れがあります。

(1) 縦置きスタンドの取り付け／取り外しの前に

- ・作業の前に「6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に」を参照してください。
- ・装置に接続している各種ケーブルを取り外したうえで作業してください。
- ・装置に衝撃を与えないでください。

(2) 縦置きスタンドの取り付け

縦置きスタンドを製品に同梱しているねじでしっかりと固定してください。

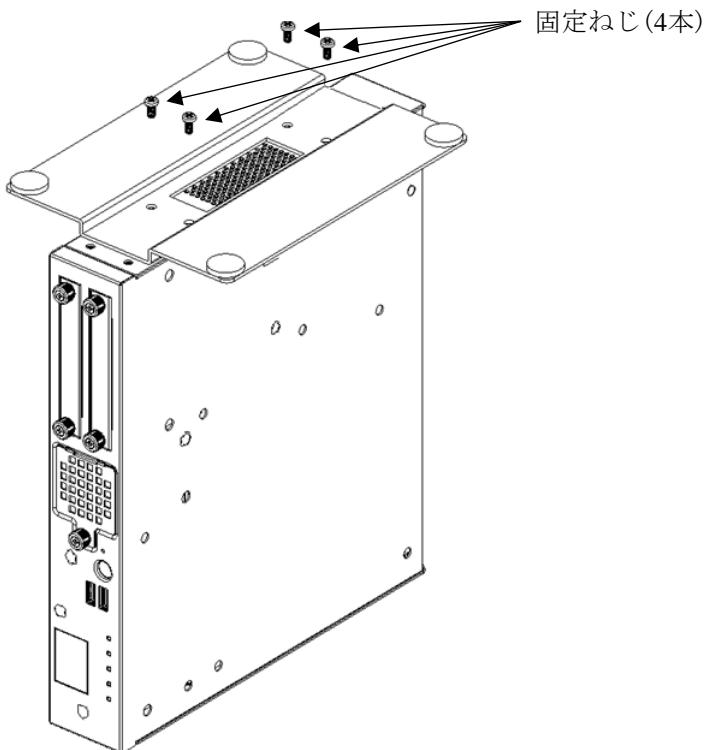


図 6-6 縦置きスタンドの取り付け

(3) 縦置きスタンドの取り外し

- 「(2) 縦置きスタンドの取り付け」と逆の手順で縦置きスタンドを取り外してください。
取り外した縦置きスタンドとねじは、なくさないように保管してください。

6. 5 リチウム電池の取り外し

! 注 意

- 装置を廃棄する際は手順に従いリチウム電池を取り外してください。
- リチウム電池の交換は修理にて対応いたしますので、弊社担当営業へご連絡ください。

(1) リチウム電池の取り外しの前に

- ・作業の前に「6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に」を参照してください。

(2) リチウム電池の取り外し

- ① 「6. 4. 3 本体カバーの取り付け／取り外し」に従い、装置の本体カバーを取り外してください。
- ② リチウム電池の取り外しにあたり、周囲のケーブルが障害になる場合は、ケーブルを取り外して作業してください。
- ③ 電池カバーの両端を親指と人差し指でつまみ、電池カバーの片端を持ち上げてください。

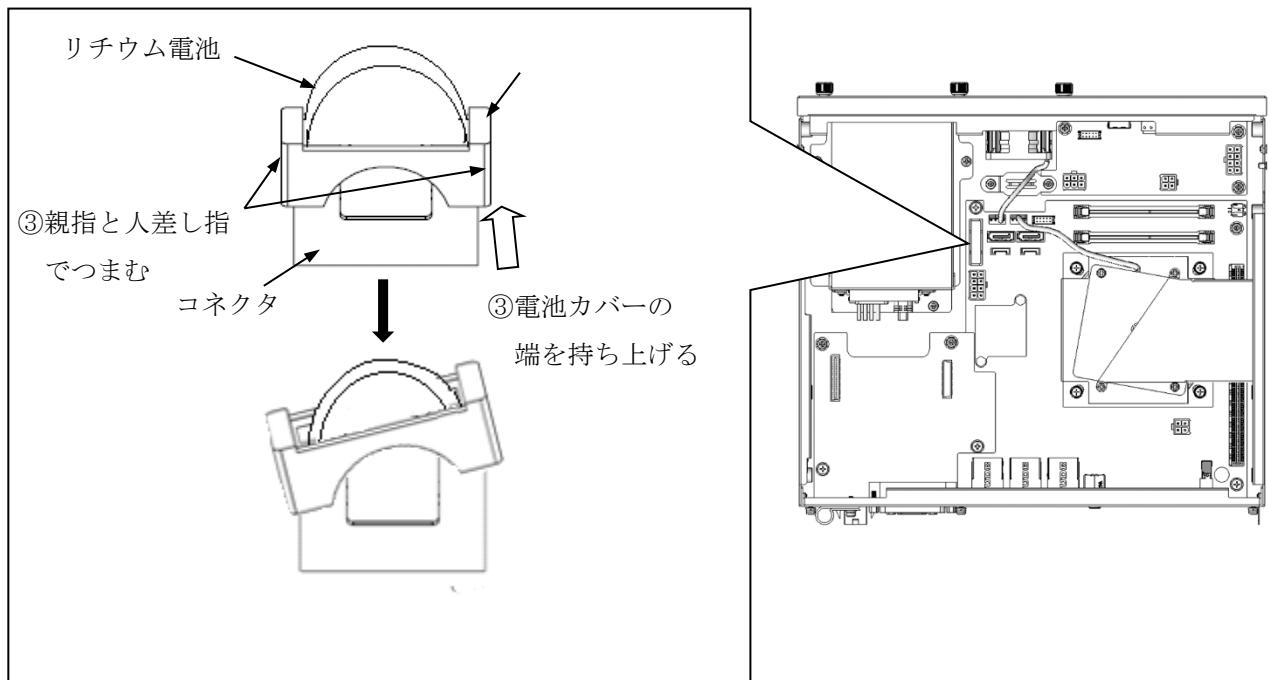


図6-7(1) リチウム電池の取り外し

- ④ ③にて持ち上げた電池カバーの端と反対側を持ち上げて電池カバーを取り外してください。
- ⑤ リチウム電池をつまみ上げてコネクタから取り外してください。
- ⑥ 電池交換後の再取り付けは、極性を下図の通りで確認し取り付けてください。
- ⑦ 逆の手順で復旧し、本体カバーを取り付けてください。

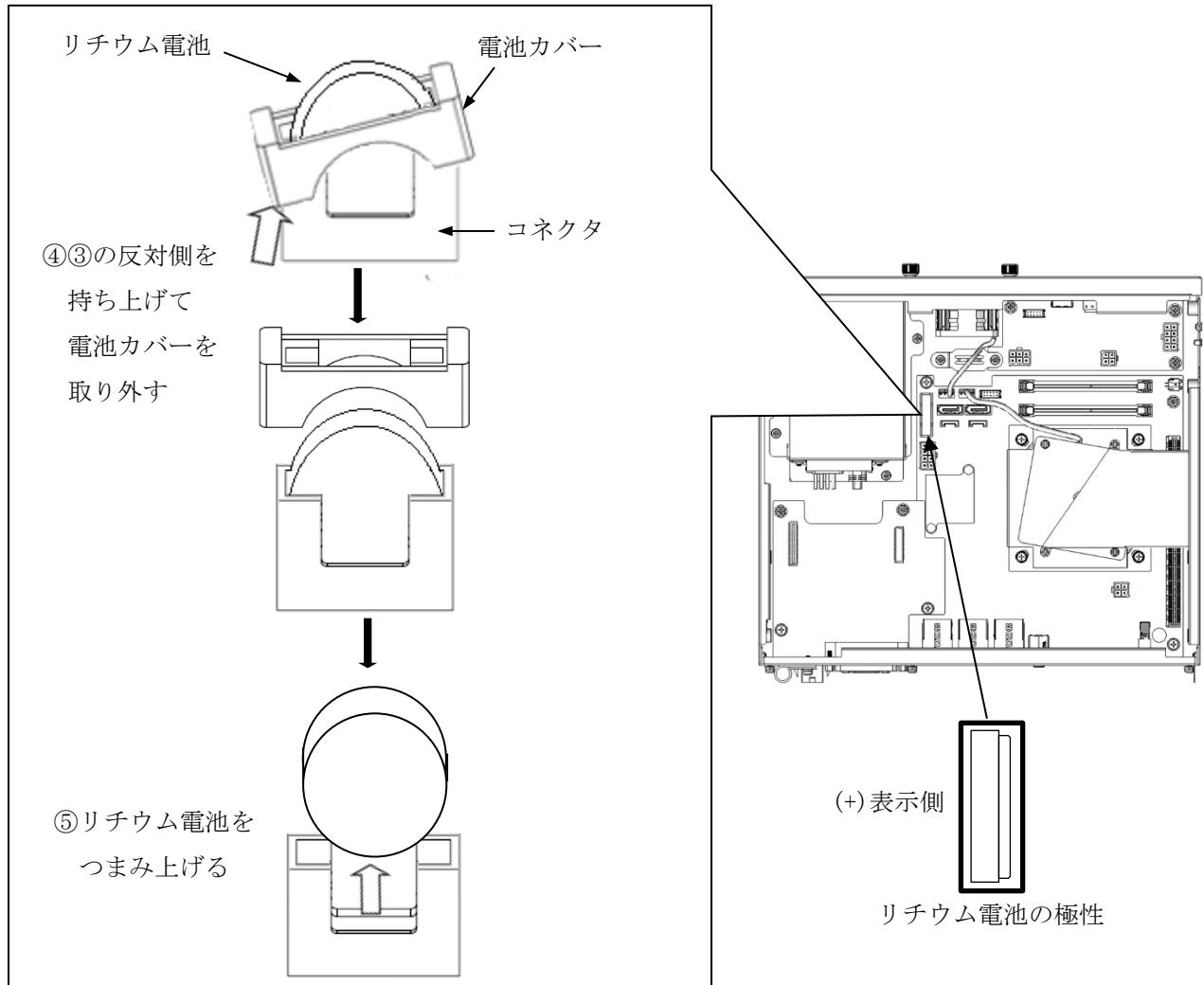


図 6-7(2) リチウム電池の取り外し(続き)

【留意事項】

- ・リチウム電池の廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規制に従ってください。海外では各国の法令に従い、廃棄してください。

6. 6 リモートパワーオン機能を有効にする場合

! 注 意

JPソケットの取り付け／取り外しの際、内部の部品に直接、素手で触らないでください。熱くなっているためやけどをする恐れがあります。また、内部の部品を傷つける恐れがあるため、故障の原因となります。

RAS外部接点ポートのリモートパワーオン機能を使用する場合、下記の手順に従い、RAS外部接点ボード上のJP1からJPソケットを取り外してください。JPソケットの状態で、外部接点のGENDI2信号を汎用接点入力信号かリモートオン信号か選択することができます（「5. 8. 2 外部接点仕様」参照）。

JPソケット状態	GENDI2の設定
付き	汎用接点入力信号
なし	リモートオン信号

(1) JPソケットの取り付け／取り外しの前に

- ・作業の前に「6. 4. 2 部品の取り付け／取り外し作業の前に」を参照してください。

(2) JPソケットの取り外し

- ① 「6. 4. 3 本体カバーの取り付け／取り外し」に従い、装置の本体カバーを取り外してください。
- ② JP1からJPソケットを取り外してください。

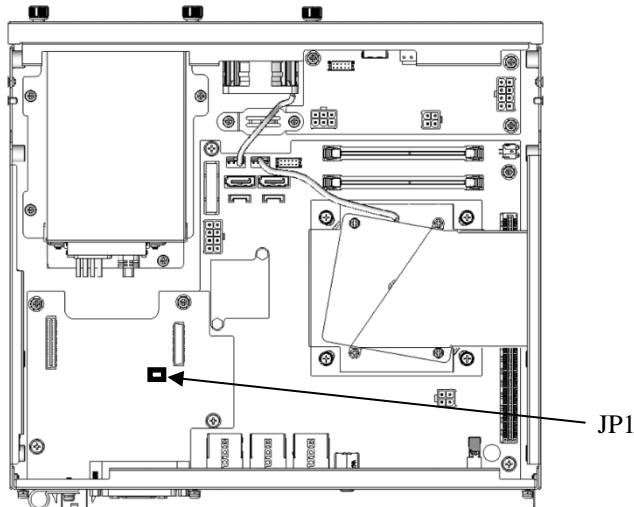


図6-8 JPソケットの取り外し

(3) JPソケットの取り付け

「(2) JPソケットの取り外し」と逆の手順で取り付けてください。

【留意事項】

- ・取り外したJPソケットは元の設定に戻すときに必要ですので、大切に保管してください。

第7章 リカバリDVDによる出荷状態への復元

通 知

リカバリDVDは、出荷時のハードウェア構成で作成したイメージファイルを保存したDVDです。そのため、ハードウェア構成がご購入時と異なる場合、復元作業を行ってもOSが正常に起動しない可能性があります。リカバリDVDを使用した復元は、外部記憶装置をすべて取り外し、出荷時のハードウェア構成で行ってください。

また、リカバリDVDを使用した場合にはシステムドライブのすべてのデータが消去されますので、必要に応じて事前にバックアップを行ってください。

尚、本製品はDVDドライブを搭載しておりませんので、あらかじめお客様に外付けDVDドライブをご準備いただく必要があります。

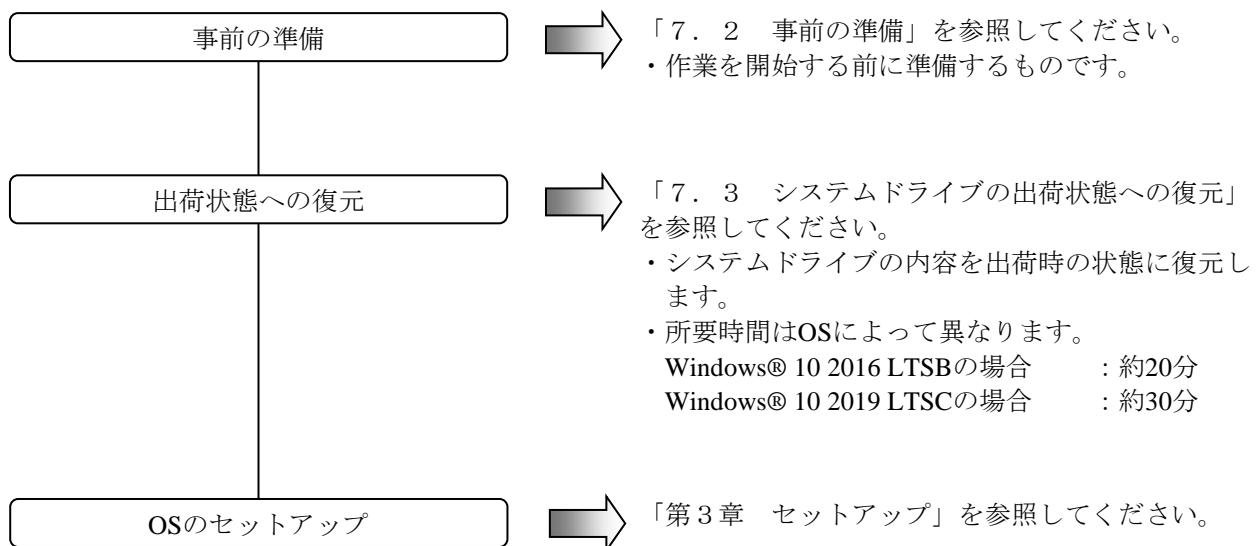
この章では、以下の手順について説明します。

- ・構築してあるシステムを破棄してシステムドライブをご購入時の状態へ復元する手順

7. 1 復元手順の概要

この節では、現在構築してあるシステムを破棄して出荷時の状態へ復元する手順の概要を説明します。リカバリDVDを使用してシステムドライブの内容を出荷時の状態に復元した後は、「第3章 セットアップ」に記載の手順に従ってOSのセットアップを実施してください。

以下に手順の概略フローを示します。



7. 2 事前の準備

リカバリDVDによる出荷時の状態への復元作業を開始する前に、下記のリカバリDVDを準備してください。

また、本製品はDVDドライブを搭載していませんので、復元作業を行うには外付けDVDドライブを準備いただく必要があります。

HF-W専用リカバリDVD	HITACHI <u>HJ-407x-****</u> Product Recovery DVD (下線部には、ご購入いただいた装置の型式を記載しています。)
外付けDVDドライブ	お客様が動作確認済みのDVDドライブを準備ください。

7. 3 システムドライブの出荷状態への復元

7. 3. 1 出荷状態への復元手順

以下の手順に従い、リカバリDVDを使用してHF-W400Eのシステムドライブを出荷時の状態に復元します。

- ① 装置の電源を入れ、リカバリDVD「HITACHI HJ-407x-**** Product Recovery DVD」をDVDドライブにセットします。複数枚組みの場合は1枚目（例として2枚組の場合、ディスク番号：1/2）をセットしてください。

(注) 下線部には、ご購入いただいた装置の型式を記載しています。以降の手順において同様の記載がされている部分に関しては、ご購入の装置の型式に読み替えてください。

- ② リカバリDVDから起動すると、認証画面が表示されます。

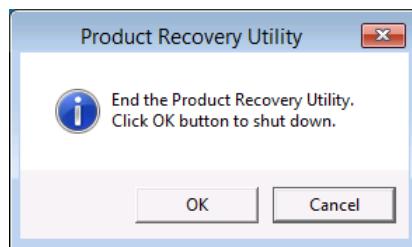
(注1) リカバリDVDから起動できなかった場合は、装置の電源を切った後、再び電源を入れてください。

- ・お使いの装置の型式と画面に表示された型式が同じ場合は、[Yes] ボタンをクリックしてください。
- ・お使いの装置の型式と画面に表示された型式が異なる場合は、[No] ボタンをクリックしてください。



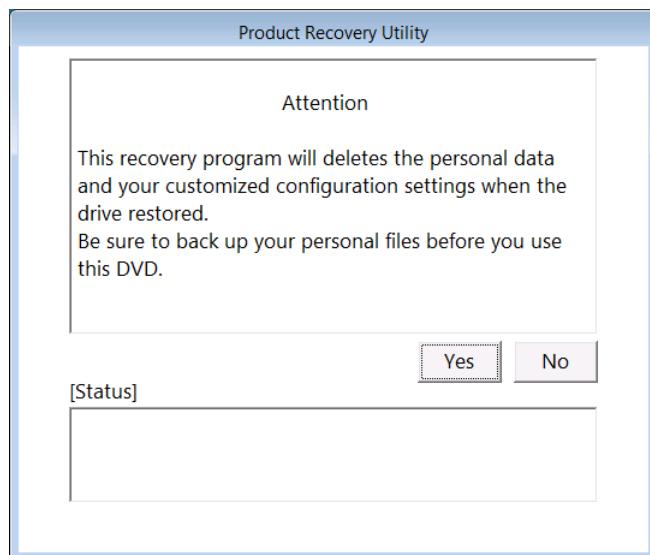
[No] ボタンをクリックした場合は、以下のメッセージダイアログボックスを表示しますので、[OK] ボタンをクリックしてください。リカバリDVDが自動で排出された後、装置をシャットダウンします。

認証画面へ戻る場合は、[Cancel] ボタンをクリックしてください。



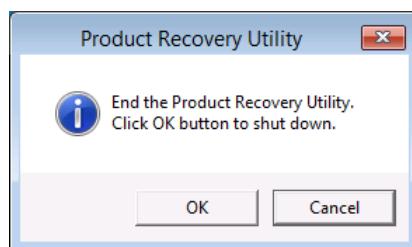
③ 認証画面で [Yes] ボタンをクリックすると、留意内容の確認画面を表示します。

- ・画面の表示内容に同意する場合は、[Yes] ボタンをクリックしてください。
- ・画面の表示内容に同意しない場合は、[No] ボタンをクリックしてください。



[No] ボタンをクリックした場合は、以下のメッセージダイアログボックスを表示しますので、[OK] ボタンをクリックしてください。リカバリDVDを自動で排出した後、装置をシャットダウンします。

留意内容の確認画面へ戻る場合は、[Cancel] ボタンをクリックしてください。



- ④ 留意内容の確認画面で [Yes] ボタンをクリックすると、ドライブ復元方法の選択画面を表示します。
- ・出荷状態への復元を行う場合は、復元方法を選択して [Next] ボタンをクリックしてください。
 - ・出荷状態への復元を中止する場合は、 [Cancel] ボタンをクリックしてください。

[Entire drive] :

システムドライブを出荷状態へ復元する場合やドライブ交換後の新規ドライブに対して復元を行う場合に選択してください。

選択後、 [Next] ボタンをクリックすると、手順⑤へ進みます。

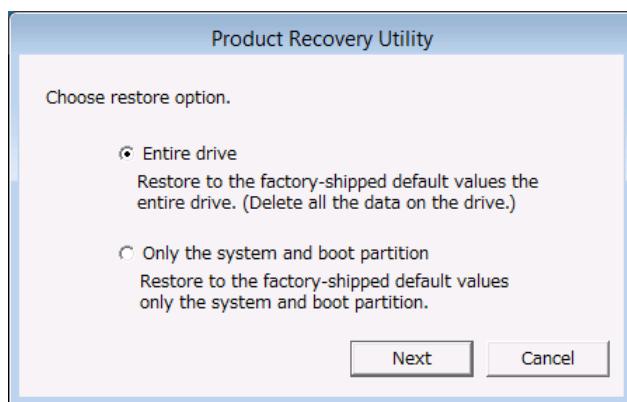
[Only the system and boot partition] :

ブートパーティション（Windows®をインストールしているパーティション）以外にデータ格納用パーティションなどが存在し、それを残したままシステムドライブを出荷状態へ復元する場合に選択してください。ブートパーティションのみを対象として復元します。

選択後、 [Next] ボタンをクリックすると、手順⑥へ進みます。

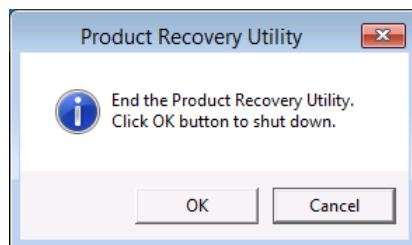
なお、以下の場合は選択できません。

- ブートパーティションが存在しない場合
- ブートパーティションが複数ある場合
- ブートパーティションの容量がこの装置で規定する最小容量未満の場合
(HF-W400Eの最小容量は100GBです。)



[Cancel] ボタンをクリックした場合は、以下のメッセージダイアログボックスを表示しますので、[OK] ボタンをクリックしてください。リカバリDVDを自動で排出した後、装置をシャットダウンします。

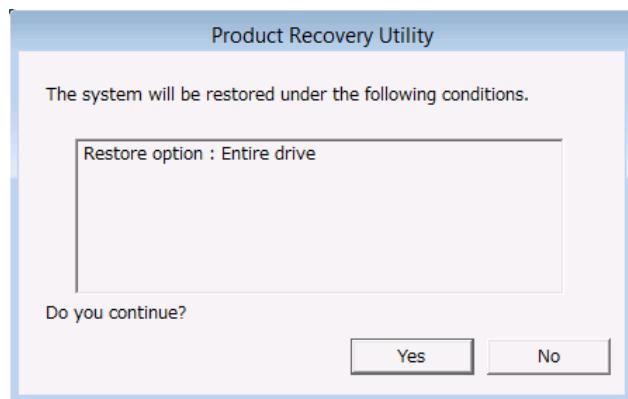
ドライブ復元方法の選択画面へ戻る場合は、[Cancel] ボタンをクリックしてください。



<ドライブ復元方法の選択画面で「Entire drive】を選択した場合>

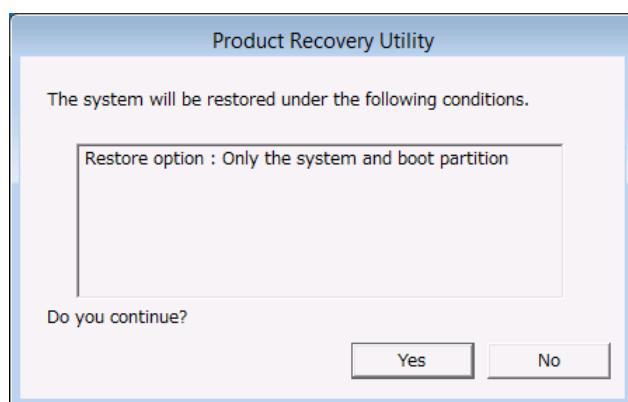
- ⑤ ドライブ復元方法の選択画面で「Entire drive】を選択すると、ドライブ復元内容の確認画面が表示されます。

- ・表示されたパーティション容量で復元することに同意する場合は、[Yes] ボタンをクリックしてください。手順⑦へ進みます。
- ・表示されたパーティション容量で復元することに同意しない場合は、[No] ボタンをクリックしてください。ドライブ復元方法の選択画面へ戻ります。

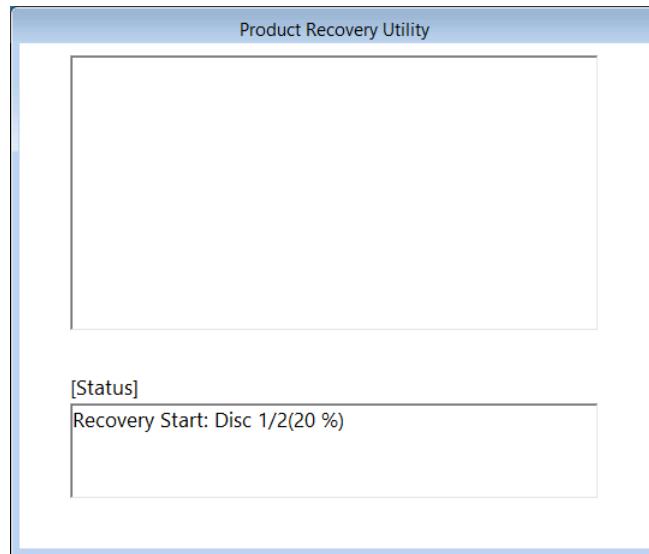


<ドライブ復元方法の選択画面で「Only the system and boot partition】を選択した場合>

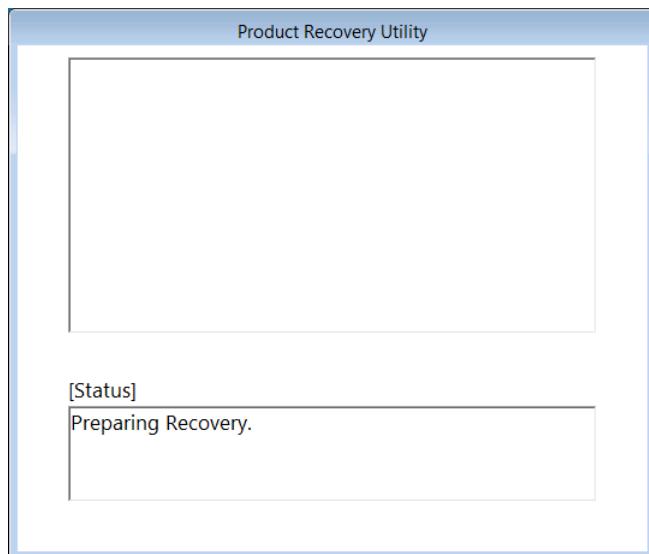
- ⑥ ドライブ復元方法の選択画面で「Only the system and boot partition】を選択すると、ドライブ復元内容の確認画面を表示します。
- ・ブートパーティションのみを対象として復元することに同意する場合は、[Yes] ボタンをクリックしてください。手順⑦へ進みます。
 - ・ブートパーティションのみを対象として復元することに同意しない場合は、[No] ボタンをクリックしてください。ドライブ復元方法の選択画面へ戻ります。



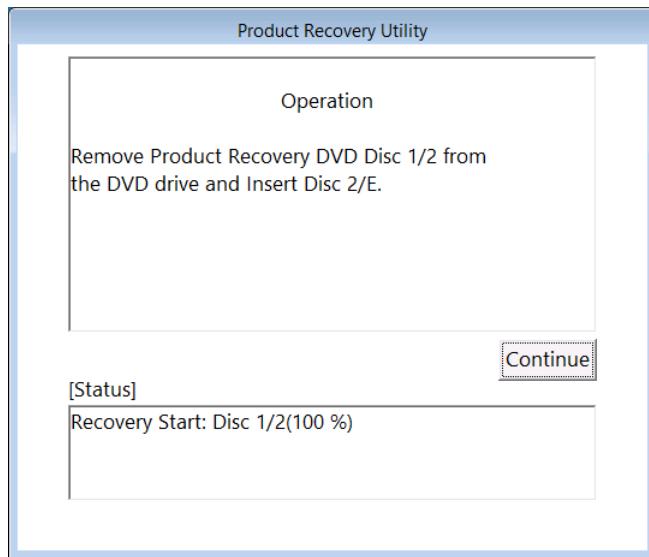
- ⑦ ドライブの復元内容の確認画面で [Yes] ボタンをクリックすると、出荷状態への復元を開始し、[Status] 欄に進捗状況を表示します。（以下の画面はリカバリDVDが2枚組みの場合の例となります）



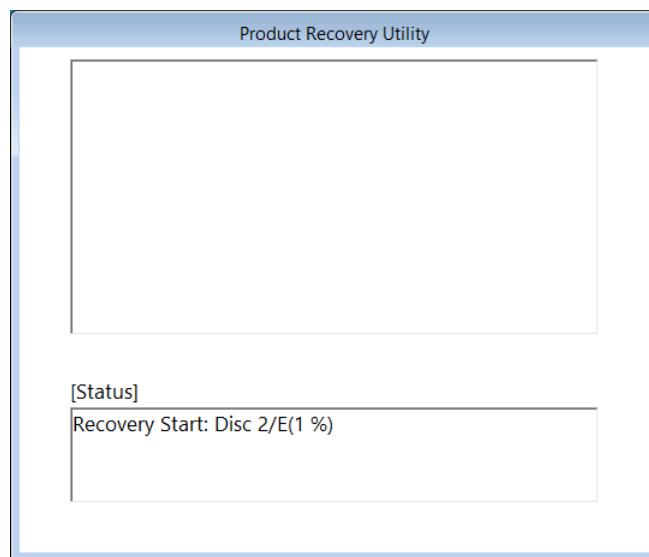
(注) ドライブ復元方法の選択画面で [Only the system and boot partition] を選択した場合は、復元の前にブートパーティションのフォーマットを行います。この処理には数分かかることがあります（所要時間はブートパーティションの容量によって異なります）。フォーマット中は [Status] 欄に “Preparing Recovery.” を表示します。



- ⑧ リカバリDVDが複数枚組の場合、現在のリカバリDVDによる出荷状態への復元が完了すると以下のメッセージを表示し、リカバリDVDを自動で排出します。DVDドライブからリカバリDVDを取り出し、次のリカバリDVDをセットします。（以下の画面はリカバリDVDが2枚組みの場合の例となります）



- ⑨ [Continue] ボタンをクリックすると [Status] 欄に “Preparing Recovery. Please wait a few minutes.” を表示した後、出荷状態への復元を再開し、進捗状況を表示します。



- ⑩ リカバリDVDが複数枚組みの場合、枚数に応じて手順⑧と手順⑨を繰り返してください。

- ⑪ リカバリDVDによる出荷状態への復元がすべて完了すると、[Status] 欄に “Recovery Complete.” を表示し、リカバリDVDを自動で排出します。DVD ドライブからリカバリDVDを取り出して [Exit] ボタンをクリックしてください。装置をシャットダウンします。



リカバリDVDによって、HF-W400Eのシステムドライブを出荷時の状態に復元しました。
これ以降は「第3章 セットアップ」に記載の手順に従い、OSのセットアップを実施してください。

7. 3. 2 復元操作時のエラーと対処方法

復元操作時にエラーが発生した場合は、表示されたエラーメッセージおよびエラーコードを記録したうえで、下表に示す内容に従い対処してください。なお、対処の内容を実施しても正常に動作しない場合やNo.8のエラーメッセージを表示した場合は、弊社担当営業に連絡してください。

表7-1 リカバリ操作時のエラーメッセージ一覧

No.	エラーメッセージ	対処方法
1	Retry time out. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・システムドライブの健全性を確認してください。(リード/ライトテストなど)
2	Image file is not found. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・復元操作を再度実施してください。 ・リカバリDVDの健全性を確認してください。(リードテストなど) ・DVDドライブの健全性を確認してください。(リードテストなど)
3	Drive failed or not connected. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・システムドライブが正しく接続されていることを確認してください。
4	Failed to access the drive. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・システムドライブの健全性を確認してください。(リード/ライトテストなど)
5	Failed to assign drive letter. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・不要なデバイスを接続していないか確認し、接続している場合は取り外してください。
6	Failed to read from Product Recovery DVD. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・DVDドライブが正しく接続されていることを確認してください。 ・リカバリDVDの健全性を確認してください。(リードテストなど) ・DVDドライブの健全性を確認してください。(リードテストなど)
7	Recovery failed. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・復元操作を再度実施してください。
8	Recovery invalid. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・弊社担当営業に連絡してください。
9	Drive capacity is not enough. Please refer to the INSTRUCTION MANUAL.	・システムドライブの容量を確認してください。
10	The capacity of drive is not equal.	・容量の等しいドライブを実装してください。

第8章 保守操作

この装置のRAS（Reliability、Availability、Serviceability）機能を使った保守操作について説明します。

8. 1 概要

この装置は、高信頼化機能を実現するためのRAS機能を備えています。以下に、この装置のRAS機能の概要を示します。

表8-1 RAS機能概要

分類		項目
監視機能		ハードウェア状態監視
		OSロック監視
		ウォッチドッグタイマ監視
GUI機能設定		RAS機能設定ウィンドウ
状態確認	GUI表示 通知機能	ハードウェア状態表示ウィンドウ
		イベント通知機能
		ポップアップ通知機能
		状態表示デジタルLED機能
		リモート通知機能
		ライブラリ関数による状態取得
制御機能	シャットダウン ／立ち上げ抑止	自動シャットダウン機能
		ライブラリ関数によるシャットダウン
		重度障害発生時立ち上げ抑止機能
		汎用外部接点の制御
		状態表示デジタルLEDの制御
ライブラリ関数		RASライブラリ
保守・ 障害解析	メモリダンプ 関連	メモリダンプ収集機能
		Bug Check（ブルースクリーン）要因通知
		ログ情報収集ウィンドウ
		保守操作支援コマンド
		筐体内温度トレンドログ
シミュレート機能		ハードウェア状態シミュレーション機能

<監視機能>

(1) ハードウェア状態監視

この装置のファン、筐体内温度、ドライブの状態などを監視します。

(2) OSロック監視

この装置に実装しているOS動作監視用タイマを使用して、OSの動作状態を監視します。最高レベル（リアルタイム優先度）のプロセスが正常に動作できる状態の間は、この装置前面のステータスランプが緑色に点灯します。

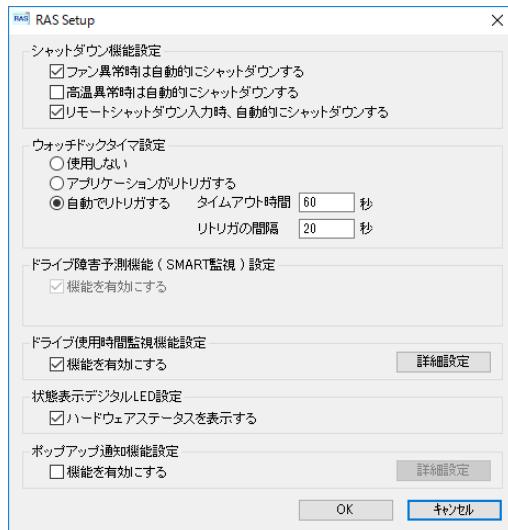
(3) ウオッチドッグタイマ監視

この装置に実装されているウォッチドッグタイマを使用し、プロセスが正常にスケジューリングされていることを監視します。また、ウォッチドッグタイマを使用するためのライブラリ関数を提供します。

<GUI機能設定>

(4) RAS機能設定ウィンドウ

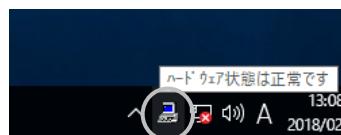
自動的にシャットダウンを行う条件やウォッチドッグタイマの使用方法などの設定を、グラフィカルな操作で変更できます。



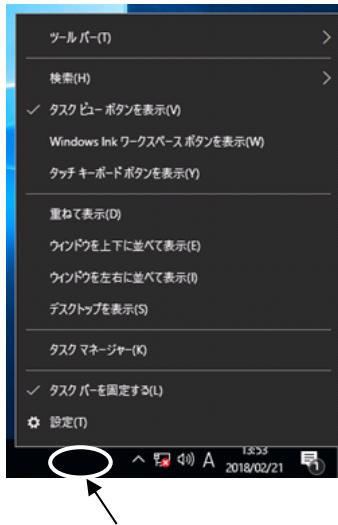
<状態確認>

(5) ハードウェア状態表示ウィンドウ

この装置のハードウェア状態を、グラフィカルなインターフェースで表示します。また、タスクバーの通知領域にハードウェア状態を表示するアイコンが常駐します。



ただし、装置出荷時の初期設定のままでは表示されません。通知領域の横にある矢印をクリックすることにより、アイコンが表示されます。また、このアイコンをタスクバーの通知領域に常駐させたい場合は、タスクバーを右クリックし、表示されたメニューの【設定】(Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCでは【タスクバーの設定】)をクリックし、表示した画面の【タスクバーに表示するアイコンを選択してください】(Windows® 10 IoT Enterprise 2019 LTSCでは【タスクバーに表示するアイコンを選択します】)をクリックし、【envdisp MFCアプリケーション】または【envdisp MFC Application】のアイコンをオンに設定してください。



タスクバーを右クリックすると
メニューが表示されます。

(6) イベント通知機能

ユーザー-applicationからイベントオブジェクトの状態を監視することにより、この装置のハードウェア状態を確認することができます。

(7) ポップアップ通知機能

ポップアップメッセージにより、この装置のハードウェアに異常が発生したことを通知します。

(8) 状態表示デジタルLED機能

この装置前面の状態表示デジタルLEDにより、ハードウェアに異常が発生したことを見知らせます。このLEDはユーザー-applicationからも使用できるので、アプリケーションの障害通知などにも使用することができます。

(9) リモート通知機能

この装置のハードウェア状態をリモート環境から確認することができます。また、ハードウェア状態に変化があった場合、リモート環境に通知します。

(10) ライブラリ関数による状態取得

ユーザー-applicationからRASライブラリを使用することにより、この装置のハードウェア状態を取得することができます。

<制御機能>

(11) 自動シャットダウン機能

ファン異常や筐体内温度異常、リモートシャットダウン信号入力を検出した場合に自動的にシャットダウンを実施します。自動的にシャットダウンを実施するかどうかは、<GUI機能設定>（4）RAS機能設定ウィンドウを使用して設定することができます。

(12) ライブラリ関数によるシャットダウン

ユーザーアプリケーションからRASライブラリを使用することにより、この装置をシャットダウンすることができます。

(13) 重度障害発生時立ち上げ抑止機能

OS起動時にファン異常などの障害を検出した場合、この装置の立ち上げを抑止します。

(14) 汎用外部接点（HJ-F4070-11、HJ-F4070-12）、状態表示デジタルLEDの制御

RASライブラリを使用することにより、汎用外部接点や状態表示デジタルLEDを制御することができます。

汎用外部接点には、ユーザーが使用できる外部接点が入力用に4点と出力用に3点ずつ用意されています。これらの接点を使用して外部機器からの信号をこの装置に入力したり、この装置から外部に信号を出力したりすることができます。

(15) 汎用外部接点（HJ-F4070-13）、状態表示デジタルLEDの制御

RASライブラリを使用することにより、汎用外部接点や状態表示デジタルLEDを制御することができます。

汎用外部接点には、ユーザーが使用できる外部接点が入力用に2点と出力用に2点ずつ用意されています。これらの接点を使用して外部機器からの信号をこの装置に入力したり、この装置から外部に信号を出力したりすることができます。

<ライブラリ関数>

(16) RASライブラリインターフェース

<状態確認>（10）、<制御機能>（12）および（14）（15）のライブラリ関数に加え、ログ情報を記録するためのライブラリ関数を提供します。

<保守・障害解析>

(17) メモリダンプ収集機能

この装置が予期せずに停止してしまった場合などの障害が発生したときに、NMIスイッチを押すと、システムメモリの内容をファイル（メモリダンプファイル）に記録します。このメモリダンプの内容を解析することによって、障害の原因を調査することができます。

(18) Bug Check (ブルースクリーン) 要因通知

Bug Check (ブルースクリーン) の発生を検出し、要因をイベントログに記録します。

(19) ログ情報収集ウィンドウ

この装置のログ情報データやメモリダンプファイルの収集をグラフィカルな操作で行うことができます。

(20) 保守操作支援コマンド

メモリダンプファイルやイベントログファイルなどの障害情報を外部媒体にセーブするコマンドなどを提供します。

(21) 筐体内温度トレンドログ

この装置の筐体内温度を定期的に取得してファイルに記録します。

<シミュレート機能>

(22) ハードウェア状態シミュレーション機能

この装置のハードウェア状態をシミュレートします。実際にハードウェアの異常が発生していないなくても、ユーザーアプリケーションのテストを実施することやRASソフトウェアの通知インターフェースの確認を行うことができます。

このマニュアルでは、

<制御機能> (13) 重度障害発生時立ち上げ抑止機能

<保守・障害解析> (17) メモリダンプ収集機能、(20) 保守操作支援コマンド

の機能について説明します。その他の機能の詳細については、「HF-W400E RAS機能マニュアル」を参照してください。なお、<状態確認> (8) 状態表示デジタルLED機能のPOST表示機能については、「9. 6. 1 POST表示」を参照してください。

8. 2 メモリダンプ収集機能

この装置は、表8-2の要因が発生した場合に、システムメモリの内容をファイル（メモリダンプファイル）に記録します。このとき、画面はブルースクリーンになります。このメモリダンプファイルの内容を解析することによって、障害の原因を調査できます。

表8-2 メモリダンプを収集する要因一覧

要因	説明
CPUロックからの強制回復	CPUがロックした場合、NMIスイッチを押すか、外部接点RMTRESETヘリモートリセット信号を入力してください（*1）。メモリダンプを収集します。
ハードウェア要因NMI	この装置のハードウェアに重障害（メモリのエラー訂正不可能なエラーやPCIバスパリティエラーなど）が発生したとき、NMI（Non Maskable Interrupt）が発生してメモリダンプが収集されます。
Windows®のBug Check	Windows®カーネル内で重大エラーが発生したとき、メモリダンプが収集されます。

（*1）外部接点RMTRESETヘリモートリセット信号を連続して入力しないでください。

この信号を連続して入力した場合、この装置はメモリダンプを収集できません。

収集するダンプファイルの種類は、コントロールパネルの「システム」で選択できます。選択できるダンプファイルは下記の5種類です。この装置では、より確実な障害解析を行うために「完全メモリダンプ」に設定することを推奨します。装置出荷時の設定は、「完全メモリダンプ」です。

- ・完全メモリダンプシステムメモリの全内容が記録されます。ブートボリューム（*2）には、物理メモリのサイズに1MBを加えたサイズのページファイルを保持するだけの領域が必要です。
- ・カーネルメモリダンプ ...カーネルメモリが記録されます。ブートボリューム（*2）には、カーネルメモリサイズ以上のページファイルが必要です。
- ・最小メモリダンプ装置停止理由を判別するのに必要な最小限の情報が記録されます。ブートボリューム（*2）には2MB以上のページングファイルを保持するだけの領域が必要です。
- ・自動メモリダンプカーネルメモリダンプ同様、カーネルメモリが記録されます。
カーネルメモリダンプとの違いは、ページファイルの初期値を物理メモリサイズより小さくすることが可能な点です。
- ・アクティブメモリダンプ...Hyper-Vの仮想マシンに割り当てられているメモリの内容をフィルタリングしてHyper-Vホストで使用しているメモリの内容だけを記録します。記録されるメモリダンプファイルは完全メモリダンプよりも小さくすることができます。

（*2）ブートボリュームとは、Windows®とそのサポートファイルを含むボリュームを指します。

なお、完全メモリダンプファイルを収集するためには、実装メモリの容量に応じたサイズのメモリダンプファイルが必要です。また、メモリダンプや仮想メモリ（ページファイル）の設定がこの装置の推奨設定（*3）である必要があります。

- （*3）コントロールパネルの【システムの詳細設定】が以下の設定であることをいいます。この装置では、装置出荷時にあらかじめ設定されています。
- ・[起動と回復]にあるメモリダンプの種類が「完全メモリダンプ」である。
 - ・[起動と回復]にある「既存のファイルに上書きする」が有効である。
 - ・[パフォーマンス]にある仮想メモリの「初期サイズ」および「最大サイズ」が実装メモリ + 300 [MB] である。

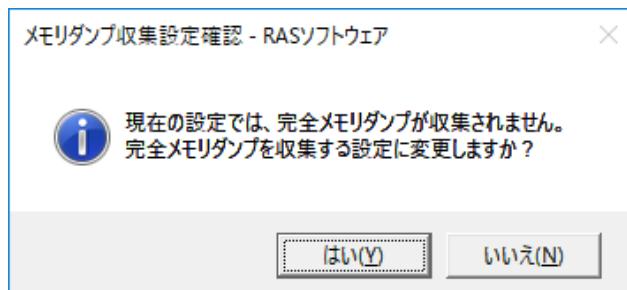
メモリダンプを収集する要因が発生した場合またはNMIスイッチを押した場合、ブルースクリーンと呼ばれる画面が表示された後、メモリダンプ収集処理が開始されます。

【留意事項】

- ・メモリダンプ収集処理に掛かる時間は、収集するダンプファイルの種類および実装しているドライブの構成や実装メモリの容量に応じて異なります。この装置推奨の設定である「完全メモリダンプ」の場合、時間が掛かりますので注意してください。
- ・状況によってはブルースクリーンを表示後、メモリダンプ収集処理の進行を示す数字が表示されないで停止する場合があります。これはメモリダンプ収集処理がファイルシステムやストレージの異常などの要因によって失敗してしまったためです。この場合は、画面に表示されている内容を記録し、NMIスイッチを押すまたは電源をいったん切った後再び入れて再立ち上げしてください。

8. 2. 1 メモリダンプ収集設定確認メッセージ

この装置では、メモリの増設などで、実装メモリの容量がメモリダンプファイルや仮想メモリの容量を超過した場合やメモリダンプの設定を変更したことで完全メモリダンプを収集できない状態になった場合には、下記メッセージの表示とイベントログの記録を行います。

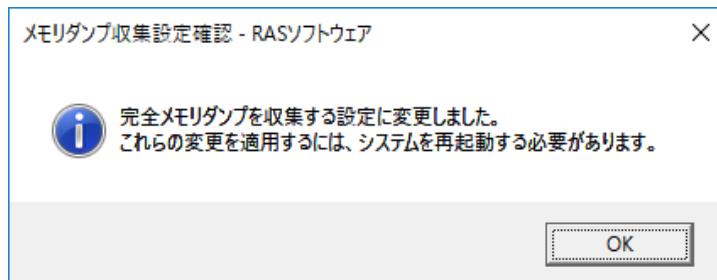


この装置推奨のメモリダンプ設定でシステムを運用する場合は、[はい] ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じてください。必要に応じて、メモリダンプや仮想メモリ設定の変更、メモリダンプ保存用領域の確保を自動で行います。

【留意事項】

- ・メッセージボックスが表示されたとき、イベントログにイベントID26の情報ログが記録されます
- ・この装置推奨のメモリダンプ設定でシステムを運用しない場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じてください。これ以降、このメッセージボックスは表示されません。

その後、システムの再起動を促す下記メッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じた後、システムを再起動してください。



8. 2. 2 メモリダンプに関する各種設定方法

ここでは、メモリダンプに関する各種設定方法について説明します。

この装置推奨のメモリダンプ設定に変更する場合に実施してください。装置出荷時など既にこの装置推奨のメモリダンプ設定でシステムを運用している場合、および「8. 2. 1 メモリダンプ収集設定確認メッセージ」で〔はい〕ボタンを選択した場合は実施する必要はありません。

【留意事項】

- ・この操作を行うには、コンピュータの管理者アカウント（Administratorsグループのメンバ）でローカルコンピュータにサインインしている必要があります。

（1）仮想メモリの設定方法

- ① コントロールパネルを表示し、〔システムとセキュリティ〕をクリックします。次に、〔システム〕をクリックします。
- ② 画面左側の〔タスク〕にある〔システムの詳細設定〕をクリックします。
- ③ 〔詳細設定〕タブにおける〔パフォーマンス〕グループの〔設定〕をクリックします。
- ④ 〔パフォーマンスオプション〕画面の〔詳細設定〕タブをクリックします。
- ⑤ 〔仮想メモリ〕グループの〔変更〕をクリックします。
- ⑥ 〔すべてのドライブのページングファイルサイズを自動的に管理する〕チェックボックスをオフにします。
- ⑦ 〔ドライブ〕の一覧で、変更するページングファイルが格納されているドライブを選択します。
ここでは“C:”（システムドライブ）をクリックします。
- ⑧ 〔カスタムサイズ〕を選択し、〔初期サイズ(MB)〕または〔最大サイズ(MB)〕に、ページングファイルの新しいサイズをMB単位で入力し、〔設定〕をクリックします。

初期サイズおよび最大サイズは、実装メモリサイズによって以下を設定してください。

- ・実装メモリサイズが4GBの場合：“4277”
- ・実装メモリサイズが8GBの場合：“8373”
- ・実装メモリサイズが16GBの場合：“16565”

実装メモリサイズは、以下の操作により確認することができます。

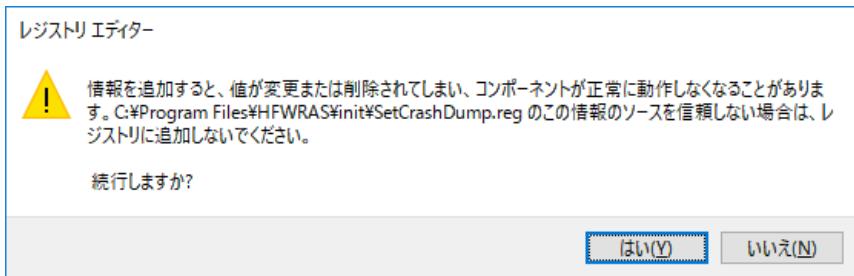
- a) コントロールパネルを表示し、〔システムとセキュリティ〕をクリックします。
- b) 〔システム〕をクリックし、“実装メモリ (RAM) :”に表示される値を確認します。
- ⑨ [OK] ボタンをクリックします。

(2) メモリダンプの設定方法

- ① コントロールパネルを表示し、[システムとセキュリティ] をクリックします。次に、[システム] をクリックします。
- ② 画面左側の [タスク] にある [システムの詳細設定] をクリックします。
- ③ [詳細設定] タブにおける [起動と回復] グループの [設定] をクリックします。
- ④ [ダンプファイル] 欄にメモリダンプファイル名を入力します。
この欄はデフォルトで%SystemRoot%\MEMORY.DMPが指定されています。
変更する必要がない場合は、何も入力する必要はありません。
- ⑤ [既存のファイルに上書きする] チェックボックスをオンにします。
- ⑥ [OK] ボタンをクリックします。

また、この装置で推奨している完全メモリダンプを収集できるようにするには、以下を実施してください。

- ① C:\Program Files\HFWRAS\init下にあるSetCrashDump.regファイルをダブルクリックします。
- ② 以下のメッセージが表示されますので [はい] ボタンをクリックします。



- ③ 正常に追加されたことを示すメッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。
- ④ OSを再起動後に設定が適用されます。

(3) メモリダンプ保存用領域の確保

createdmpコマンドを使用してメモリダンプ保存用領域を確保します。

詳細は、「8. 4 保守操作コマンド」を参照してください。

8. 3 重度障害発生時立ち上げ抑止機能

この装置は、Windows®の立ち上げのタイミングにファン異常など以下の要因を検出した場合、ハードウェア保護のために装置の立ち上げを抑止します。

- ① ファン異常
- ② リモートシャットダウンの入力

【留意事項】

- ・②については、RAS機能設定ウィンドウで“リモートシャットダウン入力時、自動的にシャットダウンする”を選択した場合に立ち上げを抑止します。自動シャットダウンが設定されていないと立ち上げは抑止しません。RAS機能設定ウィンドウの使用方法は、「HF-W400E RAS機能マニュアル」を参照してください。
また、②を検出した場合は、ブルースクリーンを表示して停止します。このときのLEDコードについては、「9. 3 Bug Check要因」を参照してください。

8. 4 保守操作コマンド

保守操作コマンドの使用方法について説明します。これらのコマンドは装置でトラブルが発生したときや予防保全作業をするときに使用します。これらのコマンドはすべて、コマンドプロンプトから起動して使用します。

表8-3に保守操作コマンド一覧を示します。

表8-3 保守操作コマンド一覧

コマンド名	機能
logsave	予防保全作業をするときやトラブルが発生したときに、予防保全やトラブルの事後解析用のデータを収集するために使用します。
mdump	Bug Checkなどでメモリダンプが収集されたときに、メモリダンプファイルを可搬媒体にコピーするために使用します。
createdmp	メモリダンプ容量不足のメッセージが表示されたときに、メモリダンプファイル用のストレージ領域を確保するために使用します。
getrasinfo	ファンや筐体内温度など装置の状態を確認するために使用します。

これらの保守操作コマンドで収集したメモリダンプファイルやトラブル解析用データについては、弊社が有償で解析するサービスを用意しています。

8. 4. 1 ログ情報収集コマンド (logsave)

● 名前

logsave — ログ情報の収集

● 形式

logsave [-e ファイル名] [Directory]

● 機能

logsaveコマンドは、予防保全やトラブルの事後解析用のデータをセーブします。データは圧縮して1つのファイル（ファイル名：logsave.zip）として記録されます。

以下にオプションの説明をします。オプションを何も指定しなかった場合は、システムドライブ直下（通常はC:\）にlogsaveディレクトリを作成してデータをセーブします。

-e ファイル名 : logsaveコマンドでセーブしたデータを展開します。ファイル名には展開するファイルの絶対パスを指定してください。このオプションを省略した場合は、データのセーブを行います。

Directory : -eオプションを指定しない場合は、セーブデータを格納するディレクトリを指定してください。 このオプションを省略した場合には、システムドライブ直下（通常はC:\）にlogsaveディレクトリを作成してデータをセーブします。

-eオプションを指定した場合は、展開したデータを格納するディレクトリを指定してください。 このオプションを省略した場合は、カレントディレクトリにデータを展開します。

logsaveが収集する情報を表8-4に示します。

表8-4 logsaveがセーブする情報

項目	内容
Windows®のイベントログファイル	イベントログファイルのバックアップ
RASソフトウェアログデータ	RASソフトウェア動作ログ
RASソフトウェアユーザー設定情報	ポップアップ通知機能のユーザー設定定義ファイル
Windows®のバージョン情報	Windows®のシステムファイルやドライバファイルのバージョン情報
最小メモリダンプ	最小ダンプディレクトリ下のファイル
システム情報	ハードウェアリソースやソフトウェア環境などのシステム情報
RAS情報表示コマンドの出力結果	ファンや筐体内温度など装置の状態およびRASソフトウェアの設定情報
ipconfigコマンドの出力結果	ネットワーク設定の情報
Windows®のセットアップログ	Windows®セットアップ時のログファイル

● 診断

このコマンドが異常終了した場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。

セーブデータを格納するディレクトリが存在しない場合は、Windows®のxcopyコマンドが出力するエラーメッセージが表示されます。

表8-5 logsave のエラーメッセージ

エラーメッセージ	意味
You do not have the privilege to run this command. Please run this command again on "Administrator: Command Prompt".	管理者特権がありません。 コンピュータの管理者アカウントでサインインしてから再度実行してください。 ユーザー アカウント制御 (UAC) が有効な場合は、管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。

【留意事項】

- logsaveコマンドは、コンピュータの管理者アカウント（Administratorsグループのメンバ）でサインインして実行してください。また、logsaveコマンドを複数個同時に実行することはできません。
- 管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。
- ログ情報は、スタートメニュー内のプログラムの選択でも収集可能です。詳細は「HF-W400E RAS機能マニュアル」を参照してください。
- 保存されたlogsave.zipファイルをダブルクリックし、zipファイル内が見られることを確認してください。見られない場合には、zipファイルが壊れている可能性がありますので、再度コマンドを実行してください。

8. 4. 2 メモリダンプファイル複写コマンド (mdump)

● 名前

mdump — メモリダンプファイルの複写

● 形式

mdump [-n | -e ファイル名] <複写（展開）先パス名>

● 機能

mdumpコマンドは、装置が予期せずに停止した場合にMicrosoft® Windows®が収集するメモリダンプファイルを圧縮して可搬媒体にコピーするコマンドです。コピー対象は、[コントロールパネル] – [システムとセキュリティ] – [システム] – [システムの詳細設定] – [起動／回復] オプションで指定したダンプファイルと、最小ダンプディレクトリ内の全ファイルです。メモリダンプファイルは圧縮（ファイル名：MEMORY.zip）して格納されます。

オプションとして、-eオプションを指定した場合は圧縮したファイルを展開します。

以下にオプションの説明をします。

-n : 対象のファイルを圧縮しないで複写します。

-e ファイル名 : mdumpコマンドで圧縮したファイルを展開します。必ずファイル名を指定してください。

複写先パス名 : -eオプションを指定しない場合は、複写先を示すドライブ名を指定します。サブディレクトリ下に複写する場合は、ディレクトリ名まで含めたフルパス名を指定します。

-eオプションを指定した場合は、展開したファイルを格納するディレクトリを指定します。

- ・このコマンドで指定した複写（展開）先へメモリダンプファイルをコピーします。
- ・複写（展開）先に同名ファイルがある場合には上書きします。
- ・コマンドプロンプトにおいて、“mdump /?” または “mdump -?” としてmdumpコマンドを実行または指定パラメータに誤りがあった場合は、操作方法を示すヘルプメッセージが表示されます。

● 診断

このコマンドが異常終了した場合は、以下のエラーメッセージを表示します。

表8-6 mdumpのエラーメッセージ

メッセージ	意味
You do not have the privilege to run this command. Please run this command again on "Administrator: Command Prompt".	管理者特権がありません。 コンピュータの管理者アカウントでサインインしてから再度実行してください。 ユーザー アカウント制御 (UAC) が有効な場合は、管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。

【留意事項】

- mdumpコマンドは、コンピュータの管理者アカウント（Administratorsグループのメンバ）でサインインして実行してください。また、mdumpコマンドを複数個同時に実行することはできません。
- 管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。
- 複写先に十分な空き容量がない場合、mdumpコマンドを実行すると圧縮フォルダーエラーが発生します。このため、mdumpコマンドを実行する前に実装メモリの容量と同等の空き領域があることを確認してください。
- ブルースクリーンが発生した後のOS起動直後にmdumpコマンドを実行すると、圧縮フォルダーエラーが発生しますので、mdumpコマンドを実行しないでください。詳細は「HF-W400E RAS機能マニュアル」を参照してください。
- 保存されたMEMORY.zipファイルをダブルクリックし、zipファイル内が見られることを確認してください。見られない場合には、zipファイルが壊れている可能性がありますので、再度コマンドを実行してください。

8. 4. 3 メモリダンプ保存用ストレージ領域確保コマンド (createdmp)

● 名前

createdmp — メモリダンプファイルを保存するためのストレージ領域を確保

● 形式

createdmp

● 機能

createdmpコマンドは、ストレージ容量不足によるメモリダンプ収集の失敗が起こらないように、あらかじめ空きのメモリダンプファイルを作成しておくことで、メモリダンプを保存するためのストレージ領域を確保しておくコマンドです。これによって、ストレージ容量が不足していてもメモリダンプの収集に失敗することがなくなります。

createdmpコマンドは、以下の条件を満たした場合に、ストレージ領域の確保を行います。条件を満たさない場合は、エラー終了します。メモリダンプの設定を確認して再度このコマンドを実行してください。メモリダンプ設定方法については、「8. 2. 2 メモリダンプに関する各種設定方法」を参照してください。

- ・「完全メモリダンプ」を収集する設定であること。
- ・メモリダンプファイル名が正しく入力されていること。
- ・メモリダンプファイルの上書きが可能であること。
- ・メモリダンプファイル確保後、当該パーティションのストレージ容量の10%以上が空いていること。

確保されるストレージ領域のサイズは、以下となります。

- ・実装メモリサイズ+10MB

【留意事項】

- ・createdmpコマンドは、コンピュータの管理者アカウント（Administratorsグループのメンバ）でサインインして実行してください。また、createdmpコマンドを複数個同時に実行することはできません。
- ・ユーザー アカウント制御（UAC）が有効な場合、管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。

● 診断

このコマンドが正常終了した場合は、何も表示しないで終了します。このコマンドが異常終了した場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。

表8-7 createdmp のエラーメッセージ

エラーメッセージ	意味
Error: In the current settings, memory dump file won't be saved.	現在の設定ではメモリダンプが収集されません。メモリダンプの設定を“完全メモリダンプ”にしてください。
Error: Free disk space is too low.	ストレージの空き容量が不足しています。ストレージの空き容量を増やして再実行してください。
Error: Systemcall failed. (%s, %x) %s : 異常発生Windows APIの関数名 %x : Windows APIのエラーコード	内部エラーが発生しました。
You do not have the privilege to run this command. Please run this command again on "Administrator: Command Prompt".	管理者特権がありません。 コンピュータの管理者アカウントでサインインしてから再度実行してください。ユーザー アカウント制御 (UAC) が有効な場合は、管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。

8. 4. 4 RAS情報表示コマンド (getrasinfo)

● 名前

getrasinfo — ファンや筐体内温度など装置の状態およびRASソフトウェアの設定情報の表示

● 形式

getrasinfo [/status | /setting] [/e ファイル名]

● 機能

getrasinfoコマンドは、ファンや筐体内温度など現在の装置の状態およびRASソフトウェアの設定情報をコマンドプロンプト上に表示します。また、指定したファイルに出力結果をテキストファイル形式で格納します。

以下に、指定できるオプションの説明をします。/statusおよび/settingオプションのどちらも指定しなかった場合は、装置の情報およびRASソフトウェアの設定の両方を表示します。

/status : ファンや筐体内温度など現在の装置の状態を表示します。

/setting : RASソフトウェアの設定情報を表示します。

/e ファイル名 : 出力結果をコマンドプロンプトに表示しないで、ファイル名で指定されたファイルへテキストファイル形式で格納します。

getrasinfoコマンドが表示する情報を表8-8に示します。

表8-8 getrasinfo コマンドが表示する情報

項目	内容
装置の状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ファン状態 ・温度状態 ・ドライブ状態 ・メモリ状態
RASソフトウェアの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・自動シャットダウン機能の設定 ・ウォッチドッグタイム設定 ・ドライブ障害予測機能（SMART）設定 ・ドライブ使用時間監視機能設定 ・状態表示デジタルLED設定 ・ポップアップ表示機能設定

● 表示内容

以下にオプションを指定しないでgetrasinfoコマンドを実行した場合の表示例を示します。

```
<<getrasinfo result>>
Date: 2019/01/30 17:28:30
Model Name: HJ-407x
```

[Hardware Status]

[Fan condition]

System fan status:	Normal
CPU fan status:	Normal

[Temperature condition]

Internal temperature status:	Normal
Internal temperature value:	28 deg C

[Drive condition]

Drive bay1	
Type:	SSD
Status:	Healthy
Used hours:	2000 hours
Drive bay2	
Type:	SSD
Status:	Healthy
Used hours:	2000 hours

[Memory condition]

DIMM1 status:	Normal
DIMM2 status:	Normal

} ヘッダ一部

} Hardware Statusセクション
(装置の状態)

次ページに続く

[RAS Setting]	
[Automatic shutdown setting]	
Fan:	ON
Temperature:	OFF
Remote shutdown:	ON
[Watchdog timer setting]	
Retrigger type:	Automatic
Timeout:	60 sec
Interval:	20 sec
[Drive failure prediction setting]	
Function is available:	Enable
[Drive used hours monitoring setting]	
Function is available:	Enable
Drive bay1:	Enable
Drive bay2:	Enable
[Advanced]	
Time limit of drive bay1:	20000 hours
Time limit of drive bay2:	20000 hours
[Digital LED setting]	
Show Hardware status:	ON
[Popup setting]	
Function is available:	Disable
[Advanced]	
Fan:	Enable
Temperature:	Disable
SMART:	Disable
Used hours:	Enable
Memory:	Disable
Memory Failure:	Disable

RAS Settingセクション
(RASソフトウェア設定)

● 表示内容の説明

■ ヘッダー部：

getrasinfoコマンドを実行した年月日時とモデル名を表示します。

以下にヘッダー部の表示内容を示します。

```
<<getrasinfo result>>
Date: YYYY/MM/DD hh:mm:ss
Model Name: HJ-407x
```

YYYY：西暦、MM：月、DD：日、hh：時（24時間表示）、mm：分、ss：秒

■ [Hardware Status] セクション：

装置の状態を表示します。Hardware Statusセクションには、以下のサブセクションがあります。

- [Fan condition] セクション：

各種ファンの状態を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
<u>xx</u> fan status: <u>yy</u>	xx	ファン名称を示します。 System : システムファン CPU : CPUファン
	yy	状態を示します。 Normal : 正常 Error : 異常

- [Temperature condition] セクション：

各種温度の状態を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
<u>xx</u> Temperature status: <u>yy</u>	xx	各種温度を示します。 Internal : 筐体内
	yy	状態を示します。 Normal : 正常 Error : 異常
<u>xx</u> Temperature value: <u>zz</u>	xx	各種温度を示します。 Internal : 筐体内
	zz	温度値を示します。

- ・ [Drive condition] セクション：

ドライブ状態を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
Drive bay <u>xx</u>	xx	ドライブベイ番号を示します。
Type: <u>ww</u>	ww	ドライブの種類を示します。
Status: <u>yy</u>	yy	ドライブ状態を示します。 Healthy : 正常 Not Connected : 未実装 Smart Detected : SMART検出 Overrun : 使用時間超過 Unknown : 不明な状態 Smart Detected, Overrun : SMART検出と使用時間の超過
Used hours: <u>zz</u>	zz	ドライブの使用時間を示します。

- ・ [Memory condition] セクション：

メインメモリ状態を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
<u>xx</u> status: <u>yy</u>	xx	メモリスロット名称を示します。 DIMM1 : DIMM1 DIMM2 : DIMM2
	yy	メモリ状態を示します。 Normal : 正常 Error : 高い頻度でエラー訂正発生 Not Mounted : 未実装

- [RAS Setting] セクション：

RASソフトウェアの設定を表示します。RAS Settingセクションには、以下のサブセクションがあります。

- ・ [Automatic shutdown setting] セクション：

自動シャットダウン機能の設定を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
Fan: <u>xx</u>	xx	ファン異常時の自動シャットダウン設定を示します。 ON : 有効 OFF : 無効
Temperature: <u>yy</u>	yy	温度異常時の自動シャットダウン設定を示します。 ON : 有効 OFF : 無効
Remote shutdown: <u>zz</u>	zz	リモートシャットダウン接点入力時の自動シャットダウン設定を示します。 ON : 有効 OFF : 無効

- ・ [Watchdog timer setting] セクション：

ウォッチドッグタイマの設定を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
Retrigger type: <u>xx</u>	xx	リトリガ種類を示します。 Automatic : 自動でリトリガする Application : アプリケーションがリトリガする Not used : 使用しない
Timeout: <u>yy</u>	yy	自動でリトリガする場合のタイムアウト時間を示します。
Interval: <u>zz</u>	zz	自動でリトリガする場合のリトリガ間隔を示します。

- ・ [Drive failure prediction setting] セクション：

ドライブ障害予測機能（SMART）の設定を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
Function is available: <u>xx</u>	xx	ドライブ障害予測機能（SMART）の有効／無効を示します。 Enable：有効 HF-W400Eは「有効」固定となります。

- ・ [Drive used hours monitoring setting] セクション：

ドライブ使用時間監視機能の設定を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
Function is available: <u>xx</u>	xx	ドライブ使用時間監視機能の有効／無効を示します。 Enable：有効 Disable：無効
Drive bay1: <u>vv</u>	vv	ドライブベイ1の使用時間監視機能の有効／無効を示します。 Enable：有効 Disable：無効
Drive bay2: <u>ww</u>	ww	ドライブベイ2の使用時間監視機能の有効／無効を示します。 Enable：有効 Disable：無効
[Advanced]	—	詳細設定を表示します。
Time limit of drive bay <u>yy</u> : <u>zz</u>	yy	ドライブベイ番号を示します。
	zz	ドライブ使用時間監視のしきい値を示します。

- ・ [Digital LED setting] セクション：

状態表示デジタルLEDの設定を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目	意味	
Show Hardware status: <u>xx</u>	xx	ハードウェアステータス表示の有効／無効を示します。 ON：有効 OFF：無効

- ・ [Popup setting] セクション：

ポップアップ通知機能の設定を表示します。以下に表示項目とその意味を示します。

表示項目		意味
Function is available: <u>xx</u>	xx	ポップアップ通知機能の有効／無効を示します。 Enable : 有効 Disable : 無効
[Advanced]	—	詳細設定を表示します。
Fan: <u>yy</u>	yy	ファン異常時の表示設定を示します。 Enable : 表示する Disable : 表示しない
Temperature: <u>zz</u>	zz	温度異常時の表示設定を示します。 Enable : 表示する Disable : 表示しない
SMART: <u>aa</u>	aa	ドライブ障害予測検出時の表示設定を示します。 Enable : 表示する Disable : 表示しない
Used hours: <u>bb</u>	bb	ドライブ使用時間超過時の表示設定を示します。 Enable : 表示する Disable : 表示しない
Memory: <u>dd</u>	dd	高頻度なメモリエラー訂正検出時の表示設定を示します。 Enable : 表示する Disable : 表示しない
Memory Failure: <u>ee</u>	ee	メモリ故障の可能性検出時の表示設定を示します。 Enable : 表示する Disable : 表示しない

● 診断

処理が正常に終了した場合、getrasinfoコマンドは終了コード0を返します。処理が異常終了した場合は、getrasinfoコマンドは以下のエラーメッセージを表示し、終了コード1を返します。

表8-9 getrasinfoのエラーメッセージ

エラーメッセージ	意味
Usage: getrasinfo [/status /setting] [/e File]	オプション指定に誤りがあります。 正しいオプションを指定してください。
An error occurred in %s. ErrorCode=%x %s : 異常発生Windows APIの関数名または内部関数名 %x : Windows APIまたは内部関数のエラーコード	内部エラーが発生しました。 再度コマンドを実行してください。
You do not have the privilege to run this command. Please run this command again on "Administrator: Command Prompt".	管理者特権がありません。 コンピュータの管理者アカウントでサインインしてから再度実行してください。 ユーザーアカウント制御（UAC）が有効な場合は、管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。

【留意事項】

- getrasinfoコマンドは、コンピュータの管理者アカウント（Administratorsグループのメンバ）でサインインして実行してください。また、getrasinfoコマンドを複数個同時に実行することはできません。
- 管理者特権でコマンドプロンプトを起動し、コマンドを実行してください。
- /eオプション指定時に、出力先に同名のファイルがある場合は上書きします。
- 表示する情報の取得に失敗した場合、セクション名だけの表示や表示内容の一部が“---”になることがあります。この場合は、再度コマンドを実行してください。
- ドライブを新規に接続した場合や保守などで交換を行った場合、接続後の初回起動においてドライブの認識に時間がかかり、[Drive condition] セクションの [Status] に [Not Connected] と表示される場合があります。この場合はOSを再起動してください。

第9章 ラブルシューティング

この章では、よくあるラブルの原因と対処方法について説明します。「9. 1 ラブル一覧」から現象を選択し、その参照先（「9. 2 原因と対処方法」～「9. 6 状態表示デジタルLED」）の内容に従い対処してください。また、「9. 2 原因と対処方法」に従っても問題が解決しない場合、システム管理者または保守員に連絡してください。



警 告

万一、発煙・異臭などがあった場合は、装置への給電を遮断し、本体背面のDC入力コネクタから電源ケーブルを抜いてご購入先または保守員に連絡してください。故障状態のままお使いになると火災や感電の原因となります。

9. 1 ラブル一覧

装置に発生するラブルを以下に示します。該当する項目を以下より参照し、原因調査および対処を行ってください。

9. 1. 1 OS起動前のラブル

デスクトップ画面が表示される前（OS起動前）までのラブルを以下に示します。フロントパネルのランプの名称に関しては、「1. 4 各部の名称と役割」を参照してください。

（1）装置が起動しない

電源ケーブルのプラグをコンセントに入れた後の動作を①～⑦の順番で確認し、該当する項目がありましたらその項目のページを参照してください（先に該当した項目を参照してください）。

- | | |
|---|--------------|
| ① ファンが回転せず本体のステータスランプが点灯しない | (→ 9-3ページ参照) |
| ② 電源スイッチを押すと、ファンが回転しステータスランプが点灯するが状態識別LEDおよび状態表示デジタルLEDに何も表示しない | (→ 9-3ページ参照) |
| ③ 状態表示デジタルLEDに英数字が表示し停止している | (→ 9-3ページ参照) |
| ④ 画面に何も表示されない | (→ 9-4ページ参照) |
| ⑤ 画面にエラーメッセージが表示し停止している | (→ 9-4ページ参照) |
| ⑥ Windows®のロゴで停止している | (→ 9-5ページ参照) |
| ⑦ ブルースクリーンが表示し停止している | (→ 9-5ページ参照) |

（2）ビープ音が鳴る

（3）BIOSのセットアップメニューが開けない (→ 9-6ページ参照)

（4）RAS外部接点によるリモートパワーオンができない (→ 9-6ページ参照)

（5）WOLが使用できない (→ 9-6ページ参照)

9. 1. 2 OS起動後のトラブル

Windows®のロゴが表示し、デスクトップ画面が表示した後（OS起動後）のトラブルを以下に示します。

- (1) アラームランプが点灯し、状態表示デジタルLEDに英数字が表示している
または 状態表示デジタルLEDが英数字を表示している (→ 9-7ページ参照)
- (2) 装置の処理が遅い (→ 9-9ページ参照)
- (3) 装置が応答しない (→ 9-9ページ参照)
- (4) 装置が自動的にスタンバイ状態になっている、再起動する (→ 9-10ページ参照)
- (5) 画面がちらつく、何も表示しない、正しく表示しない (→ 9-11ページ参照)
- (6) 画面の解像度の設定で、接続していないディスプレイが表示する (→ 9-11ページ参照)
- (7) 画面表示が点滅するまたはブラックアウトした後に再表示する場合がある
(→ 9-12ページ参照)
- (8) ブルースクリーンが表示する／した (→ 9-12ページ参照)
- (9) ネットワークに接続できない (→ 9-13ページ参照)
- (10) ネットワークの接続がよく切れる、通信速度が遅い (→ 9-13ページ参照)
- (11) キーボードの入力を受け付けない (→ 9-15ページ参照)
- (12) マウス操作を受け付けない、カーソル・ボタンが正常に動作しない (→ 9-16ページ参照)
- (13) USB機器（キーボード、マウス以外）が認識しない、動作しない (→ 9-16ページ参照)
- (14) 音が出ない、音が極端に小さい (→ 9-17ページ参照)
- (15) シリアルポートが正常に動作しない (→ 9-17ページ参照)
- (16) RAS外部接点ポートが正常に動作しない (→ 9-17ページ参照)
- (17) シャットダウンできない (→ 9-18ページ参照)

9. 2 原因と対処方法

9. 2. 1 OS起動前のトラブル

(1) 装置が起動しない

- ① ファンが回転せず本体のステータスランプが点灯しない

<推定原因>

装置に電源が供給されていないことが考えられます。

<対処>

- ① 本体にDC入力コネクタが正しく接続されていることを確認してください。
- ② 本体からDC入力コネクタを抜いてください。
- ③ 電源装置またはACアダプタ(オプション)のDC出力電圧が正常であることを確認してください。
- ④ 分電盤のブレーカがONになっていることを確認してください。
- ⑤ ①～④を実施し、本体にDC入力コネクタを接続してください。

⇒装置が起動するとファンが回転し本体のステータスランプが点灯します。

- ② 電源スイッチを押すと、ファンが回転しステータスランプが点灯するが状態識別LEDおよび状態表示デジタルLEDに何も表示しない

<推定原因>

装置の故障が考えられます。

<対処>

- ① システム管理者または保守員に連絡してください。

- ③ 状態表示デジタルLEDに英数字が表示し停止している

<推定原因>

POST動作中の異常検知が考えられます。

<対処>

- ① 「9. 6. 1 POST表示」を参照し、対処してください。

⇒正常に動作した場合は、状態表示デジタルLEDの英数字の表示が消え、OSが起動します。

④ 画面に何も表示されない

<推定原因>

ディスプレイに異常があることが考えられます。

<対処>

- ① ディスプレイの電源スイッチがONになっていることを確認してください。
- ② ディスプレイの電源ケーブルのプラグがコンセントへ接続していることを確認してください。
- ③ ディスプレイインターフェースケーブルによって、装置とディスプレイが接続していることを確認してください。
- ④ ディスプレイの各種設定を見直してください。ディスプレイの設定はディスプレイに添付の説明書を参照してください。

⑤ 画面にエラーメッセージが表示され停止している

<推定原因>

電池切れ、SSDの未実装、OSの破損が考えられます。

<対処>

- ① 下記のエラーメッセージが表示された場合、各対処を行ってください。
 - “Error : Remove Battery or Clear CMOS, Load default value”
⇒起動時に毎回出る場合、電池が切れています。システム管理者または保守員に連絡してください。
 - “Operating System not found”
⇒SSD、OSに異常があることが考えられます。以下を確認してください。
 - i) USB CD、USB FD、USBブートデバイスが装置に接続していないか確認してください。
⇒USB CD、USB FD、USBブートデバイスが接続している場合は、取り外してください。
 - ii) ドライブベイ1にSSDがしっかりと挿入し、ねじで固定していることを確認してください。
⇒正常な場合は、BIOS画面でSSDが認識されていることを確認できます。
(「5. 6 BIOSセットアップ」参照)
 - iii) リカバリDVDをお持ちの場合は、リカバリDVDを使用して出荷時の状態に復元してください。

⑥ Windows®のロゴで停止している

<推定原因>

ハードウェアの異常、OSの破損が考えられます。

<対処>

- ① 電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いて、キーボード、マウス以外のUSB機器を取り外してください。その後、再度電源ケーブルのプラグをコンセントに入れて装置を起動してください
- ② ①を実施しても改善されない場合、OSが破損していることが考えられます。リカバリDVDをお持ちの場合は、リカバリDVDを使用して出荷時の状態に復元し、バックアップデータを使用して復旧してください。

【留意事項】

- ・OSが正常に起動しなくなる可能性がありますので、OS起動途中でのUSB機器の接続は行わないでください。
- ・CPU切替器によっては、OS起動中に画面切替を行うとOSが正常に起動しなくなる可能性があります。CPU切替器を使用する場合は、十分な動作検証を実施してください。

⑦ ブルースクリーンが表示され停止している

<推定原因>

リモートシャットダウン信号の入力が考えられます。

<対処>

- ① 「8. 3 重度障害発生時立ち上げ抑止機能」および「9. 3 Bug Check要因」を参照し、対処してください。

(2) ビープ音が鳴る

a) ビープ音が1回鳴る

<推定原因>

電源投入時の音です。異常はありません。

b) ビープ音が2回以上鳴る

<推定原因>

ハードウェアの異常検知が考えられます。

<対処>

- ① 状態表示デジタルLEDの表示を確認し、「9. 6. 1 POST表示」を参照して対処してください。

(3) BIOSのセットアップメニューが開けない**<推定原因>**

キーボードの入力が受け付けられていないことが考えられます。

<対処>

- ① キーボードのケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
- ② キーボードのケーブルを他のポートに接続してください。

(4) RAS外部接点によるリモートパワーオンができない**<推定原因>**

リモートパワーオン機能が有効になっていないことが考えられます。

<対処>

- ① 「6. 6 リモートパワーオン機能を有効にする場合」を参照し、リモートパワーオン機能を有効にしてください。

(5) WOLが使用できない**<推定原因>**

WOL機能が有効になっていないことが考えられます。

<対処>

- ① どのOSを使用しているか確認してください。OSの仕様によりWOL機能を使用できない場合があります。
- ② 「2. 6. 1 WOL (Wake ON LAN) 機能の有効化」を参照し、WOL機能を有効にしてください。

9. 2. 2 OS起動後のトラブル

(1) アラームランプが点灯し、状態表示デジタルLEDに英数字が表示されている

または 状態表示デジタルLEDに英数字が表示されている

<推定原因>

RASソフトウェアによるハードウェア異常通知またはユーザーAPPLICATIONが表示させたことが考えられます。

<対処>

① 状態識別LEDが赤点灯の場合、RASソフトウェアがハードウェア異常を通知しています。状態表示デジタルLEDの表示を確認してください。

● 状態表示デジタルLEDがE1、12、E2、13の場合

⇒ファンの回転異常です（E1、12はシステムファン、E2、13はCPUファンの異常です）。

以下を実施してください。

i) ファンに異物が付着していないか確認してください。

⇒異物が付着している場合、装置内の冷却効率が低下しますので、異物を取り除いてください。

ii) ファンの電源ケーブルが給電コネクタに接続されていることを確認してください。

⇒接触不良の可能性がありますので、ファンの電源ケーブルを給電コネクタから一度外し、再度接続してください。

● 状態表示デジタルLEDが21の場合

⇒温度異常です。以下を実施してください。

i) 装置正面部の防じんフィルタまたは装置背面排気部に目詰まりがないか確認します。

⇒目詰まりがあった場合、防じんフィルタ、吸排気孔の清掃を行ってください。また、必要な場合は防じんフィルタを交換してください。

ii) 装置の設置スペースが確保しているか確認します（「1. 5. 2 設置条件」参照）。

⇒確保していない場合、設置スペースを確保してください。

iii) 設置環境（周囲温度）が40°C以上ないか確認します。

⇒障害物の除去または空調での温度調節により周辺温度を40°C以下にしてください。

● 状態表示デジタルLEDが31、32の場合

⇒ドライブの障害予測です（31はドライブベイ1、32はドライブベイ2のドライブです）。

データのバックアップおよびドライブの交換を推奨します。

(2) 装置の処理が遅い**<推定原因>**

メモリの容量不足またはSSDの容量不足が考えられます。

<対処>

- ① 不要なアプリケーションを終了し、メモリの空き容量を増やしてください。
⇒CPUやメモリの使用状況を確認する場合は、「9. 5 パフォーマンスマニターによるシステム負荷の確認」を参照してください。
- ② 不要なファイルを削除し、SSDの空き容量を増やしてください。

(3) 装置が応答しない**<推定原因>**

ハードウェアまたはソフトウェアの異常が考えられます。

<対処>

- ① アプリケーションの停止により画面がロックしたように見える場合があります。Alt + Tabキー、またはCtrl + Alt + Deleteキーを押して装置が応答する場合、下記を実施してください。
 - i) Alt + Tabキーを押してアプリケーションを切り替え、停止しているアプリケーションを特定してください。
 - ii) 原因となるアプリケーションが特定できたらタスクマネージャーで対象のアプリケーションを終了してください。タスクマネージャーはCtrl + Alt + Deleteキーを押して「Windowsのセキュリティ」画面を表示して「タスクマネージャー」ボタンをクリックすることで起動します。
 - iii) 装置を再起動してください。
- ② NMIスイッチを押しメモリダンプを取得してください。メモリダンプの解析（有償）をご希望の場合は、再起動後にログを保存（「8. 4 保守操作コマンド」を参照）し、弊社担当営業に連絡してください。自動で再起動しない場合は、下記の<強制終了の方法>を参照し、装置の電源を遮断してください。
- ③ ②を実施してもメモリダンプが取得できなかった場合は、下記の<強制終了の方法>を参照し、装置の電源を遮断してください。
- ④ ①～③を実施しても改善されない場合、電源が遮断した状態で、キーボード、マウス以外のUSB機器を取り外し、装置を起動してください。

【強制終了の方法】

上記の方法でもシャットダウンできない場合は、電源スイッチを4秒以上押してください。電源が切れ、スタンバイ状態になります。

(4) 装置が自動的にスタンバイ状態になっている、再起動する

- a) 状態表示デジタルLEDに英数字が表示されたまま装置がスタンバイ状態になっている

<推定原因>

RASソフトウェアによる異常通知、またはユーザーアプリケーションが表示させたことが考えられます。

<対処>

- ① 状態識別デジタルLEDの表示を確認してください。

● 状態識別LEDが赤点灯の場合、RASソフトウェアが異常を検知しています。

「9. 6. 1 POST表示」を参照し、対処してください。

● 状態識別LEDが緑点灯の場合、ユーザーアプリケーションがLEDを表示させています。システム管理者または保守員に連絡してください。

- b) イベントログに警告／エラーメッセージが記録されている

<推定原因>

ハードウェアまたはソフトウェアの異常が考えられます。

<対処>

- ① イベントログの“システム”または“アプリケーション”カテゴリからメッセージの内容を確認し対処してください（「9. 4 イベントログ」参照）。

- ② メッセージの出力元が購入品からの場合、購入元へお問い合わせください。

- c) a、b ではない場合

<推定原因>

ケーブルの接続不良、電源供給が不安定であることが考えられます。

<対処>

- ① 電源ケーブルのプラグがコンセントにしっかりと接続されているか確認してください。

- ② ①を実施しても改善しない場合、電源供給が不安定であることが考えられます。供給電圧が適正かどうか確認してください。

(5) 画面がちらつく、何も表示しない、正しく表示しない

<推定原因>

ディスプレイの異常、ビデオボードの異常が考えられます。

<対処>

- ① ディスプレイの電源ケーブルのプラグがコンセントへ接続していることを確認してください。
- ② ディスプレイインターフェースケーブルによって、装置とディスプレイがしっかりと接続していることを確認してください（ケーブルの接触不良でないかを確認してください）。
- ③ ディスプレイインターフェースケーブルを別のケーブルに交換してください（ケーブルが断線していないかを確認してください）。
- ④ ディスプレイの各種設定を見直してください。ディスプレイの調整はディスプレイに添付している説明書を参照してください。
- ⑤ DisplayPortのMST（Multi Stream Transport）対応のディスプレイをご使用の場合は、以下を実施してください（設定方法はディスプレイに添付されている説明書を参照してください）。
 - i) DisplayPort1.1、DisplayPort1.2を変更できる場合はDisplayPort1.2を選択してください。
 - ii) MSTの設定を変更できる場合は、“Primary”に設定してください。

【留意事項】

MSTを有効に設定した場合は、デスクトップ画面の右クリックで“Display Portトポロジー”の項目が表示されます。

(6) 画面の解像度の設定で、接続していないディスプレイが表示される

<推定原因>

OSの仕様により未接続のディスプレイが表示していることが考えられます。

<対処>

- ① デスクトップ画面で右クリックし、表示するメニューから【画面の解像度】をクリックしてください。
- ② 画面の解像度の設定画面にて、接続していないディスプレイを選択してください。
- ③ 【複数のディスプレイ】にて、【このディスプレイを削除する】を選択してください。
上記の設定変更が反映されていなければ、【適用】をクリックして接続していないディスプレイを削除してください。
- ④ 接続していないディスプレイが複数ある場合は、上記②③を繰り返し実施してください。

(7) 画面表示が点滅するまたはブラックアウトした後に再表示する場合がある

<推定原因>

システムへの負荷が高いことなどが原因でグラフィックスドライバの応答に時間が掛かった場合、Windows®がグラフィックス機能を正常に回復させる処理をしていることが考えられます。

<対処>

- ① 現象が発生したときに「ディスプレイドライバの応答停止と回復」というバルーン表示がされた、またはイベントログにイベント「ID4101」の警告ログが記録されていた場合、システムへの負荷を軽減し、このような表示や記録がされない負荷でご使用ください。

(8) ブルースクリーンが表示する／した

<推定原因>

OSまたは装置の異常が考えられます。

<対処>

- ① ブルースクリーン画面が表示している場合は、要因コード（0x00000080など）または識別名（NMI_HARDWARE_FAILUREなど）を記録してください。
- ② 要因コードを確認できなかった場合は、イベントログの“システム”カテゴリを参照し、要因コードを確認してください。
- ③ 「9. 3 Bug Check要因」の内容を確認し、メモリダンプ収集要因を判別してください。
- ④ メモリダンプの解析（有償）が必要な場合は、再起動後ログを保存（「8. 4 保守操作コマンド」を参照）し、弊社担当営業に連絡してください。

(9) ネットワークに接続できない**<推定原因>**

LAN、ネットワーク機器（ハブなど）の設定、ケーブルの接続不良が考えられます。

<対処>

- ① 「2. 7 LANインターフェースの設定方法」を参照し、ネットワークの設定を見直してください。
- ② LANケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
- ③ LANケーブルの接続ポートに誤りがないかを確認してください。
- ④ LANケーブルを他のLANケーブルに交換してください。
- ⑤ ネットワーク機器をご使用の場合
 - i) ネットワーク機器の電源がONになっていることを確認してください。
 - ii) ネットワーク機器の電源を入れたあとに、装置の電源を入れてください。
 - iii) 別のネットワーク機器に取り替えて動作を確認してください。

(10) ネットワークの接続がよく切れる、通信速度が遅い**<推定原因>**

LAN、ネットワーク機器の設定、ケーブルの接続不良が考えられます。

<対処>

- ① 「2. 7 LANインターフェースの設定方法」を参照し、ネットワークの設定を見直してください。
- ② LANケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
- ③ LANケーブルの接続ポートに誤りがないかを確認してください。
- ④ LANケーブルを他のLANケーブルに交換してください。
- ⑤ ネットワーク機器をご使用の場合
 - i) ネットワーク機器の電源を入れたあとに、装置の電源を入れてください。
 - ii) 別のネットワーク機器に取り替えて動作を確認してください。

(11) キーボードの入力を受け付けない**<推定原因>**

アプリケーションの停止、ケーブルの接続不良、キーボードの故障が考えられます。

<対処>

- ① アプリケーションの停止が原因で一時的にキーボードの入力を受け付けない場合があります。
Alt + TabキーまたはAlt + Ctrl + Deleteキーを押して装置が応答する場合、下記を実施してください。
 - i) Alt + Tabキーを押してアプリケーションを切り換え、停止しているアプリケーションを特定してください。
 - ii) 原因となるアプリケーションが特定できたらタスクマネージャーで対象のアプリケーションを終了してください。タスクマネージャーはAlt + Ctrl + Deleteキーを押して「Windowsのセキュリティ」画面を表示して「タスクマネージャー」ボタンをクリックすることで起動します。
 - iii) 装置を再起動してください。
- ② キーボードインターフェースケーブルを取り外し、しっかりと接続するよう取り付け直してください。
- ③ キーボードインターフェースケーブルを他のポートに接続してください。
- ④ 別のキーボードに取り替えて動作を確認してください。
- ⑤ 装置を再起動してください。

(12) マウス操作を受け付けない、カーソル・ボタンが正常に動作しない**<推定原因>**

マウスに付着しているごみ、汚れによる動作不良、ケーブルの接続不良、マウスの故障が考えられます。

<対処>

- ① 光学式マウスの場合
 - i) オプティカルセンサー部分にごみが付いていないか、汚れていないかを確認し、ごみ、汚れがあった場合は掃除してください。
 - ii) ガラスや鏡、光沢のあるものの上では使用しないでください（光学式マウス用マウスパッド上の使用を推奨します）。
- ② オプション品以外のマウスをご使用の場合、マウスに添付されている取扱説明書を参照してください。
- ③ マウスインターフェースケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
- ④ 別のマウスに取り替えて動作を確認してください。
- ⑤ CPU/USB切替器をご使用の場合、切替器に添付されている取扱説明書を参照してください。エミュレーション機能などの設定を変更すると、改善する場合があります。
- ⑥ シリアルポートにデータを受信しながらOSを起動している場合は、OS起動後にシリアルポートを使用し、動作が改善されるかどうかを確認してください。

(13) USB機器（キーボード、マウス以外）が認識されない、動作しない**<推定原因>**

ケーブルの接続不良、USB機器のデバイスドライバがインストールされていないことが考えられます。

<対処>

- ① USB機器のケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
- ② USB機器のケーブルを他のケーブルに交換してください。
- ③ デバイスドライバを必要とするUSB機器をご使用の場合、USB機器に添付されている取扱説明書に従いデバイスドライバをインストールし、再起動してください。
- ④ 外部からの電源供給を必要とするUSB機器をご使用の場合、USB機器の電源ケーブルのプラグがコンセントに接続していることを確認してください。
- ⑤ バスパワーのUSB機器をご使用の場合、USB機器の消費電流が装置のUSBポートの最大電流規定を超えていないか確認してください（「5. 1 (6) 最大電流規定」参照）。外部給電可能なUSB機器の場合は外部電源に接続してください。
- ⑥ ①～⑤を実施しても改善しない場合、USB機器の故障が考えられます。USB機器に添付されている取扱説明書を参照し、対処してください。

(14) 音が出ない、音が極端に小さい

<推定原因>

装置およびスピーカーの設定不良、ケーブルの接続不良、スピーカーの故障が考えられます。

<対処>

- ① 装置のボリュームを適正な大きさに設定してください（<ボリュームの設定方法>参照）。
- ② スピーカーをご使用の場合
 - i) スピーカーがアンプ付きスピーカーであることを確認してください。
アンプが付いていない場合、音がでません。
 - ii) スピーカーの電源ケーブルのプラグがコンセントに接続していることを確認してください。
 - iii) スピーカーの電源をONにしてください。
 - iv) スピーカーのボリュームが適正な大きさに設定されていることを確認してください。
 - v) スピーカーのケーブルを装置のLINE OUTに接続していることを確認してください。
 - vi) オーディオ機器の音声を録音する場合、ケーブルをオーディオ機器側のLINE OUTと装置側のLINE INに接続してください（LINE INはMIC入力としては使えません）。
 - vii) スピーカーのケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
 - viii) 別のスピーカーに取り替えてください。

【ボリュームの設定方法】

- ① コントロールパネルを開き、[ハードウェアとサウンド] をクリックします。
- ② [システム音量の調整] をクリックし、音量を調整してください。

(15) シリアルポートが正常に動作しない

<推定原因>

ケーブルの接続不良、接続先のデバイスの故障が考えられます。

<対処>

- ① ケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
- ② 接続先のデバイスが故障していないか確認してください。
- ③ シリアルポートにデータを受信しながらOSを起動している場合は、OS起動後にシリアルポートを使用し、動作が改善されるかどうかを確認してください。

(16) RAS外部接点ポートが正常に動作しない

<推定原因>

ケーブルの接続不良、接続先とのインターフェース不良が考えられます。

<対処>

- ② ケーブルを取り外し、しっかりと接続するように取り付け直してください。
- ② 「5. 8. 2 外部接点仕様」を参照し、外部接点仕様を確認してください。

(17) シャットダウンできない

- a) ドライブアクセスランプが点灯、点滅している

<推定原因>

シャットダウン処理に時間がかかっていることが考えられます。

<対処>

- ① シャットダウン処理が終了するまで待機してください。

b) a ではない場合

<推定原因>

OSがロックしていることが考えられます。

<対処>

- ① NMIスイッチを押しメモリダンプを取得してください。メモリダンプの解析（有償）をご希望の場合は、再起動後ログを保存（「8. 4 保守操作コマンド」を参照）し、弊社担当営業に連絡してください。自動で再起動しない場合は、下記の<強制終了の方法>を参照し、装置の電源を遮断してください。
- ② ①を実施してもメモリダンプが取得できなかった場合は、下記の<強制終了の方法>を参照し、装置の電源を遮断してください。
- ③ ①を実施しても改善されない場合、電源が遮断された状態で、キーボード、マウス以外のUSB機器を取り外し、装置を起動してください。

【強制終了の方法】

上記の方法でもシャットダウンできない場合は、電源スイッチを4秒以上押してください。電源が切れ、スタンバイ状態になります。

9. 3 Bug Check要因

Bug Check要因は、Bug Check（ブルースクリーン）が発生した時の発生要因です。

この値はブルースクリーン発生時にメモリダンプファイルの中に埋め込まれ、画面には識別名(NMI_HARDWARE_FAILURE またはWHEA_UNCORRECTABLE_ERROR) が表示されます。

また、装置に実装された状態表示デジタルLEDにBug Check（ブルースクリーン）発生の要因に対応したコードが表示されます。

Bug Checkの要因は複数存在しますが、イベントログ（イベントID：800、ソース：HFWRAS_SYS）から詳細情報を確認できます。

表 9-1 Bug Check（ブルースクリーン）要因コード一覧

No.	コード	要因	対処
1	Fb	NMIスイッチによるNMI発生	イベントログに要因が記録されます。「表 9-2 Bug Check（ブルースクリーン）の対処一覧」を参照して対処してください。
2	F8またはF9	PCI、LPCバスなどでパリティエラーによるNMI発生	イベントログに記録されていなかった場合はシステム管理者または保守員にお問い合わせください。
3	FA	訂正不可能なメモリエラー発生	イベントログに記録されていなかった場合はシステム管理者または保守員にお問い合わせください。
4	80	<ul style="list-style-type: none"> • Windows®起動時にリモートシャットダウン入力検出 • 上記以外 	リモートシャットダウンが行われた要因について、システム管理者または保守員にお問い合わせください。

表9-2 Bug Check (ブルースクリーン) の対処一覧

イベントログ(イベントID:800、ソース:HFWRAS_SYS)に記録される内容	要因	対処
リセット信号が入力されました。 詳細コードは0x9201です。	CPUロックからの強制回復	メッセージが表示される前にNMIスイッチを押していないか確認してください。
DIMM 2で訂正不可能なエラーが発生しました。 詳細コードは0x9217です。	訂正不可能なメモリエラー発生	メインメモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられてもエラーが発生する場合は、メインメモリの故障が考えられます。システム管理者または保守員に連絡してください。
DIMM 1で訂正不可能なエラーが発生しました。 詳細コードは0x9218です。		

9. 4 イベントログ

環境情報が変化したときまたはリモートシャットダウン要求が発生したときなどの重要なイベントが発生した場合、この装置はWindows®のイベントログ機能を利用してログを収集します。

イベントログの参照方法は以下のとおりです。

- ① コントロールパネルを開き、「システムとセキュリティ」 - 「イベントログの表示」をクリックします。
- ② 「イベントビューアー」画面が表示されますので、「Windowsログ」を選択し、「システム」または「アプリケーション」とクリックするとそれぞれのログを参照することができます。

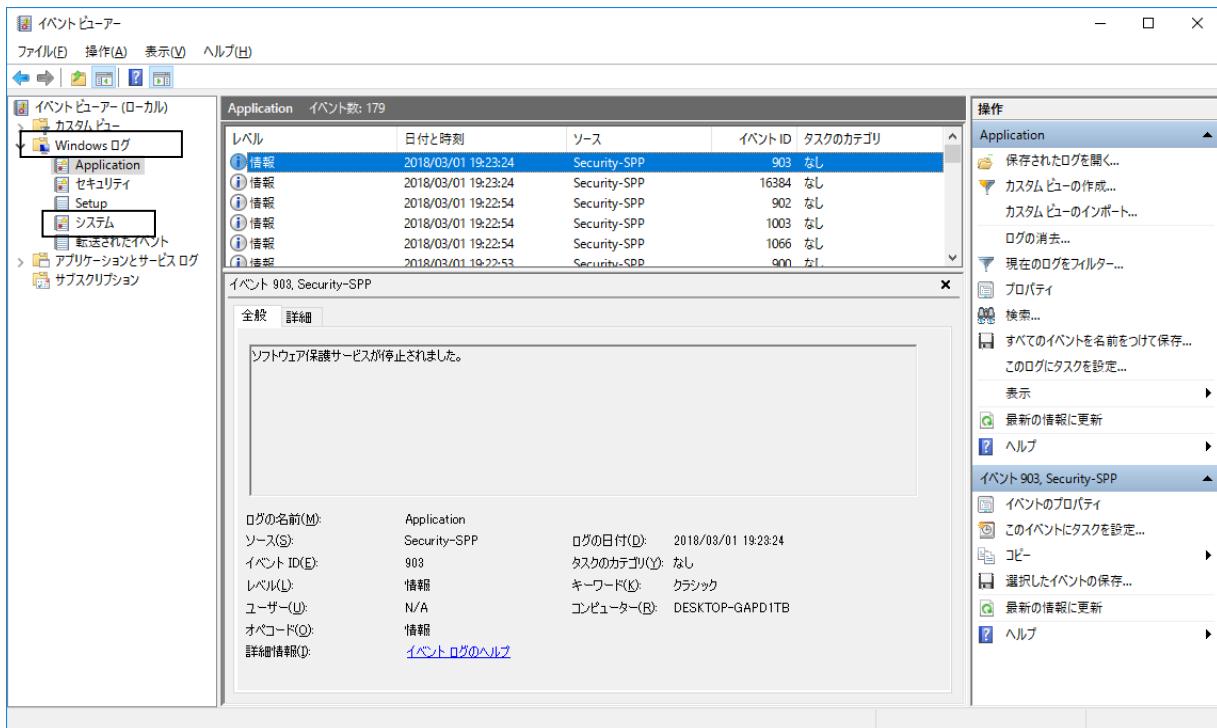


表9-3に、装置固有のイベントログ一覧を示します。No.1～No.15、No.18～No.31はシステムログに収集し、No.16、17はアプリケーションログに収集します。

表9-3 この装置固有のイベントログ一覧 (1/2)

No.	イベントID	ソース	種類	説明	対処方法
1	259	HFWRAS_SYS	警告	温度が既定値を超過しました。	「9. 2. 2 (1)」の温度異常の項目を参照し対処してください。
2	260	HFWRAS_SYS	情報	リモートシャットダウン要求が発生しました。	対処不要です。
3	263	HFWRAS_SYS	情報	温度が既定値に戻りました。	対処不要です。
4	265	HFWRAS_SYS	警告	近い将来、ドライブベイ%1のドライブ (%2) がハードウェア障害を起こす可能性があります。	データのバックアップおよびドライブの交換を推奨します。
5	266	HFWRAS_SYS	エラー	CPUファンの回転数が著しく低下しました。	「9. 2. 2 (1)」のファン異常の項目を参照し対処してください。
6	267	HFWRAS_SYS	情報	CPUファンの回転数が正常値に戻りました。	対処不要です。
7	268	HFWRAS_SYS	エラー	温度が危険な状態になったため、シャットダウンしました。	「9. 2. 2 (1)」の温度異常の項目を参照し対処してください。
8	270	HFWRAS_SYS	情報	ドライブベイ%1のドライブの使用時間が既定値を超えました。	データのバックアップおよびドライブの交換を推奨します。
9	277	HFWRAS_SYS	エラー	システムファンの回転数が著しく低下しました。	「9. 2. 2 (1)」のファン異常の項目を参照し対処してください。
10	278	HFWRAS_SYS	情報	システムファンの回転数が正常値に戻りました。	対処不要です。
11	524	HFWRAS_SYS	情報	現在の設定では、メモリダンプが収集されません。	「8. 2. 1」を参照し対処してください。または「8. 2. 2」を参照し、手動で設定を変更してください。

表9-3 この装置固有のイベントログ一覧 (2/2)

No.	イベントID	ソース	種類	説明	対処方法
12	525	HFWRAS_SYS	情報	DIMM%1において、高い頻度でエラー訂正が発生しています。	DIMMが故障している可能性があります。システム管理者または保守員に連絡してください。
13	539	HFWRAS_SYS	エラー	%1 モニターを終了しました。	RASソフトウェアのハードウェア監視が停止しました。装置を再起動してもエラーが発生する場合はシステム管理者または保守員に連絡してください。
14	540	HFWRAS_SYS	情報	DIMM %1において、OSが起動してからシングルビットエラーを検出した回数は%2(前回比:%3)回です。	対処不要です。
15	541	HFWRAS_SYS	警告	DIMM %1が故障している可能性があります。	DIMMが故障している可能性があります。システム管理者または保守員に連絡してください。
16	769	HFWRAS_APP	エラー	%1関数においてエラーが発生しました。エラーコード=%2.	RASソフトウェアの動作中にエラーが発生しました。装置を再起動してもエラーが発生する場合はシステム管理者または保守員に連絡してください。
17	771	HFWRAS_APP	エラー	レジストリ値“%1”に不正な値が設定されていますので、デフォルト値%2を設定します。	装置を再起動してもエラーが発生する場合はシステム管理者または保守員に連絡してください。
18	800	HFWRAS_SYS	情報	%1 詳細コードは%2です。	Bug Check要因が発生しました。内容を確認し、システム管理者または保守員に連絡してください。
19	900	HFWRAS_SYS	情報	電源遮断要因コードは%1です。	電源遮断が発生しました。システム管理者または保守員に連絡してください。

No.4 : %1 はドライブベイ No.を示します。%2 はドライブのメーカ名、モデル名を示します。

No.8 : %1 はドライブベイ No.を示します。

No.11 : %1 には記録要因をメッセージ形式で格納します。以下のいずれかを記録します。

%1
"デバッグ情報の書き込み"が"完全メモリダンプ"ではありません
"既存のファイルに上書きする"が無効です
ページングファイルサイズが不十分です
メモリダンプファイルが存在しないかメモリダンプファイルのサイズが不十分です

No.12 : %1はDIMMのスロットNo.を示します。

No.13 : %1 には以下のいずれかを記録します。

FAN、TEMP、RMTSTDN、MEM、CPU、TEMPLOG、WDT、SMART、USETIME、RASLOG、INTERNAL – LOGD

No.14 : %1はDIMMのスロットNo.を示します。%2は累積シングルビットエラー検出回数を示します。

%3は前回記録時の累積シングルビットエラー検出回数との差を示します。

No.15 : %1はDIMMのスロットNo.を示します。

No.16 : %1はエラー終了した関数名を示します。%2はそのエラーコードを示します。

No.17 : %1は不正な値が設定されているレジストリ値を示します。%2はそのデフォルト値を示します。

No.18 : %1と%2には以下のいずれかの組み合わせを記録します。

%1	%2
リセット信号が入力されました。	0x9201
PCIパリティエラーが発生しました。	0x9202
DIMM 2で訂正不可能なエラーが発生しました。	0x9217
DIMM 1で訂正不可能なエラーが発生しました。	0x9218

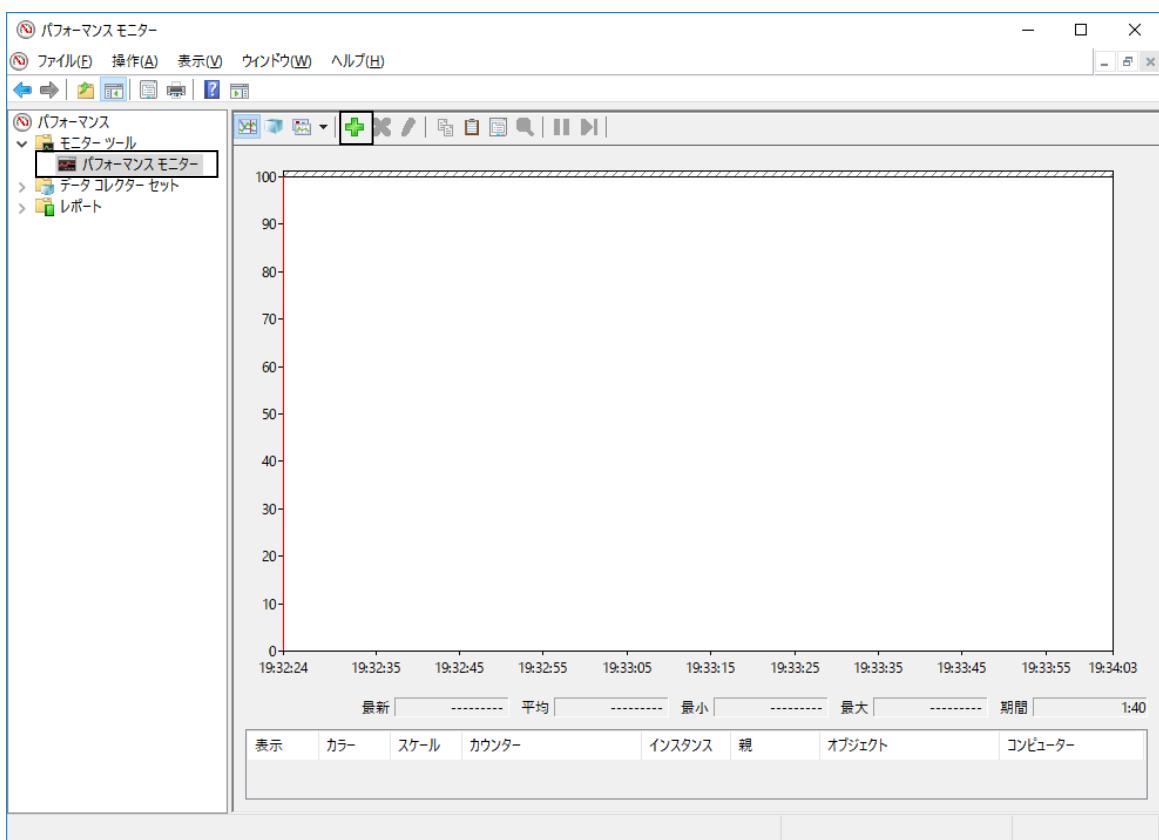
No.19 : %1は電源遮断要因コードを示します。

9. 5 パフォーマンスマニターによるシステム負荷の確認

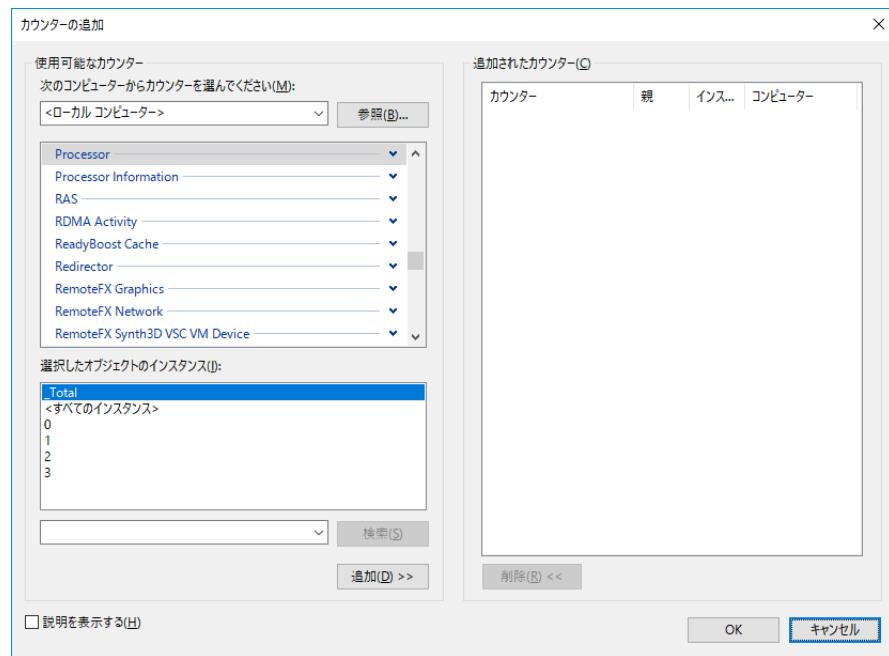
Windows®には、CPUやメモリの使用状況を確認するためのパフォーマンスマニターが搭載されています。システムの負荷分析などの参考として使用してください。

パフォーマンスマニターの参照方法は下記のとおりです。

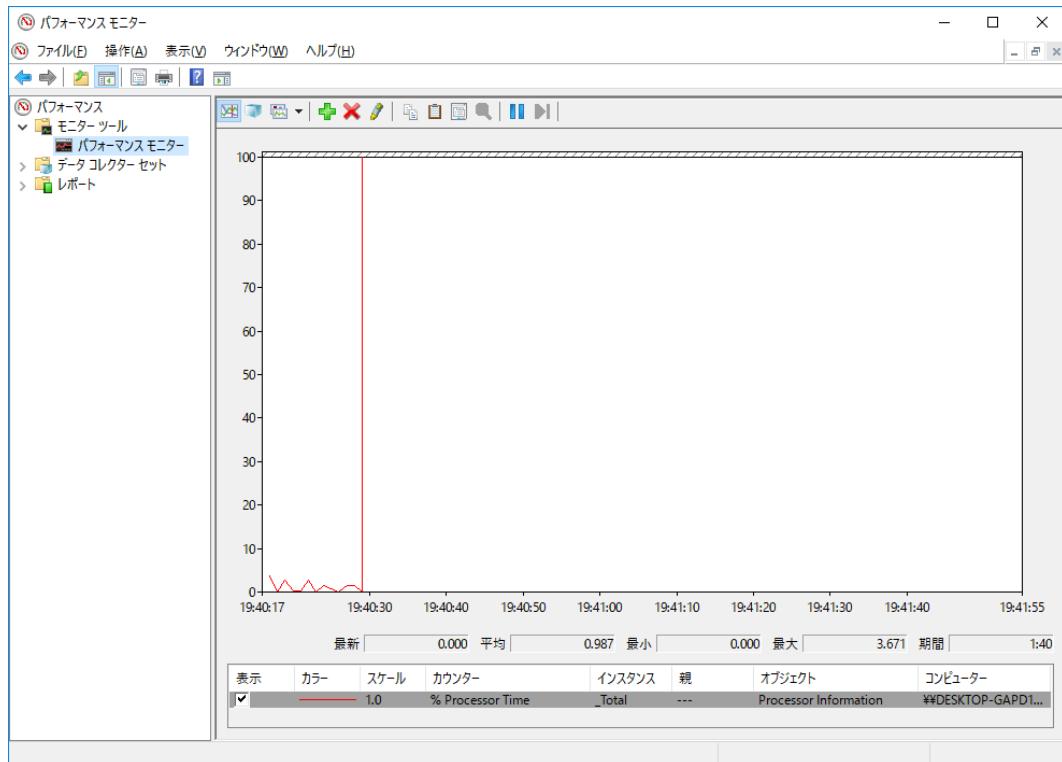
- ① [スタート] – [コントロールパネル] – [システムとセキュリティ] – [管理ツール] をクリックします。
- ② [パフォーマンスマニター] をダブルクリックします。
- ③ [パフォーマンスマニター] 画面が表示されますので、[パフォーマンスマニター] をクリックし、ボタンをクリックしてください。



- ④ [カウンターの追加] 画面が表示されますので、Processor、Memory、PhysicalDisk、Network Interfaceなどパフォーマンスを確認したい項目を選択し、[追加] ボタンをクリックし [OK] ボタンをクリックします。



- ⑤ 選択した項目のパフォーマンスが [パフォーマンスマニター] 画面で確認できます。



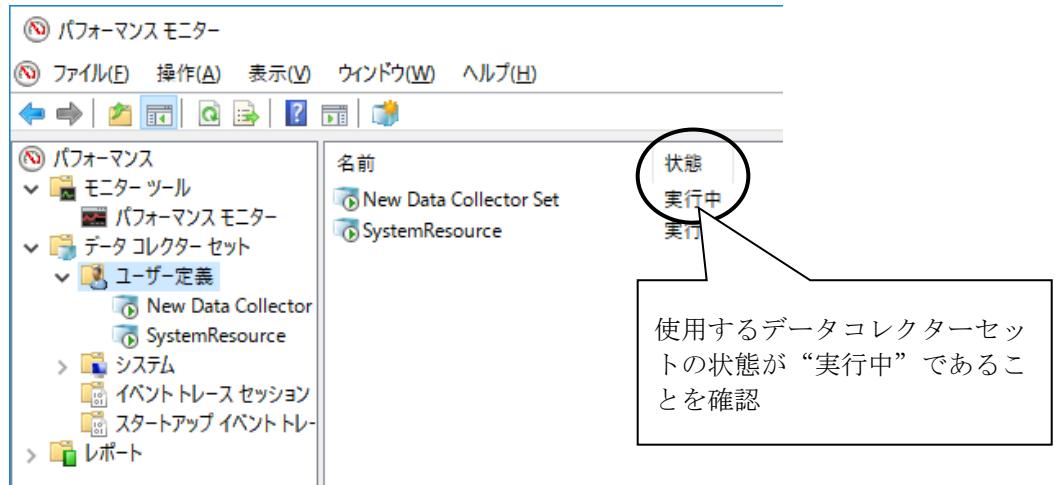
以下に、主に性能に関わるパフォーマンスカウンターを示します。

表 9-4 性能に関わるパフォーマンスカウンター一覧

No.	パフォーマンス オブジェクト	カウンター	意味
1	Processor	%Processor Time	CPUの使用率を表します。この値が連続的に高い場合は、CPU性能がボトルネックとなる可能性があります。
2	Memory	Pages/sec	ページフォールトを解決するためにストレージストレージとの間で読み書きされた1秒間あたりのページ数を表します。この値が大きい場合は、メモリ不足の可能性があります。0に近いほど適正なレベルです。
3		Available Bytes	プロセスが利用可能な物理メモリのサイズを表します。この値が減少傾向にある場合は、メモリリークの可能性があります。
4		Pool Nonpaged Bytes	ストレージにページアウトされず、割り当てられている限り物理メモリ内に存在するメモリ領域のサイズを表します。この値が増加傾向にある場合は、メモリリークの可能性があります。
5	PhysicalDisk	%Disk Time	ストレージが読み込みまたは書き込みでビジー状態であった時間の割合を表します。この値が連続的に高い場合は、ストレージ性能がボトルネックとなる可能性があります。
6	Network Interface	Bytes Total/sec	ネットワークアダプターで送受信されるデータの1秒間あたりのバイト数を表します。No.7と比較し、この値の割合が連続的に大きい場合は、ネットワークがボトルネックとなる可能性があります。
7		CurrentBandwidth	ネットワークの帯域幅を表します。

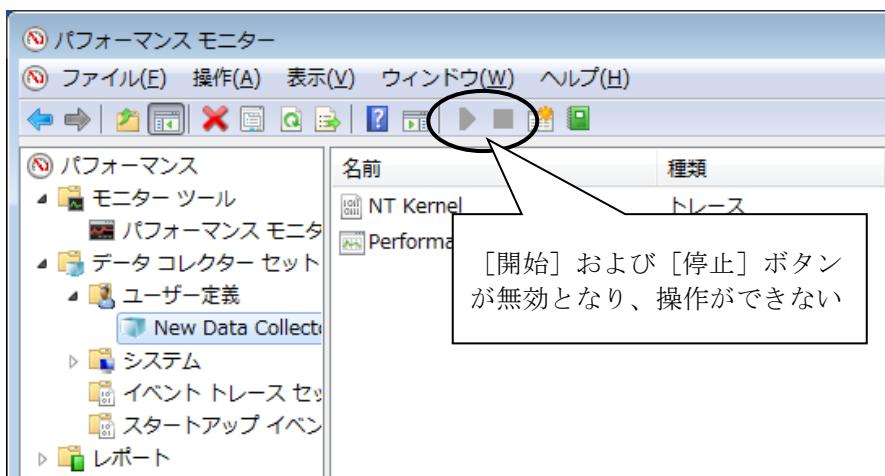
【留意事項】

システムが高負荷状態の場合において、パフォーマンスカウンターの収集を正しく開始できないことがあります。パフォーマンスカウンターの収集を開始したときには、使用するデータコレクターセットの状態が“実行中”であることを確認してください。



パフォーマンスカウンターの収集が正しく開始されていることを確認する

また、システムが高負荷状態の場合やパフォーマンスカウンターの収集の開始、停止操作を頻繁に繰り返した場合、パフォーマンスカウンターの収集の開始、停止操作を行えなくなることがあります。この場合は、一度パフォーマンスマニターを終了し、しばらく待ってから再度パフォーマンスマニターを起動して、操作を行ってください。



パフォーマンスカウンターの収集を操作できない

なお、再度パフォーマンスマニターを起動しても、パフォーマンスカウンターの収集が開始できない場合は、OSを再起動してください。

9. 6 状態表示デジタルLED

状態表示デジタルLEDは、システムの起動時（BIOS起動からOS起動までの間）にPOSTコードを表示します。また、システムの稼働中にハードウェア状態に異常が発生した場合、ハードウェアステータスコードを表示します。

状態表示デジタルLEDと状態識別LEDは、シャットダウン後、スタンバイ状態になっても点灯し続ける場合があります。この状態は主電源を遮断するかまたは再び電源を入れるまで保持されます。

なお、状態表示デジタルLEDは異常ではない場合にもコードを表示する場合があります。

（例：BIOSセットアップメニュー起動中の表示（1F）、電源投入からOS起動までのPOSTコード表示）
数値表示部は、以下のように0～Fまでの16進数で示されます。

9. 6. 1 POST表示

POSTとはPower On Self Testの略で、コンピュータシステムの電源を入れたときにシステムBIOSルーチンが、ハードウェアに異常がないかをチェックする機能です。もし異常があれば異常発生箇所に対応するPOSTコードを装置前面に実装している状態表示デジタルLED部に表示し、ディスプレイにメッセージを表示したりビープ音を何回か鳴らすことによりユーザーに異常を知らせます。

POSTコードは、状態識別LEDのBIOSステータス（橙）が点灯した状態で表示します。

システム起動中に停止したときのPOSTコードとその対処方法を示します。

表9－5 POSTコードと停止原因／対処方法（1/2）

POSTコード	停止要因	推定部位	対処方法
98	キーボード、マウスに問題がある可能性があります。	キーボード マウス マザーボード	①「9. 2. 2（11）～（13）」を参照してください。
1D～31 3F～4E 50～55	メインメモリに問題がある可能性があります。	メインメモリ マザーボード	① メインメモリの挿し直しを行い、正しく取り付けられていることを確認してください。 ② 現象が解消しない場合、システム管理者または保守員に連絡してください。

表9-5 POSTコードと停止原因／対処方法（2/2）

POST コード	停止要因	推定部位	対処方法
99	シリアルデバイスに問題がある可能性があります。	マザーボード	<p>① ケーブルの挿し直しを行い、正しく取り付けられていることを確認してください。</p> <p>② 別デバイスを接続してください。現象が解消した場合、シリアルデバイスの交換を推奨します。</p>
9A~9D	USBデバイスに問題がある可能性があります。	マザーボード	<p>① USBデバイスの挿し直しを行い、正しく接続されていることを確認してください。</p> <p>② USBデバイスを、別のUSBポートに接続してください。現象が解消した場合、システム管理者または保守員に連絡してください。</p> <p>③ ①～②の手順実施後、現象が解消しない場合、USBデバイスに問題があることが考えられます。</p>
56~5A	CPUが故障している可能性があります。	マザーボード	マザーボードを交換してください。
90	ブートデバイスに問題がある可能性があります。	SSD マザーボード	<p>① ブートデバイスの挿し直しを行い、正しく取り付けられていることを確認してください。</p> <p>② ブートデバイスを、別のUSBポートに接続してください。現象が解消した場合、システム管理者または保守員に連絡してください。</p> <p>③ ①～②の手順実施後、現象が解消しない場合、ブートデバイスに問題があることが考えられます。</p> <p>ブートデバイスが内蔵SSDの場合</p> <p>① SSDの挿し直しを行い、正しく取り付けられていることを確認してください。</p>
E1	システムファンの回転異常です。	システムファン	「9. 2. 2 (1)」のファン異常の項目を参照し対処してください。
E2	CPUファンの回転異常です。	CPUファン	「9. 2. 2 (1)」のファン異常の項目を参照し対処してください。

9. 6. 2 ハードウェアステータスコード表示

システムの稼働中にハードウェア状態に異常が発生した場合に表示します。

ハードウェアステータスコードは、状態識別LEDのRASステータス（赤）が点灯した状態で表示します。

表9-6 ハードウェアステータスコードと要因／対処方法

ステータスコード	要因	対処方法
12	システムファンの回転異常です。	「9. 2. 2 (1)」を参照し対処してください。
13	CPUファンの回転異常です。	「9. 2. 2 (1)」を参照し対処してください。
21	温度異常です。	「9. 2. 2 (1)」を参照し対処してください。
31	ドライブベイ1のドライブの障害予測です。	データのバックアップおよびドライブの交換を推奨します。
32	ドライブベイ2のドライブの障害予測です。	

【留意事項】

- 上記以外のコードが表示した場合は、システム管理者または保守員に連絡してください。

付録 有寿命部品の取り扱いについて

通 知

有寿命部品は推奨交換周期を超えて使用しないでください。部品劣化によって故障の原因となることがあります。

- ・部品は使用しているうちに劣化、磨耗します。次の部品は、一定周期で交換してください。

- ・これらの部品は、有償の交換となります。

- ・下記推奨交換周期は装置動作中の平均周囲温度が25°C以下の条件で規定しています。

平均周囲温度が25°Cを超える場合、交換周期が短くなることがありますので注意してください。

また、推奨交換時期はあくまで設計が想定する使用状態での目安です。ご使用になる周囲環境条件、使用条件（磁気ディスク装置の場合、アクセス頻度など）などによって交換周期が短くなることがあります。ご使用になる環境に合わせて定期的な点検と早めの交換を心がけてください。

有寿命部品名	推奨交換周期	備考
SSD	7年または期待寿命(※)の短い方	<p>※下記の計算式でTBW (Total Byte Written)から期待寿命[年]を算出し、期待寿命[年]に到達する前に交換が必要です。</p> $\text{期待寿命[年]} = \frac{200[\text{TBW}] \times 1000[\text{GB}]}{1\text{日あたりの書込み容量[GB]} \times 365[\text{日}]}$ <p>ファイルの内容に万一障害が生じた場合でも、速やかに回復できるように、日常業務の中でファイルのバックアップをお取りください。</p>
防じんフィルタ	1年	交換しない場合、故障／短寿命の原因となります。
キーボード (オプション)	4年	
マウス (オプション)	4年	
ACアダプタ (オプション)	2年	

【留意事項】

- ・故障時の修理などで部品の要求があった場合、機能的に互換性のある別部品への交換となる場合があります。
- ・部品の修理を弊社指定の方法以外で行った場合は、動作を保証できません。

【修理品返却先】		送付元 (お客様ご記入)	
<p>〒319-1293 茨城県日立市大みか町五丁目2番1号 (株)日立インダストリアルプロダクツ 日立物流 気付 HF-W返送修理窓口 宛 TEL. 0294-52-7496</p>		<p>貴社名 : 事業所名 : 御担当部署 : 御担当 : E-Mail : 御住所 : TEL : () - (内線 :)</p>	
【修理品に関するお問い合わせ】			
<p>返送品に関するお問い合わせは総合窓口で一旦お預かりし、適切な部門より連絡させていただきます。</p> <p>TEL : 045-762-3023 E-Mail : hfw.support.af@hitachi-systems.com</p>			
HF-W 修理依頼書 兼 御預かり書			
返送品 (お客様ご記入)	<p>□本体一式</p> <p>・本体型式 (MODEL) : ・本体製造番号 (MFG No) :</p> <p>(本体貼付けラベルに記載の各種本体情報は、内蔵部品のみの返送時も必ずご記入ください。未記入の場合、有償となる場合があります)</p>		
	<p>←□にチェックマーク(レ)をご記入ください。</p>		
不具合現象 (お客様ご記入)	<p>内容 (不具合状況を具体的にご記入ください。(添付資料でも可))</p> <p>★不具合現象の情報提供にご協力ください。□にチェックマーク(い)をご記入ください。</p>		
	<p>■発生日時 : (年 月 日 時 分) ■再現性 : □有 □無 □不明 ■発生頻度 □1回のみ □回 / (時間・日・週・月) □時々 □いつも □その他 () ■発生状況 □電源投入時 □BIOS画面表示前 □BIOS起動途中 □OSセットアップ途中 □OS起動途中 □OS起動後 □OS停止途中 □お客様で追加されたデバイス使用時 □特定フリケーション動作時 □その他 () (メーカー、型式 :) (メーカー、名称 :)</p> <p>■各種LED : ■状態表示LED : □英数字表示 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> □消灯 ■STATUS LED状況 : □赤色点灯 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> □消灯 ■ALARM LED状況 : □点灯 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> □消灯 ■DRIVE/STBY LED状況 : □点灯 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> □消灯 ■DRIVE1 STATUS LED状況 : □点灯 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> □消灯 ■DRIVE2 STATUS LED状況 : □点灯 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> □消灯</p>		
<p>■不具合現象(不具合時の対処方法や操作手順等)、ご依頼内容など</p> <p>(調査期間の短縮になりますので現象発生時の写真、スクリーンショット、等の客観的に判別できる情報があれば添付してください。 また修理依頼ではなく動作確認依頼の場合もご記入ください)</p>			
<p>■お客様情報</p> <p>(追加されたデバイス、外部接続機器やBIOS設定変更など、不具合調査に有効な情報がありましたらご記入ください)</p>			
修理時の対応について (お客様ご記入)	修理見積 (要・否)		修理着手 (即日・見積後)
			不具合部品の返却 (要・不要) ※有償対応となります。
	リカバリ (要・否) ※無償修理対応期間外は有償となります。		解体作業写真 (要・否) ※有償対応となります。撮影内容をご指定ください。
<p>ご注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 修理品に本紙を添付の上、上記修理品返却先にご返却ください。 併せてご購入先の販売店にも修理返却のご連絡をお願いします。 弊社から修理見積提出後、1ヶ月以内に修理着手可否をご指示ください。 修理不要時あるいは、ご指示いただけない場合、修理せずお客様に返却させていただきます。その際、調査費用を別途お支払いいただきます。 修理受付については、装置毎の修理期間内と致します。 ただし、修理可能期間を満了していても故障部位によっては修理可能の場合があります。 修理不可の場合でも調査費用のご負担いただきますが、これをご了承いただけた場合は修理受付窓口までご返却ください。 調査・修理の過程でHDD/SSDの記録内容が消える場合がありますので、 バックアップを取ってからご返却ください。 フローラム、データ、記録媒体等の情報は1行にに関する秘密事項は、調査や修理に 必要ない場合は削除してからご返却ください。 故障時の修理は故障部品の交換のみです。 部品改廃等により機能的互換性のある部品との交換になる場合があります。 お客様が弊社以外からご購入されたハードウェアの修理・不具合解析はできません。 無償修理期間内は、不具合部品の返却はできません。 輸出・環境を含めた技術資料の提供は修理可能期間までとなります。 		希望返却先 (送付元と異なる場合ご記入ください) 御住所 : 貴社名 : 御担当名 : TEL : () - (内線 :)	